

中期計画		第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置										
中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.
						本評価	説明					
前文 地方独立行政法人静岡県立病院機構(以下「県立病院機構」という。)は、平成21年度の法人設立以降、県立3病院(県立総合病院、県立こころの医療センター、県立こども病院)を運営し、他の医療機関では対応困難な高度・専門医療等の提供をはじめ、救急医療や災害時医療の提供、公的医療機関への医師派遣など、本県の政策医療を担う重要な役割を果たし、地域医療の確保に貢献してきました。 平成26年度から平成30年度までの第2期中期目標期間においては、県立総合病院において先端医学棟を開棟するなど、医療の質の向上とその提供体制づくりに取り組むとともに、令和元年度から令和5年度までの第3期中期目標期間においては、新型コロナウイルスの感染拡大に対応するため、各病院とともに専用病床を確保するなど、県内の医療提供体制の確保に貢献してきました。 また、経営面においても、設立以降毎年度経常収支黒字を達成しており、健全な病院運営が続いております。 今後も人口減少・少子高齢化の進行や患者の受療行動が変化する中、地域における将来の医療需要を見据えつつ、新興感染症等や大規模災害などの緊急事態が発生した際にも機動的・弾力的に対応できるよう、質が高く効率的で持続可能な医療提供体制を整備するため、地域医療構想や地域包括ケアシステム、医師の働き方改革等の各種施策を一体的に推進していく必要があります。 このような中で、令和6年度から始まる第4期中期目標期間においては、本県の医療政策の方針を定めた静岡県保健医療計画や総務省が策定した公立病院経営強化ガイドラインを踏まえ、県立病院として、継続して本県の政策医療を担う重要な役割を果たし、地域医療の確保に貢献することとし、その機能を強化して、県民のニーズに応え、安全で質の高い医療の提供を図っていく必要があります。また、PDCAサイクルが適切に機能するために、県立病院機構が自主的に定量的目標を策定し、業務運営に取り組む必要があります。 この中期目標は、第4期中期目標期間における県立病院機構の業務運営の目標や方向性を示すものであり、本県の医療の確保や向上のため、県立病院機構が以下の項目に真摯に取り組み、目標が実現されることを強く求めるものであります。	前文 地方独立行政法人静岡県立病院機構(以下「県立病院機構」という。)は、平成21年度の法人設立以降、県立総合病院、県立こころの医療センター、県立こども病院(以下「県立病院」という。)を運営し、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること、地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすことを使命とし、本県の政策医療を担い、効率的、効果的な病院運営に取り組んできました。 平成26年度から平成30年度までの第2期中期計画期間には、県立総合病院の先端医学棟を開棟するなど、県立病院では先進的な医療の提供や医療の更なる質の向上に取り組みました。また、令和元年度から令和5年度までの第3期中期計画期間においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、県と連携し専用病床を確保し医療提供体制を確保するなど県立病院としての使命を果たしてきました。 経営面では、経費の削減努力等により、県から示された中期目標期間を累計した損益計算において経常収支黒字を設立以降の各期間で達成しています。 令和6年度から始まる第4期中期計画期間においては、今後の更なる少子化による人口減少の進行や患者の受療行動の変化に伴う医療需要の変化に対応していくため、国における医療提供体制の改革をはじめ、静岡県保健医療計画や公立病院経営強化ガイドラインを踏まえ、県立病院が求められる役割を果たせるよう取り組みます。 具体的な取組としては、引き続き「がん医療」、「循環器医療」、「救急医療」等の高度で専門的な医療の提供や地域医療の支援に重点を置いて、医療技術の進歩を的確に取り入れ、県民の医療に対する期待に応えるべく、安全で質の高い先進的な医療の提供に積極的に努めます。 県立病院機構は、下記の基本方針に従って中期計画を策定し、県から示された中期目標の達成に向けて全職員が協力して取り組み、県民の信頼と安心を得る病院であり、継続し、本県の医療の確保と向上に貢献していきます。	県立病院機構は、第4期中期計画期間の初年度を迎えるにあたり、引き続き「第一級の病院」、「地域医療支援の中心的機能」など、中期目標において求められている役割を果たしていくことを最優先課題として取り組んでいく。 このため、積極的な人材確保、環境改善及び医療の質の向上、地域医療機関との更なる連携、業務量に基づく収支計画、法人の特色を活かした経営の効率化、将来を見据えた資本整備、第4期中期計画期間を累計した経常収支比率100%の達成を念頭に、令和6年度重点事業、予算・収支計画・資金計画等を以下のとおり定める。	-	-								
1「信頼と根拠に基づく最適な医療を安全に提供すること」を診療の基本姿勢に据え、本県医療の規範となるべく医療の提供に努めること。  2 本県の地域医療を支える最後の砦たることを目指し、他の医療機関では対応困難な高度又は特殊な医療などの政策医療や不採算医療の提供に一層取り組むこと。  3 医師の確保及び育成に努めるとともに、地域医療を担う公的医療機関への医師派遣を行うこと。また、県との協働により、本県の医師確保対策に取り組むこと。	1 科学的根拠に基づく最適な医療を安全に提供し、県民に信頼される「第一級の病院」として、本県医療の規範となる役割を果たす。  2 「地域医療支援の中心的機能」を果たすため、高度・専門・特殊医療、救急・急性期医療等、他の医療機関では対応困難な医療や不採算医療など、県の医療政策に対し積極的に取り組む。  3 教育研修をはじめ、臨床研究機能の充実強化、勤務環境を向上することにより魅力ある病院づくりに努め、優秀な人材の確保と育成及び県との協働による本県の医師確保対策に取り組む。											

	中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.	
							本評価	説明						
	4 様々な領域において医療の質の向上を目指した先駆的な取組に挑戦し、成果を上げること。これらの成果を情報発信し、県民や他の医療機関と共有すること。  5 研究環境の充実により、臨床技術・研究能力の高い医師の確保・育成に努め、地域医療水準の向上に取り組むこと。また、静岡社会健康医学大学院大学との連携や県立総合病院のリサーチサポートセンターの活用などにより、臨床医学や県が推進する社会健康医学などの研究を推進し、新しい医療を創出する研究中核拠点を目指すこと。	4 職員一人一人が医療の質の向上を目指し、先駆的な取組や業務の改革と改善に努め、その成果を情報発信し、県民や他の医療機関との共有を図る。また、全ての職員が職務について高い満足度を持って取り組むことのできる勤務環境の構築に努める。 5 県立総合病院のリサーチサポートセンターを活用し、県立病院機構において臨床研究に取り組み、県内医療水準の向上と医療人材の確保・育成に努める。併せて静岡社会健康医学大学院大学との連携などにより、臨床医学や県が推進する社会健康医学などの研究を推進し、新しい医療を創出する研究中核拠点の構築に取り組む。												
第1	中期目標の期間 令和6年4月1日から令和11年3月31日までの5年間とする。	第1 中期計画の期間 令和6年4月1日から令和11年3月31日までの5年間とする。	- -		- -	- -								
第2	県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する事項  県立病院機構は、定款で定める業務について、質の向上に取り組む、多様化する県民の医療ニーズへの対応に努めること。また、その成果を県民や他の医療機関と共有できるよう、県民視点での情報発信に努めるほか、患者や家族が安心して治療できる環境を整備し、その満足度が高められるよう、創意工夫に取り組むこと。	第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置  県立病院では、県民の医療需要に的確に対応し、安全で質の高い医療の提供を図る。このためには、医療の品質管理が必要である。この医療の質を向上させるため、定量的目標を定め、適切な医療の提供を行い、県立病院にふさわしい優秀な人材の確保と育成、医療に関する調査及び研究、地域への支援、県民の安心、安全を守るための災害等における医療救護体制の整備に努める。	県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置											
1	医療の提供 医療機関として求められる基本的な診療理念や県立病院が担う役割を明確にし、他の医療機関との機能分担や連携のもと、医療の質の向上に努め、患者や家族、地域から信頼される医療を提供すること。	1 医療の提供 県立病院機構の職員は、県立病院が担う役割と責任を認識するとともに、医療機関に求められる基本的な診療理念を理解し、医療の提供に当たってはそれを実践する。												1 医療の提供
1)	基本的な診療理念 診療に当たっては、患者が最良の治療効果を得られるよう、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく最適な医療を患者への十分な説明と同意のもとに安全に提供すること。	(1) 基本的な診療理念 診療に当たっては、患者自らが選択し納得できるよう、患者への十分な説明など、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく医療を安全に提供するため、医療技術の向上、チーム医療の推進、医療安全対策の充実などに取り組む。												(1) 基本的な診療理念 各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ①・患者への十分な説明と同意の徹底 ②・医療技術の向上 ③・チーム医療の推進 ④・医療安全対策の充実 ⑤・患者満足度(入院・外来)の向上

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																																																																																																																																																																																																								
						本評価	説明																																																																																																																																																																																																																																																													
			5	③チーム医療を推進し、多職種による病院横断的な活動を通して、質の高い医療を提供する。	<div>各病院</div> <div>チーム医療の推進（カンファレンスの開催）</div> <div>6年度末</div> <table><tr><th>区 分</th><th>チーム名</th><th>開催頻度</th><th>主要メンバー</th></tr><tr><td rowspan="14">総 合</td><td>栄養サポートチーム</td><td>2回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師</td></tr><tr><td>感染制御チーム</td><td>院内52回 院外4回/年</td><td>医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師</td></tr><tr><td>抗菌薬適正使用支援チーム</td><td>毎日</td><td>医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師</td></tr><tr><td>褥瘡対策チーム</td><td>1回/月</td><td>医師、看護師、栄養士</td></tr><tr><td>呼吸ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、臨床工学技師、理学療法士</td></tr><tr><td>認知症ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師</td></tr><tr><td>精神科リエゾンチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師</td></tr><tr><td>緩和ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士</td></tr><tr><td>糖尿病透析予防診療チーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、栄養士</td></tr><tr><td>排尿ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師</td></tr><tr><td>FLS(透析リエゾンサービス)チーム</td><td>1回/3ヶ月</td><td>医師、看護師、理学療法士、放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、社会福祉士、栄養士</td></tr><tr><td>嚥下対策チーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、言語聴覚士、栄養士</td></tr><tr><td>要介護患者支援管理チーム</td><td>第1・3火木曜日</td><td>医師、看護師、理学療法士、社会福祉士</td></tr><tr><td>慢性腎臓病透析予防診療チーム</td><td>随時</td><td>医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士</td></tr><tr><td rowspan="4">こころ</td><td>栄養サポートチーム</td><td>週1回</td><td>医師・看護師・薬剤師・栄養士</td></tr><tr><td>感染防止対策チーム</td><td>院内週1回 院外5回/年</td><td>医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師</td></tr><tr><td>褥瘡対策チーム</td><td>1回/月</td><td>医師・看護師、薬剤師、栄養士</td></tr><tr><td>ACT（包括型地域生活支援プログラム）</td><td>随時</td><td>医師・看護師・精神保健福祉士等</td></tr><tr><td rowspan="5">こども</td><td>栄養サポートチーム</td><td>週1回</td><td>医師・看護師・栄養士等</td></tr><tr><td>感染防止対策チーム</td><td>院内52回 院外4回/年</td><td>医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師</td></tr><tr><td>緩和ケアチーム</td><td>1回/週</td><td>医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士</td></tr><tr><td>褥瘡対策チーム</td><td>1回/月</td><td>医師・看護師</td></tr><tr><td>リハビリテーション</td><td>適宜（週1回程度）</td><td>医師・看護師・理学療法士等</td></tr></table> <div>チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況（単位：千円）</div> <table><tr><th>病院</th><th>項目</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td rowspan="15">総 合</td><td>栄養サポートチーム</td><td>904</td><td>1,246</td><td>1,092</td><td>879</td><td>1,040</td><td>828</td></tr><tr><td>感染制御チーム</td><td>92,879</td><td>86,309</td><td>86,701</td><td>123,703</td><td>132,299</td><td>140,094</td></tr><tr><td>抗菌薬適正使用支援チーム</td><td>19,122</td><td>17,563</td><td>17,643</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>褥瘡対策チーム</td><td>2,085</td><td>755</td><td>1,630</td><td>2,545</td><td>1,160</td><td>1,715</td></tr><tr><td>呼吸ケアチーム</td><td>92</td><td>143</td><td>224</td><td>159</td><td>134</td><td>158</td></tr><tr><td>認知症ケアチーム</td><td>4,456</td><td>4,445</td><td>4,287</td><td>4,313</td><td>4,514</td><td>4,877</td></tr><tr><td>精神科リエゾンチーム</td><td>580</td><td>772</td><td>4,164</td><td>3,852</td><td>3,483</td><td>2,052</td></tr><tr><td>緩和ケアチーム</td><td>20,389</td><td>17,965</td><td>20,600</td><td>18,704</td><td>16,206</td><td>15,295</td></tr><tr><td>糖尿病透析予防診療チーム</td><td>998</td><td>431</td><td>235</td><td>168</td><td>294</td><td>182</td></tr><tr><td>排尿ケアチーム</td><td>212</td><td>388</td><td>536</td><td>350</td><td>500</td><td>422</td></tr><tr><td>FLS(透析リエゾンサービス)チーム</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1,360</td><td>1,970</td></tr><tr><td>嚥下対策チーム</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>517</td><td>633</td></tr><tr><td>要介護患者支援管理チーム</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>84</td><td>103</td></tr><tr><td>慢性腎臓病透析予防診療チーム</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>348</td></tr><tr><td>計</td><td>141,717</td><td>130,017</td><td>137,112</td><td>154,673</td><td>161,591</td><td>168,675</td></tr><tr><td rowspan="2">こころ</td><td>感染防止対策チーム</td><td>368</td><td>290</td><td>347</td><td>344</td><td>515</td><td>637</td></tr><tr><td>計</td><td>368</td><td>290</td><td>347</td><td>344</td><td>515</td><td>637</td></tr><tr><td rowspan="5">こども</td><td>栄養サポートチーム</td><td>8</td><td>40</td><td>20</td><td>34</td><td>176</td><td>136</td></tr><tr><td>感染防止対策チーム</td><td>27,460</td><td>25,090</td><td>23,660</td><td>29,540</td><td>2,741</td><td>724</td></tr><tr><td>褥瘡対策チーム</td><td>2,535</td><td>2,550</td><td>2,470</td><td>1,280</td><td>1,575</td><td>105</td></tr><tr><td>緩和ケアチーム</td><td>136</td><td>590</td><td>310</td><td>340</td><td>728</td><td>949</td></tr><tr><td>リハビリテーション</td><td>58,836</td><td>59,137</td><td>72,397</td><td>71,689</td><td>75,490</td><td>86,681</td></tr><tr><td>計</td><td>88,975</td><td>87,407</td><td>98,857</td><td>102,883</td><td>80,710</td><td>88,595</td></tr></table>	区 分	チーム名	開催頻度	主要メンバー	総 合	栄養サポートチーム	2回/週	医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師	感染制御チーム	院内52回 院外4回/年	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師	抗菌薬適正使用支援チーム	毎日	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師	褥瘡対策チーム	1回/月	医師、看護師、栄養士	呼吸ケアチーム	1回/週	医師、看護師、臨床工学技師、理学療法士	認知症ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師	精神科リエゾンチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士	糖尿病透析予防診療チーム	1回/週	医師、看護師、栄養士	排尿ケアチーム	1回/週	医師、看護師	FLS(透析リエゾンサービス)チーム	1回/3ヶ月	医師、看護師、理学療法士、放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、社会福祉士、栄養士	嚥下対策チーム	1回/週	医師、看護師、言語聴覚士、栄養士	要介護患者支援管理チーム	第1・3火木曜日	医師、看護師、理学療法士、社会福祉士	慢性腎臓病透析予防診療チーム	随時	医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士	こころ	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護師・薬剤師・栄養士	感染防止対策チーム	院内週1回 院外5回/年	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護師、薬剤師、栄養士	ACT（包括型地域生活支援プログラム）	随時	医師・看護師・精神保健福祉士等	こども	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護師・栄養士等	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護師	リハビリテーション	適宜（週1回程度）	医師・看護師・理学療法士等	病院	項目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	総 合	栄養サポートチーム	904	1,246	1,092	879	1,040	828	感染制御チーム	92,879	86,309	86,701	123,703	132,299	140,094	抗菌薬適正使用支援チーム	19,122	17,563	17,643	-	-	-	褥瘡対策チーム	2,085	755	1,630	2,545	1,160	1,715	呼吸ケアチーム	92	143	224	159	134	158	認知症ケアチーム	4,456	4,445	4,287	4,313	4,514	4,877	精神科リエゾンチーム	580	772	4,164	3,852	3,483	2,052	緩和ケアチーム	20,389	17,965	20,600	18,704	16,206	15,295	糖尿病透析予防診療チーム	998	431	235	168	294	182	排尿ケアチーム	212	388	536	350	500	422	FLS(透析リエゾンサービス)チーム					1,360	1,970	嚥下対策チーム					517	633	要介護患者支援管理チーム					84	103	慢性腎臓病透析予防診療チーム						348	計	141,717	130,017	137,112	154,673	161,591	168,675	こころ	感染防止対策チーム	368	290	347	344	515	637	計	368	290	347	344	515	637	こども	栄養サポートチーム	8	40	20	34	176	136	感染防止対策チーム	27,460	25,090	23,660	29,540	2,741	724	褥瘡対策チーム	2,535	2,550	2,470	1,280	1,575	105	緩和ケアチーム	136	590	310	340	728	949	リハビリテーション	58,836	59,137	72,397	71,689	75,490	86,681	計	88,975	87,407	98,857	102,883	80,710	88,595	A	SARS-CoV-2(以下、「新型コロナウイルス」という。)をはじめとした各種感染症への対応のため、各部署の医師、看護師等の多職種による院内感染対策のチームが、感染防止の取組、情報収集などを行っている。 また、総合病院では令和元年度の精神科医師の着任以降、緩和ケアチーム及び精神科リエゾンチームによる診療報酬上の評価加算が高い水準で推移しており、収益面においても大きく貢献している。 精神科リエゾンチーム及び認知症ケアチームが中心となって認知症や精神科患者の身体合併症等に対して適切な医療を提供できる体制を整備し、精神疾患及び身体疾患への専門治療を同時に提供することが可能となっている。 令和6年度診療報酬改定では、「慢性腎臓病透析予防指導管理料」が新設された。慢性腎臓病患者に対して多職種連携による透析予防の管理を行うことについて評価されたものであり、専任の医師、看護師、栄養士、理学療法士、薬剤師から構成されるチームを新設し、その診療体制を整えた。	・各病院とも多職種によるチーム医療が推進されており、患者の状況に的確に対応できる体制が確保されている。 ・チーム医療による診療報酬上の評価加算も堅調に増加しており、収益面においても貢献している。				5
区 分	チーム名	開催頻度	主要メンバー																																																																																																																																																																																																																																																																	
総 合	栄養サポートチーム	2回/週	医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																																	
	感染制御チーム	院内52回 院外4回/年	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																																	
	抗菌薬適正使用支援チーム	毎日	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																																	
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師、看護師、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																	
	呼吸ケアチーム	1回/週	医師、看護師、臨床工学技師、理学療法士																																																																																																																																																																																																																																																																	
	認知症ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師																																																																																																																																																																																																																																																																	
	精神科リエゾンチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師																																																																																																																																																																																																																																																																	
	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																	
	糖尿病透析予防診療チーム	1回/週	医師、看護師、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																	
	排尿ケアチーム	1回/週	医師、看護師																																																																																																																																																																																																																																																																	
	FLS(透析リエゾンサービス)チーム	1回/3ヶ月	医師、看護師、理学療法士、放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、社会福祉士、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																	
	嚥下対策チーム	1回/週	医師、看護師、言語聴覚士、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																	
	要介護患者支援管理チーム	第1・3火木曜日	医師、看護師、理学療法士、社会福祉士																																																																																																																																																																																																																																																																	
	慢性腎臓病透析予防診療チーム	随時	医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士																																																																																																																																																																																																																																																																	
こころ	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護師・薬剤師・栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																	
	感染防止対策チーム	院内週1回 院外5回/年	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																																	
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護師、薬剤師、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																	
	ACT（包括型地域生活支援プログラム）	随時	医師・看護師・精神保健福祉士等																																																																																																																																																																																																																																																																	
こども	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護師・栄養士等																																																																																																																																																																																																																																																																	
	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																																	
	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																	
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護師																																																																																																																																																																																																																																																																	
	リハビリテーション	適宜（週1回程度）	医師・看護師・理学療法士等																																																																																																																																																																																																																																																																	
病院	項目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																																																																																																													
総 合	栄養サポートチーム	904	1,246	1,092	879	1,040	828																																																																																																																																																																																																																																																													
	感染制御チーム	92,879	86,309	86,701	123,703	132,299	140,094																																																																																																																																																																																																																																																													
	抗菌薬適正使用支援チーム	19,122	17,563	17,643	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																													
	褥瘡対策チーム	2,085	755	1,630	2,545	1,160	1,715																																																																																																																																																																																																																																																													
	呼吸ケアチーム	92	143	224	159	134	158																																																																																																																																																																																																																																																													
	認知症ケアチーム	4,456	4,445	4,287	4,313	4,514	4,877																																																																																																																																																																																																																																																													
	精神科リエゾンチーム	580	772	4,164	3,852	3,483	2,052																																																																																																																																																																																																																																																													
	緩和ケアチーム	20,389	17,965	20,600	18,704	16,206	15,295																																																																																																																																																																																																																																																													
	糖尿病透析予防診療チーム	998	431	235	168	294	182																																																																																																																																																																																																																																																													
	排尿ケアチーム	212	388	536	350	500	422																																																																																																																																																																																																																																																													
	FLS(透析リエゾンサービス)チーム					1,360	1,970																																																																																																																																																																																																																																																													
	嚥下対策チーム					517	633																																																																																																																																																																																																																																																													
	要介護患者支援管理チーム					84	103																																																																																																																																																																																																																																																													
	慢性腎臓病透析予防診療チーム						348																																																																																																																																																																																																																																																													
	計	141,717	130,017	137,112	154,673	161,591	168,675																																																																																																																																																																																																																																																													
こころ	感染防止対策チーム	368	290	347	344	515	637																																																																																																																																																																																																																																																													
	計	368	290	347	344	515	637																																																																																																																																																																																																																																																													
こども	栄養サポートチーム	8	40	20	34	176	136																																																																																																																																																																																																																																																													
	感染防止対策チーム	27,460	25,090	23,660	29,540	2,741	724																																																																																																																																																																																																																																																													
	褥瘡対策チーム	2,535	2,550	2,470	1,280	1,575	105																																																																																																																																																																																																																																																													
	緩和ケアチーム	136	590	310	340	728	949																																																																																																																																																																																																																																																													
	リハビリテーション	58,836	59,137	72,397	71,689	75,490	86,681																																																																																																																																																																																																																																																													
計	88,975	87,407	98,857	102,883	80,710	88,595																																																																																																																																																																																																																																																														



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																	
						本評価	説明																																																																						
			6	④医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通して院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	3病院で、以下のとおり研修等を実施し安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。  医療安全対策、院内感染対策研修等 <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="6">集団感染数(件)</th><th colspan="4">6年度</th></tr><tr><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>院内感染対策研修 回数(回)</th><th>参加者(人)</th><th>医療安全対策研修 回数(回)</th><th>参加者(人)</th></tr><tr><td>総 合</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>24</td><td>12</td><td>10</td><td>2</td><td>2,732</td><td>12</td><td>7,333</td></tr><tr><td>こころ</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>3</td><td>622</td><td>6</td><td>825</td></tr><tr><td>こども</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>3</td><td>3</td><td>9</td><td>9</td><td>1,600</td><td>12</td><td>2,569</td></tr><tr><td>計</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>27</td><td>17</td><td>19</td><td>14</td><td>4,954</td><td>30</td><td>10,727</td></tr></table> ※院内感染対策研修・医療安全対策研修ともに法定回数は2回	区 分	集団感染数(件)						6年度				元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	院内感染対策研修 回数(回)	参加者(人)	医療安全対策研修 回数(回)	参加者(人)	総 合	1	0	1	24	12	10	2	2,732	12	7,333	こころ	0	0	0	0	2	0	3	622	6	825	こども	0	1	0	3	3	9	9	1,600	12	2,569	計	1	1	1	27	17	19	14	4,954	30	10,727	A	各病院では、感染対策委員会や医療安全委員会を行う他、研修についても法定回数を上回る実績を積んでいる等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。 令和6年度も、新型コロナウイルス感染症の院内感染対策として、感染対策室を中心としたチームが感染防止に関する取組や情報収集などを行い、県との調整のうえ患者の受入を適切に行っている。 総合病院の医療安全研修においては、年2回以上の出席率100%を目標に取り組みを強化・継続し、結果R3年度以降出席率100%を達成した。	・院内感染対策・医療安全対策研修については、毎年、法定回数(年2回)を上回る件数を実施しており、令和6年度も引き続き同程度の研修実施を予定している。研修の継続的な実施と高い出席率の維持により、安全・安心な医療の提供に関する職員への意識付けが行われている。				6
				区 分	集団感染数(件)						6年度																																																																		
					元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	院内感染対策研修 回数(回)	参加者(人)	医療安全対策研修 回数(回)	参加者(人)																																																															
総 合	1	0	1	24	12	10	2	2,732	12	7,333																																																																			
こころ	0	0	0	0	2	0	3	622	6	825																																																																			
こども	0	1	0	3	3	9	9	1,600	12	2,569																																																																			
計	1	1	1	27	17	19	14	4,954	30	10,727																																																																			
			7	④⑤固定チームナーシングによる看護提供を行うことで、看護の継続性を図り、患者の安心を高める。	「患者様の声」の推移(看護師) (単位:件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>ご意見</td><td>81</td><td>53</td><td>79</td><td>85</td><td>67</td><td>41</td></tr><tr><td>感謝</td><td>40</td><td>34</td><td>37</td><td>44</td><td>38</td><td>42</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	ご意見	81	53	79	85	67	41	感謝	40	34	37	44	38	42	A	令和6年度の看護師に対する「患者様の声」の件数は、ご意見の数が大幅に減少し、感謝の件数のご意見の件数より上回った。 今後も寄せられた意見を参考に質の高い看護を提供できるよう努める。	・「固定チームナーシング方式」等による患者との信頼関係の構築のもと、患者に寄り添った質の高い看護だけでなく、安心して治療できる環境の提供が可能となると考えられる。 ・「患者様の声」は、例年「感謝」が「ご意見」を下回る中、令和6年度上では「感謝」が「ご意見」を上回っており、患者との良好な関係が構築できている。				7																																												
				区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																			
				ご意見	81	53	79	85	67	41																																																																			
感謝	40	34	37	44	38	42																																																																							
		8	⑤患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者満足度調査を行い、患者満足度の改善につなげる。	患者満足度調査 <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>総 合</td><td>回答者数 424 入院(%) 98.0 回答者数 405 外来(%) 93.6 回答者数 156</td><td>408 98.2 1,010 94.3 41</td><td>364 97.6 1,095 95.6 47</td><td>303 99.0 999 95.9 78</td><td>405 98.4 1,027 94.7 44</td><td>383 97.6 1016 95.6 16</td><td>— 90以上 1016 85以上 —</td></tr><tr><td>こころ</td><td>— — — — —</td><td>— — — — —</td><td>— — — — —</td><td>— — — — —</td><td>— — — — —</td><td>— — — — —</td><td>— — — — —</td></tr><tr><td>こども</td><td>回答者数 110 入院(%) 99.0 回答者数 176</td><td>119 95.3 218</td><td>144 100.0 212</td><td>101 95.9 150</td><td>64 93.5 137</td><td>84 97.6 223</td><td>— 90以上 223</td></tr><tr><td></td><td>外来(%) 98.1</td><td>96.5</td><td>97.3</td><td>100.0</td><td>97.1</td><td>96.4</td><td>90以上</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	総 合	回答者数 424 入院(%) 98.0 回答者数 405 外来(%) 93.6 回答者数 156	408 98.2 1,010 94.3 41	364 97.6 1,095 95.6 47	303 99.0 999 95.9 78	405 98.4 1,027 94.7 44	383 97.6 1016 95.6 16	— 90以上 1016 85以上 —	こころ	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	こども	回答者数 110 入院(%) 99.0 回答者数 176	119 95.3 218	144 100.0 212	101 95.9 150	64 93.5 137	84 97.6 223	— 90以上 223		外来(%) 98.1	96.5	97.3	100.0	97.1	96.4	90以上	A	各病院の満足度は高い水準を維持しており、令和6年度についても各病院で患者満足度の向上に努めた。	・患者満足度調査を毎年実施し、調査結果をもとに患者サービスの向上につながるよう、きめ細かい改善策が講じられている。 ・回答者数が、総合は過去5年の平均程度、ほかはやや少ないものの、結果については3病院とも目標値を超えている。	✓	✓	○	8																										
			区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																			
			総 合	回答者数 424 入院(%) 98.0 回答者数 405 外来(%) 93.6 回答者数 156	408 98.2 1,010 94.3 41	364 97.6 1,095 95.6 47	303 99.0 999 95.9 78	405 98.4 1,027 94.7 44	383 97.6 1016 95.6 16	— 90以上 1016 85以上 —																																																																			
こころ	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —	— — — — —																																																																						
こども	回答者数 110 入院(%) 99.0 回答者数 176	119 95.3 218	144 100.0 212	101 95.9 150	64 93.5 137	84 97.6 223	— 90以上 223																																																																						
	外来(%) 98.1	96.5	97.3	100.0	97.1	96.4	90以上																																																																						
2) 県立病院が担う役割	(2) 県立病院が担う役割	(2) 県立病院が担う役割	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																	
	【目標値】 ・紹介率(総合、こころ、こども) ・逆紹介率(総合、こころ、こども)	【目標値】 ・紹介率(総合、こころ、こども) ・逆紹介率(総合、こころ、こども)	9	①かかりつけ医との連携により、機能分担体制を推進する。 地域の医療機関との連携強化を図る。	紹介割合・逆紹介割合実績 (単位:%,%) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>紹介割合</td><td>—</td><td>—</td><td>92.2</td><td>93.8</td><td>89.1</td><td>94.2</td><td>80以上</td></tr><tr><td>逆紹介割合</td><td>—</td><td>—</td><td>82.6</td><td>82.0</td><td>81.4</td><td>92.2</td><td>70以上</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	紹介割合	—	—	92.2	93.8	89.1	94.2	80以上	逆紹介割合	—	—	82.6	82.0	81.4	92.2	70以上	A	紹介先、逆紹介先となる地域のクリニックとの情報共有、広報及び訪問等を積極的に行って連携強化に努めた。	・紹介割合及び逆紹介割合共に、地域医療支援病院の承認基準である紹介率80%を大きく上回っており、県内医療機関の中核病院として、地域の医療機関との連携が積極的に図られている。	✓	✓	○	9																																									
				区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																		
				紹介割合	—	—	92.2	93.8	89.1	94.2	80以上																																																																		
逆紹介割合	—	—	82.6	82.0	81.4	92.2	70以上																																																																						
①地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進する。	紹介率・逆紹介率実績 (単位:%) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>紹介率</td><td>56.1</td><td>51.2</td><td>45.6</td><td>53.6</td><td>54.8</td><td>55.1</td><td>50以上</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>33.7</td><td>30.1</td><td>25.2</td><td>26.9</td><td>27.0</td><td>27.0</td><td>30以上</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	紹介率	56.1	51.2	45.6	53.6	54.8	55.1	50以上	逆紹介率	33.7	30.1	25.2	26.9	27.0	27.0	30以上	B	紹介率は目標値を上回り、逆紹介率は目標値を下回った。 今後も紹介先、逆紹介先となる他の医療機関や公的機関との連携を強めながら、当院への新規患者獲得を進めていく。	・紹介率は目標値を上回ったが、逆紹介率は目標値を下回った。 ・こころの医療センターでは、他の医療機関では対応が困難な患者を受け入れており、継続して治療続ける患者が多く、逆紹介率が伸びにくい。 ・引き続き精神科患者の地域移行に努め、高度精神科医療を担う県立病院としての役割を果たすことが必要である。	✓	✓	△	10																																													
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																						
紹介率	56.1	51.2	45.6	53.6	54.8	55.1	50以上																																																																						
逆紹介率	33.7	30.1	25.2	26.9	27.0	27.0	30以上																																																																						
①地域の医療機関との機能分担を推進するため、紹介予約制を維持するとともに、積極的に逆紹介を行う。	紹介割合・逆紹介割合実績 (単位:%,%) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>紹介割合</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>130.1</td><td>100.9</td><td>97.7</td><td>90以上</td></tr><tr><td>逆紹介割合</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>36.3</td><td>34.6</td><td>36.2</td><td>30以上</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	紹介割合	—	—	—	130.1	100.9	97.7	90以上	逆紹介割合	—	—	—	36.3	34.6	36.2	30以上	A	令和6年度は、紹介割合、逆紹介割合ともに目標値を上回った。 今後も、紹介予約制を維持するとともに、積極的に逆紹介を行い、地域の医療機関との機能分担を推進し、連携の強化を図っていく。	・紹介割合は、令和6年度は減少傾向にあるものの、地域医療支援病院の承認基準である紹介率80%を大きく上回っており、県内小児医療の中核病院として、地域の医療機関との連携が積極的に図られている。 ・逆紹介割合は、こども病院に重篤な患者が多く、継続して診療を続ける患者が多い中、令和6年度上半期時点で、目標値を上回っている。	✓	✓	○	11																																													
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																						
紹介割合	—	—	—	130.1	100.9	97.7	90以上																																																																						
逆紹介割合	—	—	—	36.3	34.6	36.2	30以上																																																																						

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																																																								
						本評価	説明																																																																																																													
			12	②心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頭部骨折等の地域連携クリニカルパスを活用し、かかりつけ医やリハビリテーション病院との機能分担を推進する。	総合 <table><tr><td colspan="7">地域連携クリニカルパス</td></tr><tr><td>区分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>脳卒中</td><td>83</td><td>102</td><td>92</td><td>49</td><td>8</td><td>13</td></tr><tr><td>大腿骨頭部骨折</td><td>82</td><td>104</td><td>90</td><td>85</td><td>82</td><td>112</td></tr><tr><td>胃がん</td><td>55</td><td>51</td><td>55</td><td>54</td><td>40</td><td>46</td></tr><tr><td>大腸がん</td><td>122</td><td>102</td><td>135</td><td>138</td><td>127</td><td>125</td></tr><tr><td>乳がん</td><td>128</td><td>102</td><td>116</td><td>103</td><td>108</td><td>110</td></tr><tr><td>前立腺がん</td><td>16</td><td>20</td><td>35</td><td>43</td><td>45</td><td>31</td></tr><tr><td>虚血性心疾患</td><td>73</td><td>67</td><td>33</td><td>32</td><td>27</td><td>32</td></tr><tr><td>心房細動</td><td>4</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td><td>3</td></tr><tr><td>慢性腎臓病</td><td>40</td><td>29</td><td>25</td><td>31</td><td>30</td><td>16</td></tr><tr><td>肺がん</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>肝がん</td><td>-</td><td>-</td><td>2</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>潰瘍性大腸炎</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>605</td><td>578</td><td>585</td><td>537</td><td>468</td><td>489</td></tr></table>	地域連携クリニカルパス							区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	脳卒中	83	102	92	49	8	13	大腿骨頭部骨折	82	104	90	85	82	112	胃がん	55	51	55	54	40	46	大腸がん	122	102	135	138	127	125	乳がん	128	102	116	103	108	110	前立腺がん	16	20	35	43	45	31	虚血性心疾患	73	67	33	32	27	32	心房細動	4	1	2	1	0	3	慢性腎臓病	40	29	25	31	30	16	肺がん	2	0	0	0	0	0	肝がん	-	-	2	0	1	0	潰瘍性大腸炎	-	-	-	1	0	1	計	605	578	585	537	468	489	A	令和6年度も、地域の医療機関等との連携により、地域連携クリニカルパスの適用を推進し、円滑な運用に努めた。				12
地域連携クリニカルパス																																																																																																																				
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																														
脳卒中	83	102	92	49	8	13																																																																																																														
大腿骨頭部骨折	82	104	90	85	82	112																																																																																																														
胃がん	55	51	55	54	40	46																																																																																																														
大腸がん	122	102	135	138	127	125																																																																																																														
乳がん	128	102	116	103	108	110																																																																																																														
前立腺がん	16	20	35	43	45	31																																																																																																														
虚血性心疾患	73	67	33	32	27	32																																																																																																														
心房細動	4	1	2	1	0	3																																																																																																														
慢性腎臓病	40	29	25	31	30	16																																																																																																														
肺がん	2	0	0	0	0	0																																																																																																														
肝がん	-	-	2	0	1	0																																																																																																														
潰瘍性大腸炎	-	-	-	1	0	1																																																																																																														
計	605	578	585	537	468	489																																																																																																														
			13	③④地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。	各病院 <table><tr><td colspan="7">ネットワーク実績</td></tr><tr><td>区分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>開示施設数</td><td>16</td><td>19</td><td>19</td><td>20</td><td>20</td><td>20</td></tr><tr><td>開示件数(累計)</td><td>33,400</td><td>38,366</td><td>44,142</td><td>51,645</td><td>59,871</td><td>67,764</td></tr><tr><td>開示件数(新規)</td><td>4,668</td><td>4,966</td><td>5,776</td><td>7,503</td><td>8,226</td><td>7,893</td></tr><tr><td>参照施設数</td><td>118</td><td>123</td><td>129</td><td>129</td><td>123</td><td>116</td></tr><tr><td>病院</td><td>13</td><td>15</td><td>16</td><td>16</td><td>16</td><td>17</td></tr><tr><td>診療所</td><td>72</td><td>73</td><td>77</td><td>78</td><td>76</td><td>72</td></tr><tr><td>保険薬局</td><td>25</td><td>29</td><td>31</td><td>31</td><td>27</td><td>24</td></tr><tr><td>訪問看護ステーション</td><td>7</td><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td></tr><tr><td>介護福祉施設</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table> 「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。	ネットワーク実績							区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	開示施設数	16	19	19	20	20	20	開示件数(累計)	33,400	38,366	44,142	51,645	59,871	67,764	開示件数(新規)	4,668	4,966	5,776	7,503	8,226	7,893	参照施設数	118	123	129	129	123	116	病院	13	15	16	16	16	17	診療所	72	73	77	78	76	72	保険薬局	25	29	31	31	27	24	訪問看護ステーション	7	5	4	3	3	2	介護福祉施設	1	1	1	1	1	1	A	医療機関を標的としたサイバー攻撃が発生していることから、開示施設と協力して、よりセキュリティが強化された新しいVPNサービスへの移行を行うなど、ふじのくにねっとのセキュリティ対策に努めた。				13																												
ネットワーク実績																																																																																																																				
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																														
開示施設数	16	19	19	20	20	20																																																																																																														
開示件数(累計)	33,400	38,366	44,142	51,645	59,871	67,764																																																																																																														
開示件数(新規)	4,668	4,966	5,776	7,503	8,226	7,893																																																																																																														
参照施設数	118	123	129	129	123	116																																																																																																														
病院	13	15	16	16	16	17																																																																																																														
診療所	72	73	77	78	76	72																																																																																																														
保険薬局	25	29	31	31	27	24																																																																																																														
訪問看護ステーション	7	5	4	3	3	2																																																																																																														
介護福祉施設	1	1	1	1	1	1																																																																																																														
3) 県立病院が重点的に取り組む医療	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療	-	-	-		-	-																																																																																																												
県立総合病院においては、中核的医療を行う基幹病院として、先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供すること。また、高度救命救急センターの運用による広範囲熱傷等の特殊疾病患者の受入れ等、高度救急医療を継続して提供するほか、広域的な救急医療の提供への対応を図ること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床稼働率 90%以上、入院患者満足度 90%以上、外来患者満足度 85%以上の達成を目指すこと。 県立こころの医療センターにおいては、精神科救急・急性期医療の提供や他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図るほか、近年増加している認知症や依存症など多様な精神疾患への対応、より良い療養環境の整備や早期入院・早期社会復帰を支援する医療提供体制の充実・強化に努めること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床稼働率 85%以上、外来患者満足度 85%以上の達成を目指すこと。	県が掲げる6疾病6事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即した的確な医療を提供する。特に、全国的な課題とされている救急医療や急性期医療の充実に重点的に取り組む。	各県立病院は、県が求める政策医療を念頭に、それぞれの特性を生かし、以下の医療に重点的に取り組む。	-	-	-		-	-																																																																																																												
	ア 循環器疾患・がんについては、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	-	-	-		-	-																																																																																																												
	イ 周産期医療における産科合併症、脳卒中中等産科以外の疾患による合併症及び小児から成人まで精神疾患を持つ患者に対する継続的治療、精神科患者の身体合併症や依存症など多様な精神疾患については、各県立病院が連携して取り組む。	イ 周産期医療における産科合併症、脳卒中中等産科以外の疾患による合併症及び小児から成人まで精神疾患を持つ患者に対する継続的治療、精神科患者の身体合併症や依存症など多様な精神疾患については、各県立病院が連携して取り組む。	-	-	-		-	-																																																																																																												
	なお、中期目標期間の各事業年度において、病床稼働率 75%以上、入院患者満足度 90%以上、外来患者満足度 90%以上の達成を目指すこと。 さらに、県立3病院は、新型コロナウイルス感染症等の新興感染症に備え、平時から感染拡大時を想定した体制の確保を進めるとともに、結核、エイズ等のその他の感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療等を提供すること。また、認知症をはじめとした精神科患者の身体合併症、依存症など多様な精神疾患、周産期医療における産科合併症以外の合併症及び二次的障害を含む発達障害など、一病院では対応が困難な分野においては、県立3病院のそれぞれの特性を活かし、相互に連携を取り、適切な対応を図ること。 その他、移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題に取り組む。今後の疾病構造や県民の医療ニーズの変化等に対応し、県が求める政策医療に協力すること。また、医療施設や機器の整備については計画的に実施するとともに、県民の医療ニーズの変化や医療技術の進展に応じ、機動的な対応を行うこと。		14	周産期医療、精神科患者の身体合併症、認知症に対して、機構内3病院が連携し、より適切な医療の提供を行う。	各病院 <table><tr><td colspan="7">児童の措置入院等、こども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。</td></tr><tr><td colspan="7">周産期医療における搬送実績</td></tr><tr><td>区分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>こども→総合</td><td>7</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>総合→こども</td><td>13</td><td>13</td><td>9</td><td>9</td><td>6</td><td>8</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">こころの医療センターから総合病院への身体合併症による搬送件数</td></tr><tr><td>区分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>こころ→総合</td><td>6</td><td>4</td><td>8</td><td>8</td><td>12</td><td>22</td></tr></table>	児童の措置入院等、こども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。							周産期医療における搬送実績							区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	こども→総合	7	3	3	2	2	1	総合→こども	13	13	9	9	6	8	こころの医療センターから総合病院への身体合併症による搬送件数							区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	こころ→総合	6	4	8	8	12	22	A	3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制等病院間の連携協力体制を構築している。 総合病院に常勤の精神科医師を4名配置し、精神科医療体制の構築に向けた連携を実施しており、精神科患者の身体合併症に対応した病棟を運用している。 こころの医療センターの入院患者で身体合併症のある持つ患者の総合病院への搬送は22件行われており、同一機構内の病院同士の連携が図られた。 こども病院から総合病院に母体搬送が行われるなど、同一法人のメリットを活かし、搬送時のスムーズな医師の応援派遣や設備の有効活用を図った。	・精神科患者における身体合併症や、周産期医療における合併症への対応など、3病院の各特性を活かした相互連携が図られているほか、こども病院から総合病院へ母体搬送、医師の応援派遣、設備の相互利用といった、同一法人の利点が活かされている。 ・こころの医療センターから総合病院への身体合併症による搬送件数は、総合病院の精神身体合併症病棟設置の効果もあり、前年度実績を大きく上回っている。 ・精神身体合併症病棟の運営等にあたっては、これまでの精神科医師の配置がチーム医療等の各方面に及ぼした効果等も十分に分析の上、機構3病院の連携体制の更なる強化が進むことを期待する。  (参考) ・精神科については、第3期中期目標期間において、総合病院に、こころの医療センターとの兼務となる者を含む精神科医(5名程度)を配置し、精神科リイソナーチーム、認知症ケアチーム、緩和ケアチームに参画するなど、機構3病院で連携して重篤な身体合併症患者の受入れのための体制整備を行い、令和5年度には総合病院に精神身体合併症病棟を設置した。	✓	○	14																																																	
児童の措置入院等、こども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。																																																																																																																				
周産期医療における搬送実績																																																																																																																				
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																														
こども→総合	7	3	3	2	2	1																																																																																																														
総合→こども	13	13	9	9	6	8																																																																																																														
こころの医療センターから総合病院への身体合併症による搬送件数																																																																																																																				
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																														
こころ→総合	6	4	8	8	12	22																																																																																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																																																																																																																							
						本評価	説明																																																																																																																																																																												
	ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。	ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。	15	総合・こども	(総合) 結核病棟は50床で運用している。 エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。 <table><tr><td colspan="7">(単位：人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>エイズ</td><td></td><td></td><td>非公開</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>結 核</td><td>92</td><td>95</td><td>85</td><td>48</td><td>54</td><td>59</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">(単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>腎移植</td><td>17</td><td>12</td><td>10</td><td>13</td><td>12</td><td>10</td></tr><tr><td>造血幹細胞移植</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>14</td><td>16</td><td>15</td></tr><tr><td>強角膜片作成</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>34</td><td>26</td><td>22</td><td>29</td><td>29</td><td>25</td></tr></table> (こども) ・腎臓移植は、令和2年度以降は行われていない。 造血幹細胞移植実績 <table><tr><td colspan="7">(単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>骨髄移植</td><td>2</td><td>8</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>5</td></tr><tr><td>臍帯血</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td></tr><tr><td>自家末梢血</td><td>4</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td><td>2</td><td>6</td></tr><tr><td>同種末梢血</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>10</td><td>12</td><td>6</td><td>10</td><td>9</td><td>15</td></tr></table> アレルギー疾患に関する研修会・講演会開催件数 <table><tr><td colspan="7">(単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>総 合</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>こども</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>6</td></tr></table> アレルギー教室開催実績 <table><tr><td colspan="7">(単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>件数</td><td>3</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>	(単位：人)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	エイズ			非公開				結 核	92	95	85	48	54	59	(単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	腎移植	17	12	10	13	12	10	造血幹細胞移植	14	13	12	14	16	15	強角膜片作成	3	1	0	2	1	0	計	34	26	22	29	29	25	(単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	骨髄移植	2	8	3	3	3	5	臍帯血	3	2	2	2	2	4	自家末梢血	4	1	1	4	2	6	同種末梢血	1	1	0	1	2	0	計	10	12	6	10	9	15	(単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	総 合	1	0	1	1	1	1	こども	3	2	2	2	3	6	(単位：件)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	件数	3	1	2	2	3	3	A	(総合) 結核病棟については、新型コロナウイルス感染症の5類移行後も継続して50床を維持し、県内の結核患者を受入可能な体制を整えている。 移植については、生体移植を含めた腎移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成を実施している。令和6年度も、前年度に引き続き同水準で移植をしている。 新型コロナウイルス感染症患者の受入について、令和5年5月8日より5類に移行後は、国の方針に基づき、一般病棟での対応を行い、地域の新型コロナウイルス感染症患者の受入を行っている。  (こども) 移植医療に関しては、先進的医療である造血幹細胞移植に継続的に取り組み、前年度実績を上回る15件を実施した。 また、アレルギー疾患に関する県民向け・医療者向けの講習会を3回実施しており、アレルギー疾患医療拠点病院としての役割を着実に果たしている。	・政策医療として、結核、エイズ等の感染症医療、難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療等を提供し、県立病院としての役割を果たしている。 ・総合病院はエイズ拠点病院として、エイズ患者の受入れ体制を整えているほか、総合病院とこども病院は難病医療協力病院に指定されている。 ・また、総合病院とこども病院は、県アレルギー疾患医療拠点病院として、アレルギー疾患にかかる専門治療の提供、普及啓発、人材育成を推進している。 ・感染症医療については、新型コロナウイルス感染症の5類移行後も継続して患者を受入れながら、県内最大規模の結核病床(50床)を維持しており、県全体の結核対策に貢献している。	✓	○	15
(単位：人)																																																																																																																																																																																			
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																													
エイズ			非公開																																																																																																																																																																																
結 核	92	95	85	48	54	59																																																																																																																																																																													
(単位：件)																																																																																																																																																																																			
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																													
腎移植	17	12	10	13	12	10																																																																																																																																																																													
造血幹細胞移植	14	13	12	14	16	15																																																																																																																																																																													
強角膜片作成	3	1	0	2	1	0																																																																																																																																																																													
計	34	26	22	29	29	25																																																																																																																																																																													
(単位：件)																																																																																																																																																																																			
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																													
骨髄移植	2	8	3	3	3	5																																																																																																																																																																													
臍帯血	3	2	2	2	2	4																																																																																																																																																																													
自家末梢血	4	1	1	4	2	6																																																																																																																																																																													
同種末梢血	1	1	0	1	2	0																																																																																																																																																																													
計	10	12	6	10	9	15																																																																																																																																																																													
(単位：件)																																																																																																																																																																																			
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																													
総 合	1	0	1	1	1	1																																																																																																																																																																													
こども	3	2	2	2	3	6																																																																																																																																																																													
(単位：件)																																																																																																																																																																																			
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																													
件数	3	1	2	2	3	3																																																																																																																																																																													
	エ 新型コロナウイルス感染症等の新興感染症や再興感染症の感染拡大に備え、平時から、各県立病院が連携し、患者等の受入体制の確保に取り組む。	エ SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)感染症等の新興感染症や再興感染症の感染拡大に備え、平時から、県及び各県立病院の連携により、患者等の受入体制の確保に取り組む。	16	各病院	・具体的体制の確立と進捗状況 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、令和6年5月、静岡県と3病院の間で医療提供の分担・確保に係る協定(医療措置協定)を締結し、協定指定医療機関に指定された。また、こども病院では、県と感染症指定医療機関の指定に向けた調整を行っている。	A	新興感染症の発生・蔓延時には、県からの要請を受け、病床の確保による入院医療の提供や自宅療養者等への医療の提供が可能な体制を整えている。  こども病院では、感染症においても県内小児医療の最後の砦としての役割を果たすべく、県と感染症指定医療機関の指定に向けた調整を行っている。	(院内感染対策) ・新型コロナウイルス感染症については、感染拡大初期から、総合病院に感染症対策室を中心とした院内感染対策チームを設置しており、各病院においても多職種からなるチームが感染防止の取組や情報収集を行うなど、対応を継続している。 (感染症指定医療機関) ・こども病院は、本県の小児医療における体制強化のため、感染症指定医療機関への指定に向けて調整を進めており、感染拡大時の受入体制確保が期待される。 (医療措置協定) ・令和4年度の改正感染症法により、県と医療機関との間で、病床確保や発熱外来の実施、自宅療養者等への医療提供、その他後方支援や医療人材派遣についての「医療措置協定」が新設された。 ・令和6年5月には、県と3病院との間で医療措置協定を締結した。今後、感染拡大時の連携体制の構築に向けて、県立病院としての役割を果たしていくことが期待される。	✓	○	16																																																																																																																																																																								



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																
						本評価	説明																																																					
	オ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	オ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	17 ～ 19	【総】・リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に行う。 【心】・患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。 【心】・患者の地域での生活を支援するため、訪問看護を充実させる。 【子】・言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。	総合 患者サポートセンター退院調整件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>5,217</td><td>6,007</td><td>6,517</td><td>6,661</td><td>6,618</td><td>7,097</td></tr></table> 退院支援関係診療報酬算定件数実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>入退院支援加算1</td><td>3,987</td><td>5,403</td><td>6,008</td><td>5,890</td><td>6,004</td><td>6,352</td></tr><tr><td>退院時リハビリテーション指導科</td><td>1,113</td><td>3,529</td><td>2,957</td><td>2,839</td><td>2,979</td><td>2,948</td></tr><tr><td>計</td><td>5,100</td><td>8,932</td><td>8,965</td><td>8,729</td><td>8,983</td><td>9,300</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	件数	5,217	6,007	6,517	6,661	6,618	7,097	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	入退院支援加算1	3,987	5,403	6,008	5,890	6,004	6,352	退院時リハビリテーション指導科	1,113	3,529	2,957	2,839	2,979	2,948	計	5,100	8,932	8,965	8,729	8,983	9,300	A	患者サポートセンターの看護師、MSWや理学療法士等が中心となり、入院早期から退院調整を積極的に支援している。				17							
区 分	元年度	2年度			3年度	4年度	5年度	6年度																																																				
件数	5,217	6,007			6,517	6,661	6,618	7,097																																																				
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																						
入退院支援加算1	3,987	5,403	6,008	5,890	6,004	6,352																																																						
退院時リハビリテーション指導科	1,113	3,529	2,957	2,839	2,979	2,948																																																						
計	5,100	8,932	8,965	8,729	8,983	9,300																																																						
					精神科作業療法及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援している。また、在宅においてよりの確な支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問の積極的な実施に努めている。 訪問看護実施件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>訪問看護実施件数</td><td>3,704</td><td>3,841</td><td>3,643</td><td>3,726</td><td>4,121</td><td>4,852</td></tr><tr><td>(うち複数職種訪問)</td><td>38</td><td>46</td><td>37</td><td>71</td><td>57</td><td>34</td></tr></table> 精神科作業療法実施実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>精神科作業療法</td><td>4,483</td><td>5,427</td><td>4,552</td><td>4,010</td><td>3,969</td><td>4,168</td></tr><tr><td>デイケア</td><td>4,462</td><td>2,653</td><td>1,388</td><td>1,875</td><td>2,595</td><td>3,575</td></tr><tr><td>計</td><td>8,945</td><td>8,080</td><td>5,940</td><td>5,885</td><td>6,564</td><td>7,743</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	訪問看護実施件数	3,704	3,841	3,643	3,726	4,121	4,852	(うち複数職種訪問)	38	46	37	71	57	34	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	精神科作業療法	4,483	5,427	4,552	4,010	3,969	4,168	デイケア	4,462	2,653	1,388	1,875	2,595	3,575	計	8,945	8,080	5,940	5,885	6,564	7,743	A	令和6年度から発達障害など利用者の新たな需要に対応するプログラムを作成したことに加え、従来から行っているポスター掲示やパンフレットの配架等の広報活動を行い、利用の増加に努めている。 入院患者、外来患者ともに必要とされる支援が多様化してきているが、患者それぞれの状態に応じたプログラムを積極的に実施した。 また、国が示す精神疾患を有する者の地域移行・地域定着に向けた重点的な支援を実施するため、在宅においてよりの確な支援を行うべく、訪問看護の積極的な実施にも努めている。				18
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																						
訪問看護実施件数	3,704	3,841	3,643	3,726	4,121	4,852																																																						
(うち複数職種訪問)	38	46	37	71	57	34																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																						
精神科作業療法	4,483	5,427	4,552	4,010	3,969	4,168																																																						
デイケア	4,462	2,653	1,388	1,875	2,595	3,575																																																						
計	8,945	8,080	5,940	5,885	6,564	7,743																																																						
					リハビリ実施実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>理学療法</td><td>22,829</td><td>22,985</td><td>24,683</td><td>25,770</td><td>26,886</td><td>34,097</td><td>20,000</td></tr><tr><td>作業療法</td><td>4,546</td><td>3,813</td><td>7,794</td><td>11,495</td><td>11,333</td><td>10,566</td><td>—</td></tr><tr><td>言語聴覚療法</td><td>9,744</td><td>10,162</td><td>10,045</td><td>9,555</td><td>10,332</td><td>11,053</td><td>—</td></tr><tr><td>計</td><td>37,119</td><td>36,960</td><td>42,522</td><td>46,820</td><td>48,551</td><td>55,716</td><td>—</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	理学療法	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	34,097	20,000	作業療法	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	10,566	—	言語聴覚療法	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	11,053	—	計	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	55,716	—	S	令和6年度リハビリ実施件数は、過去最大件数であった令和5年度の数値を大幅に上回る結果となった。作業療法及び言語聴覚療法は令和5年度並の件数で推移しており、理学療法は前年度比12.7%となった。 理学療法に関しては、令和6年度に療法士2名が増員され件数の増加につながっている。また、令和4年度から算定可能となったPICUでの早期離床・リハビリテーション加算(入室後14日間に500点/人/日)について、令和6年度もPICU入室患者のほぼ全例に早期離床の介入ができています。結果、早期離床への意識も高まりPICU退室後もシームレスな機能回復の継続を目的に各主治医からのリハビリの処方が増加している。 今後もリハビリの質の向上に向けて、全療法士対象の研修をより一層充実させていく。	✓	✓	☆	19									
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																					
理学療法	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	34,097	20,000																																																					
作業療法	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	10,566	—																																																					
言語聴覚療法	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	11,053	—																																																					
計	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	55,716	—																																																					
	カ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	カ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	20	・遺伝子診療に関して、体制の整備・充実を図る。	総合 遺伝診療科受診者数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>受診者数</td><td>146</td><td>227</td><td>233</td><td>270</td><td>266</td><td>336</td></tr></table> 【参考】エキスパートパネル実施件数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>受診者数</td><td>38</td><td>46</td><td>46</td><td>94</td><td>111</td></tr></table> 【参考】遺伝カウンセリング件数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>受診者数</td><td>227</td><td>233</td><td>270</td><td>266</td><td>336</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	受診者数	146	227	233	270	266	336	区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	受診者数	38	46	46	94	111	区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	受診者数	227	233	270	266	336	A	保険適応となる遺伝学的検査項目の増加に伴い、各診療科と遺伝診療科、検査部門が連携し、遺伝学的検査の出検体制が整備されたことで、スムーズな運用が可能になったことから、令和6年度の患者数・カウンセリング件数は増加した。また、遺伝カウンセラーの人数が、令和5年度から2名増加の5名となり、各診療科からの依頼に、よりタイムリーに対応できるようになった。				20											
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																						
受診者数	146	227	233	270	266	336																																																						
区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																							
受診者数	38	46	46	94	111																																																							
区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																							
受診者数	227	233	270	266	336																																																							





中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																																																																
						本評価	説明																																																																																																																					
	ク 移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	ク 移行期医療支援センターの運用などによる移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	24	・SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)などの感染症について、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備する。(No.15再掲) ・機構内各病院や他医療機関、県などと連携して移行期医療及び成人期医療を提供する。 ・【こころ】総合病院、こども病院と連携した県立3病院の精神科医療体制構築を進める。 ・【子】県担当課と協議しつつ、受託した移行期医療支援センターの運営を行い、業務内容の充実を図る ・【子】No.59	移行期医療件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>こども→総合</td><td>666</td><td>995</td><td>1,367</td><td>1,100</td><td>918</td><td>950</td></tr><tr><td>こども→こころ</td><td>19</td><td>18</td><td>15</td><td>28</td><td>31</td><td>32</td></tr></table> 関連するカンファレンス等の開催実績 (単位：回) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>4</td></tr><tr><td>移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数</td><td>6</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数</td><td>3</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td></tr></table> ※令和2年度に短期入所事業者の指定を受け、令和4年度から入所している。  移行期医療推進協議会の開催 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>移行期医療推進協議会の開催</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td></tr></table> 移行期医療センターに関する委員会等の実施回数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>移行期医療センターに関する委員会等の実施回数</td><td>-</td><td>11</td><td>18</td><td>9</td><td>7</td><td>19</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	こども→総合	666	995	1,367	1,100	918	950	こども→こころ	19	18	15	28	31	32	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	5	0	0	0	0	4	移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	6	4	3	2	2	1	医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	3	6	6	3	4	4	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	移行期医療推進協議会の開催	-	-	-	1	0	1	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	移行期医療センターに関する委員会等の実施回数	-	11	18	9	7	19	各病院	A	新型コロナウィルスの対応については、総合病院及びこども病院が県から重点医療機関に指定されており、各病院において患者受入体制を整備し、県と調整のうえ患者の受入を行ってきた。 移行期医療への対応については、機構内における医療情報システム(電子カルテシステム)の統合を進め、令和5年5月に稼働を開始した。これにより、今後患者情報の病院間の相互参照が可能となり、医療サービスの向上が期待される。  (総合) 令和6年度の受診者数は、令和5年度実績とほぼ横這いとなっており、スムーズな移行医療が行えている。  (こころ) 当院とこども病院間での医師による合同カンファレンスを実施し、相互で連携し、重篤な精神疾患症例の児童を受け入れた。  (こども) 県から移行期医療支援センター運営事業を受託し、県と連携して移行期医療支援体制の推進に取り組んだ。 令和6年度は全国移行期医療支援センター連絡会の幹事を務めたほか、小児科から成人医療施設への紹介実績調査の結果を元に移行期医療医療機関連携マップの制作を進めている。 患者の自立を促すための自立支援外来の実施、静岡市静岡医師会と重症心身障がい児の移行のためのカンファレンスを行った。 更に静岡市静岡医師会との連携で成人先天性心疾患(ACHD)の移行期医療の現状について医師が講演を行い、ACHDの移行期医療における、病診連携・病病診連携の今後の方向性についてディスカッションを行なった。	・こども病院は県の受託事業として、静岡県移行期医療支援センターを開設しており、令和6年度には延540件の相談を受けるなど、移行期医療支援体制の拡充に取り組んでいる。 ・令和6年度における病院間の移行期医療件数は、こども病院と総合病院間、こども病院とこころの医療センター間のいずれも前年度と同程度の水準となった。 ・また機構内における医療情報システム(電子カルテシステム)の統合により、患者情報の病院間共有が可能となった。移行期医療においては、こども病院から総合病院への移行後も、こども病院での検査等が必要となる場合があり、その際の情報共有は、医師の診療情報提供書が基本ではあるものの、両病院の情報がカルテベースでも確認できることで、スムーズな移行につながっている。今後更なる活用も期待される。  (参考) ・医療の発達により、小児期の慢性疾患による死亡率が減少する一方で、原疾患治療や合併症への対応が長期化し、思春期・成人期を迎える患者が増えているが、小児期と成人期の診療科・医療機関の連携は十分ではない。 ・国は、移行期医療に対応可能な医療機関情報を把握・公表し、小児期と成人期の医療機関等の連絡調整・連携支援、患者の自律支援等を担う総合的なセンター機能を、各都道府県に1箇所以上設置することを求めている。 ・こども病院は県の受託事業として、令和2年9月に静岡県移行期医療支援センターを開設した。 ・移行期医療は、小児診療科から成人診療科に完全に移行する疾病、両方でケアが必要な疾病、小児診療科で継続してケアが必要な疾病と、疾病の種類や状況に応じて、求められる診療体制が異なる点が特徴である。	✓		○	24																																		
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																						
こども→総合	666	995	1,367	1,100	918	950																																																																																																																						
こども→こころ	19	18	15	28	31	32																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																						
こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	5	0	0	0	0	4																																																																																																																						
移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	6	4	3	2	2	1																																																																																																																						
医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	3	6	6	3	4	4																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																						
移行期医療推進協議会の開催	-	-	-	1	0	1																																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																						
移行期医療センターに関する委員会等の実施回数	-	11	18	9	7	19																																																																																																																						
	ケ 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療の提供に取り組む。また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	ケ 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療に取り組む。質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、医療DXの推進などに取組む。 また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	25	・中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。 ・3病院の医療情報システムを活用し、地域医療連携などICTを利用したサービスの向上など医療DXの推進に取り組む。	施設及び機器等の整備状況 (単位：百万円) <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="7">施設整備</th></tr><tr><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>第3期累計</th><th>6年度</th></tr><tr><td>総合</td><td>1,091</td><td>1,472</td><td>1,866</td><td>383</td><td>685</td><td>5,498</td><td>470</td></tr><tr><td>こころ</td><td>139</td><td>246</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>390</td><td>19</td></tr><tr><td>こども</td><td>148</td><td>829</td><td>190</td><td>136</td><td>282</td><td>1,585</td><td>181</td></tr><tr><td>本部</td><td>0</td><td>78</td><td>395</td><td>358</td><td>3,304</td><td>4,135</td><td>20</td></tr><tr><td>合計</td><td>1,379</td><td>2,626</td><td>2,456</td><td>877</td><td>4,271</td><td>11,609</td><td>690</td></tr></table> <table><tr><th colspan="8">器械備品等</th></tr><tr><th></th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>第3期累計</th><th>6年度</th></tr><tr><td>総合</td><td>706</td><td>894</td><td>708</td><td>1,049</td><td>1,724</td><td>5,080</td><td>1,105</td></tr><tr><td>こころ</td><td>31</td><td>31</td><td>8</td><td>14</td><td>24</td><td>108</td><td>29</td></tr><tr><td>こども</td><td>308</td><td>747</td><td>567</td><td>717</td><td>454</td><td>2,793</td><td>389</td></tr><tr><td>本部</td><td>0</td><td>44</td><td>0</td><td>1</td><td>1,166</td><td>1,211</td><td>0</td></tr><tr><td>合計</td><td>1,045</td><td>1,716</td><td>1,283</td><td>1,780</td><td>3,368</td><td>9,192</td><td>1,523</td></tr></table> ・医療DX進捗状況(医療情報システム統合の実施状況) 質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病院の医療情報システムを統合、令和5年5月から稼働を開始した。	区 分	施設整備							元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計	6年度	総合	1,091	1,472	1,866	383	685	5,498	470	こころ	139	246	5	0	0	390	19	こども	148	829	190	136	282	1,585	181	本部	0	78	395	358	3,304	4,135	20	合計	1,379	2,626	2,456	877	4,271	11,609	690	器械備品等									元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計	6年度	総合	706	894	708	1,049	1,724	5,080	1,105	こころ	31	31	8	14	24	108	29	こども	308	747	567	717	454	2,793	389	本部	0	44	0	1	1,166	1,211	0	合計	1,045	1,716	1,283	1,780	3,368	9,192	1,523	各病院・本部（経営）	A	(3病院) 施設整備に関しては、建物長寿命化等の必要最低限のものから実施する方針であり、優先度の低いものは計画的に後年度へ先送りすることとしている。引き続き、経営状況を考慮しながら、適切な施設整備等を進める。 (総合) 施設整備に関しては、前年度に引き続き、本館非常用発電機更新工事及び劣化改修工事を実施している。 器械備品に関しては、術中神経モニタリングシステムやリニアックの更新を行った。 (こころ) 施設整備に関しては、北3病棟改修工事や厨房改修、劣化改修等に関する検討を進めた。 器械備品に関しては、スポットエアコンの購入や監視カメラを増設した。 (こども) 施設整備に関して、西館手術室空調更新工事が完了した。 器械備品に関して、細径ファイバースコープの更新や半導体レーザーの整備等を行った。また、人工心肺装置2台の更新を行った。	・令和6年度においては、機構全体で69億円の施設及び機器等の整備を実施し、高度な治療への対応強化や療養環境の向上に取り組んでいる。 ・令和6年度は各病院での劣化改修工事を進めたほか、各病院で必要な機器の購入を計画通りに進めている。 ・一方で、経営状況を鑑み、随時施設整備及び機器購入計画を見直し、経費抑制に努めている。医療機器の購入においては、機器購入委員会を開き、優先順位の高い機器から購入を行うなど、適切な管理がされている。 ・県立病院として持続可能な運営を行っていくためにも、高度・専門的な医療の提供と財政の健全化の両立に向けて、計画的に必要な整備を行っていくことが重要である。 ・医療DXについては、令和5年度から機構3病院の電子カルテの統合および稼働を行っており、今後、移行期医療や周産期、多様な精神疾患等、3病院での連携において有効な活用が期待される。	✓		○	25
区 分	施設整備																																																																																																																											
	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計	6年度																																																																																																																					
総合	1,091	1,472	1,866	383	685	5,498	470																																																																																																																					
こころ	139	246	5	0	0	390	19																																																																																																																					
こども	148	829	190	136	282	1,585	181																																																																																																																					
本部	0	78	395	358	3,304	4,135	20																																																																																																																					
合計	1,379	2,626	2,456	877	4,271	11,609	690																																																																																																																					
器械備品等																																																																																																																												
	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計	6年度																																																																																																																					
総合	706	894	708	1,049	1,724	5,080	1,105																																																																																																																					
こころ	31	31	8	14	24	108	29																																																																																																																					
こども	308	747	567	717	454	2,793	389																																																																																																																					
本部	0	44	0	1	1,166	1,211	0																																																																																																																					
合計	1,045	1,716	1,283	1,780	3,368	9,192	1,523																																																																																																																					
	コ 各県立病院は、質の高い医療を継続的に提供するため、次のとおり重点的に取り組む。	コ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	-	-	-		-																																																																																																																					

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																
							本評価	説明																																					
		県立総合病院	(7) 県立総合病院診療事業 地域における中核的医療を行う基幹病院として、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患(心疾患、脳血管疾患、がん疾患)に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。各診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取り組む。  県民に提供する医療<業務予定量> 病床数 718床 一般病床 662床 結核病床 50床 精神病床 6床 外来患者 464,645人 入院患者 227,083人	26		総合 入院・外来患者数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>6年度目標</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>225,595</td><td>203,298</td><td>207,398</td><td>199,210</td><td>211,603</td><td>218,271</td><td>277,083</td></tr><tr><td>(うち結核病床)</td><td>4,967</td><td>5,223</td><td>4,918</td><td>3,260</td><td>3,977</td><td>3,417</td><td>-</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>448,945</td><td>425,092</td><td>455,056</td><td>455,776</td><td>457,778</td><td>463,891</td><td>464,645</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標	入院患者数	225,595	203,298	207,398	199,210	211,603	218,271	277,083	(うち結核病床)	4,967	5,223	4,918	3,260	3,977	3,417	-	外来患者数	448,945	425,092	455,056	455,776	457,778	463,891	464,645	A	入院患者数については、新型コロナウイルス感染症の対応を継続しながら、令和2年度以前の数字まで戻りつつあり、順調に増加している。 一方、外来患者数については、令和6年度は新型コロナウイルス感染症の影響のない令和元年度実績を超え過去最高を更新した。		✓	✓	○	26
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																						
入院患者数	225,595	203,298	207,398	199,210	211,603	218,271	277,083																																						
(うち結核病床)	4,967	5,223	4,918	3,260	3,977	3,417	-																																						
外来患者数	448,945	425,092	455,056	455,776	457,778	463,891	464,645																																						
			○先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用による適切な治療の提供 ①ハイブリッド手術室を活用した高度専門医療の推進 ②高度放射線治療の推進	27	先端医学棟の設備・機器を最大限に活用する ①No.31 ②No.32	総合 手術件数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>手術件数</td><td>9,814</td><td>9,126</td><td>9,395</td><td>9,160</td><td>9,459</td><td>9,528</td><td>9,600以上</td></tr></table> HCU延患者数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>人数</td><td>6,426</td><td>5,569</td><td>5,759</td><td>5,669</td><td>6,537</td><td>6,468</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	手術件数	9,814	9,126	9,395	9,160	9,459	9,528	9,600以上	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	人数	6,426	5,569	5,759	5,669	6,537	6,468	B	先端医学棟では、最新の設備と医療機器を最大限に活用した高度・先進医療を実施している。特に、3階、4階に設置したハイブリッド手術室、内視鏡手術室、ロボット支援手術室を含む23室の手術室と術後管理を行うHCU20床の一体的かつ効率的な運用に努めている。令和6年度の手術件数についても、順調に推移している。		✓	✓	△	27		
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																						
手術件数	9,814	9,126	9,395	9,160	9,459	9,528	9,600以上																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																							
人数	6,426	5,569	5,759	5,669	6,537	6,468																																							
		・地域における中核的医療を行う基幹病院として、先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用などにより、高度・専門医療を提供していく。	○循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を活かした常時高度な専門的治療を提供する体制の充実 ①重症心不全疾患の患者に対して冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)機能を最大限に活かした高度な専門的治療の提供 ②急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に対応する常時救急受入体制の強化 ③循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進 ④ハイブリッド手術室の使用による経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)、ステントグラフト内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術(MitraClip)等の低侵襲かつ高度な手術の実施	28	①冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)を中心に常時対応できる体制を構築し、高度専門診療を提供する。	総合 CCU/ICUは平成30年9月より14床で運用している。 CCU/ICU稼働率 (単位：%) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>稼働率(%)</td><td>100.3</td><td>88.6</td><td>95.7</td><td>87.4</td><td>96.3</td><td>107.9</td></tr><tr><td>入室患者数(人)</td><td>866</td><td>802</td><td>925</td><td>795</td><td>853</td><td>906</td></tr><tr><td>1日平均(人)</td><td>14.0</td><td>12.4</td><td>13.4</td><td>12.2</td><td>13.5</td><td>15.1</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	稼働率(%)	100.3	88.6	95.7	87.4	96.3	107.9	入室患者数(人)	866	802	925	795	853	906	1日平均(人)	14.0	12.4	13.4	12.2	13.5	15.1	A	CCU/ICUの稼働率及び1日平均入室患者数は、近年で最も高いものとなった。		✓		○	28				
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																							
稼働率(%)	100.3	88.6	95.7	87.4	96.3	107.9																																							
入室患者数(人)	866	802	925	795	853	906																																							
1日平均(人)	14.0	12.4	13.4	12.2	13.5	15.1																																							
				29	②脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。	総合 脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>83</td><td>102</td><td>92</td><td>49</td><td>8</td><td>13</td></tr></table> 超急性期脳卒中加算 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>35</td><td>28</td><td>32</td><td>20</td><td>28</td><td>24</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	算定件数	83	102	92	49	8	13	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	算定件数	35	28	32	20	28	24	A	脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数について、令和6年度は前年度と比較して微増となったものの、以前ほどの水準には達していない。院内においても引き続き周知した上で、パスの適用を推進し、地域の医療機関との円滑な運用に努める。 また、今後も、MRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を最大限に活用し、脳卒中発症患者に対して高度な専門的治療を提供する。					29				
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																							
算定件数	83	102	92	49	8	13																																							
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																							
算定件数	35	28	32	20	28	24																																							
			③生活習慣病を心血管疾患の発症危険因子としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。	30		総合 糖尿病透析予防指導管理料 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>285</td><td>123</td><td>67</td><td>48</td><td>91</td><td>52</td></tr></table> (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>腎代替療法指導管理料</td><td>211</td><td>164</td><td>177</td><td>149</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	算定件数	285	123	67	48	91	52	区 分	3年度	4年度	5年度	6年度	腎代替療法指導管理料	211	164	177	149	A	糖尿病透析予防指導管理料は糖尿病・内分泌内科外来、そらまめ外来、透析室における指導により算定する。専門看護師の退職に伴い、双方の件数が減少している。また、糖尿病透析予防指導管理料と腎代替療法指導管理料の対象患者は重複しているため、腎代替療法患者の増加に伴い、糖尿病透析予防管理料の患者数は減少している。						30							
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																							
算定件数	285	123	67	48	91	52																																							
区 分	3年度	4年度	5年度	6年度																																									
腎代替療法指導管理料	211	164	177	149																																									



中期目標				中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																																																																																							
									本評価	説明																																																																																																																																												
						31	④ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。	<div>ハイブリッド手術室稼動状況(単位: 件)</div> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4年度</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th><th>6 年度目標</th></tr><tr><td>ハイブリッド手術室使用件数</td><td>486</td><td>484</td><td>512</td><td>525</td><td>563</td><td>634</td><td>500以上</td></tr><tr><td>TAVI 実施件数 ※上記の内数</td><td>67</td><td>65</td><td>105</td><td>81</td><td>84</td><td>102</td><td>—</td></tr><tr><td>ステントグラフト挿入術 ※上記の内数</td><td>125</td><td>76</td><td>99</td><td>120</td><td>108</td><td>123</td><td>—</td></tr><tr><td>Mitra Clip件数 ※上記の内数</td><td>24</td><td>14</td><td>21</td><td>11</td><td>14</td><td>18</td><td>—</td></tr></table> <div>参考(単位: 件)</div> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4年度</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th></tr><tr><td>PCI</td><td>368</td><td>363</td><td>349</td><td>333</td><td>274</td><td>356</td></tr><tr><td>アブレーション</td><td>284</td><td>267</td><td>305</td><td>262</td><td>282</td><td>280</td></tr></table>	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4年度	5 年度	6 年度	6 年度目標	ハイブリッド手術室使用件数	486	484	512	525	563	634	500以上	TAVI 実施件数 ※上記の内数	67	65	105	81	84	102	—	ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	125	76	99	120	108	123	—	Mitra Clip件数 ※上記の内数	24	14	21	11	14	18	—	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4年度	5 年度	6 年度	PCI	368	363	349	333	274	356	アブレーション	284	267	305	262	282	280	A	MRIハイブリッド手術室は、手術室にMRI検査室を併設しており、主に脳神経外科の脳腫瘍切除術に使用される。CTハイブリッド手術室は、手術室にCT検査装置を併設しており、主に脳神経外科の脳血管障害や脳腫瘍の手術に使用される。血管造影ハイブリッド手術室は、手術室にX線血管撮影装置を併設しており、主に心臓血管外科、循環器内科のTAVI、ステントグラフト内挿術、MitraClip等の手術に使用される。 ハイブリッド手術室の稼動状況は、毎年下半期における循環器疾患及び脳疾患症例数の増加に比例して稼働率が上昇し、今年度は過去最高件数となった。TAVI、ステントグラフト挿入術、MitraClipの実施件数は令和5年度実績から増加している。	・ハイブリッド手術室使用件数は、目標を達成していた前年度から更に増加した。 ・高度な施設基準等が要求される中、心臓血管外科や循環器内科の連携のもと実績を伸ばしており、高度・専門医療の提供により、県の医療水準の向上に貢献している。  (参考) ・先端医学棟内に、MRI・CT・血管造影の3種類のハイブリッド手術室が整備されており、特徴に応じた施術内容に活用されている。 ・TAVI(経カテーテル大動脈弁留置術)は大動脈弁狭窄症に対して、カテーテルにより人口弁を心臓に装着する治療、MitraClip(経皮的僧帽弁クリップ術)は僧帽弁閉鎖不全に対して、カテーテルにより僧帽弁逆流を制御する治療、PCI(経皮的冠動脈形成術)は、動脈硬化等による冠動脈の狭窄等に対して、カテーテル治療を行うものである。	✓	✓	○	31																																																																										
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4年度	5 年度	6 年度	6 年度目標																																																																																																																																															
ハイブリッド手術室使用件数	486	484	512	525	563	634	500以上																																																																																																																																															
TAVI 実施件数 ※上記の内数	67	65	105	81	84	102	—																																																																																																																																															
ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	125	76	99	120	108	123	—																																																																																																																																															
Mitra Clip件数 ※上記の内数	24	14	21	11	14	18	—																																																																																																																																															
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4年度	5 年度	6 年度																																																																																																																																																
PCI	368	363	349	333	274	356																																																																																																																																																
アブレーション	284	267	305	262	282	280																																																																																																																																																
				・急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患において、常時高度な専門的治療を提供する。加えて、生活習慣病としての危険因子を管理するため、地域の医療機関との連携を強化する。	○がん疾患患者に対して地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制の充実及び地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供 ①先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、手術、放射線治療、化学療法に係るがん診療体制の充実 ②地域の医療機関等との連携による緩和ケアや終末期ケアの推進 ③がん相談及び情報提供機能の強化 ④ロボット支援手術の活用	32	①がん患者が速やかに検査や治療を受けられる体制を構築し、手術件数の増加に努める。	<div>がん手術件数(単位: 件、%)</div> <table><tr><th>区分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4年度</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th></tr><tr><td>胃がん</td><td>366</td><td>351</td><td>351</td><td>392</td><td>347</td><td>392</td></tr><tr><td>大腸がん</td><td>696</td><td>759</td><td>776</td><td>732</td><td>787</td><td>794</td></tr><tr><td>肝がん</td><td>260</td><td>328</td><td>255</td><td>232</td><td>264</td><td>296</td></tr><tr><td>肺がん</td><td>194</td><td>213</td><td>180</td><td>184</td><td>169</td><td>149</td></tr><tr><td>乳がん</td><td>511</td><td>440</td><td>454</td><td>441</td><td>448</td><td>399</td></tr><tr><td>その他</td><td>1,549</td><td>1,355</td><td>1,630</td><td>1,600</td><td>1,509</td><td>1,544</td></tr><tr><td>がん手術合計</td><td>3,576</td><td>3,446</td><td>3,646</td><td>3,581</td><td>3,524</td><td>3,574</td></tr><tr><td>手術全体</td><td>9,225</td><td>8,513</td><td>8,798</td><td>8,525</td><td>8,931</td><td>9,018</td></tr><tr><td>がん手術割合</td><td>38.8</td><td>40.5</td><td>41.4</td><td>42.0</td><td>39.5</td><td>39.6</td></tr></table> ※年度別各種がん手術は1 患者が複数手術をした場合は、それぞれ計上 ※がん手術合計、手術全体は複数手術をした場合は、主たる手術に計上 <div>内視鏡検査・処置(単位: 件)</div> <table><tr><th>年度</th><th>上部消化管検査</th><th>下部消化管検査</th><th>ERCP検査</th><th>気管支鏡検査</th><th>その他</th><th>合計</th></tr><tr><td>元年度</td><td>10,489</td><td>2,813</td><td>445</td><td>389</td><td>56</td><td>14,192</td></tr><tr><td>2 年度</td><td>9,817</td><td>2,771</td><td>404</td><td>291</td><td>38</td><td>13,321</td></tr><tr><td>3 年度</td><td>10,540</td><td>2,749</td><td>420</td><td>350</td><td>54</td><td>14,113</td></tr><tr><td>4 年度</td><td>10,058</td><td>2,727</td><td>445</td><td>306</td><td>47</td><td>13,583</td></tr><tr><td>5 年度</td><td>9,903</td><td>2,767</td><td>410</td><td>281</td><td>54</td><td>13,415</td></tr><tr><td>6 年度</td><td>10,469</td><td>3,016</td><td>517</td><td>227</td><td>99</td><td>14,328</td></tr></table> <div>放射線治療(単位: 件)</div> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th><th>6 年度目標</th></tr><tr><td>件数</td><td>1,100</td><td>1,104</td><td>1,257</td><td>980</td><td>978</td><td>898</td><td>1,000</td></tr></table> ※令和元年度より放射線治療管理料算定件数とする。	区分	元年度	2 年度	3 年度	4年度	5 年度	6 年度	胃がん	366	351	351	392	347	392	大腸がん	696	759	776	732	787	794	肝がん	260	328	255	232	264	296	肺がん	194	213	180	184	169	149	乳がん	511	440	454	441	448	399	その他	1,549	1,355	1,630	1,600	1,509	1,544	がん手術合計	3,576	3,446	3,646	3,581	3,524	3,574	手術全体	9,225	8,513	8,798	8,525	8,931	9,018	がん手術割合	38.8	40.5	41.4	42.0	39.5	39.6	年度	上部消化管検査	下部消化管検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計	元年度	10,489	2,813	445	389	56	14,192	2 年度	9,817	2,771	404	291	38	13,321	3 年度	10,540	2,749	420	350	54	14,113	4 年度	10,058	2,727	445	306	47	13,583	5 年度	9,903	2,767	410	281	54	13,415	6 年度	10,469	3,016	517	227	99	14,328	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	6 年度目標	件数	1,100	1,104	1,257	980	978	898	1,000	A	がん手術件数は順調に推移しており、昨年度の水準と同等となった。  放射線治療件数は、高精度放射線治療に比重を置いていることで件数自体は抑えられているが、その中でも件数は順調に推移している。	・手術室を拡充し手術支援ロボットを追加整備した先端医学棟の開棟後、リニアック3台体制による高精度な治療の提供などにより、がん手術件数は増加している。 ・令和6年度は、放射線治療件数が目標を下回った一方、がん手術件数及び内視鏡検査・処置は前年度を上回った。 ・引き続き、先端医学棟の設備・機能を最大限に活用した、高度・専門医療の提供が期待される。	✓	✓	○	32
区分	元年度	2 年度	3 年度	4年度	5 年度	6 年度																																																																																																																																																
胃がん	366	351	351	392	347	392																																																																																																																																																
大腸がん	696	759	776	732	787	794																																																																																																																																																
肝がん	260	328	255	232	264	296																																																																																																																																																
肺がん	194	213	180	184	169	149																																																																																																																																																
乳がん	511	440	454	441	448	399																																																																																																																																																
その他	1,549	1,355	1,630	1,600	1,509	1,544																																																																																																																																																
がん手術合計	3,576	3,446	3,646	3,581	3,524	3,574																																																																																																																																																
手術全体	9,225	8,513	8,798	8,525	8,931	9,018																																																																																																																																																
がん手術割合	38.8	40.5	41.4	42.0	39.5	39.6																																																																																																																																																
年度	上部消化管検査	下部消化管検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計																																																																																																																																																
元年度	10,489	2,813	445	389	56	14,192																																																																																																																																																
2 年度	9,817	2,771	404	291	38	13,321																																																																																																																																																
3 年度	10,540	2,749	420	350	54	14,113																																																																																																																																																
4 年度	10,058	2,727	445	306	47	13,583																																																																																																																																																
5 年度	9,903	2,767	410	281	54	13,415																																																																																																																																																
6 年度	10,469	3,016	517	227	99	14,328																																																																																																																																																
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	6 年度目標																																																																																																																																															
件数	1,100	1,104	1,257	980	978	898	1,000																																																																																																																																															
				①外来化学療法センターの環境整備を行い、化学療法の充実を図る。		33		<div>外来化学療法加算(単位: 件)</div> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th><th>6 年度目標</th></tr><tr><td>件数</td><td>12,707</td><td>12,660</td><td>12,812</td><td>13,634</td><td>13,385</td><td>12,481</td><td>12,000以上</td></tr></table>	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	6 年度目標	件数	12,707	12,660	12,812	13,634	13,385	12,481	12,000以上	S	令和6年度の外来化学療法加算算定件数は前年度を下回ったものの、目標値の12,000件を上回った。 一方で、がん薬物療法(抗がん剤治療)による脱毛抑制のための頭部冷却装置(PAXMAN)を導入し乳がん患者を対象に治療を実施しており、乳がんを含む固形癌に対する薬物療法を受ける患者の、治療中及び治療後の脱毛抑制が期待できる。さらに、令和6年2月より一部診療(皮下注射)の運用変更に伴い、患者への負担がより小さい形で高度医療を提供している。 外来化学療法加算の件数は前年度を下回ったものの、患者サービスの向上、及び患者のQOLの向上が図られている。	・抗がん剤療法を主とする化学療法は、外科的療法である手術、内科的療法である放射線治療と並ぶ、がん治療の3本柱の1つである。 ・令和2年度にリニューアルした外来化学療法センターの適正な稼働、前日採血の実施、抗がん剤治療の副作用である脱毛を抑制する頭部冷却装置(PAXMAN)の運用等、高度医療の提供体制が維持されている。 ・外来化学療法加算件数は、目標を達成したものの、過去と比較し「特に着目すべき」とする程度に至らなかったことから、県評価は○とする。 ・日常生活を送りながら治療を行うことができる、外来化学療法の充実は、がん患者に対する質の高い医療の提供だけでなく、治療と生活の両立などQOLの向上に大きく寄与している。	✓	✓	○	33																																																																																																																							
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	6 年度目標																																																																																																																																															
件数	12,707	12,660	12,812	13,634	13,385	12,481	12,000以上																																																																																																																																															
				②地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。		34		<div>緩和ケアチーム介入症例数(単位: 件)</div> <table><tr><th>区分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th></tr><tr><td>症例数</td><td>527</td><td>482</td><td>548</td><td>396</td><td>383</td><td>353</td></tr></table> <div>緩和ケア診療加算算定件数(単位: 件)</div> <table><tr><th>区分</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>5249</td><td>4,417</td><td>5,308</td><td>4,796</td><td>4,372</td><td>3,872</td></tr></table>	区分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	症例数	527	482	548	396	383	353	区分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	件数	5249	4,417	5,308	4,796	4,372	3,872	A	緩和ケアチームは、緩和医療科医師、精神科医師、がんに関連する専門・認定看護師等で構成され、院内のがん患者に対して適切な緩和医療を提供する他、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んでいる。 また、がん患者等の社会復帰を支援するため、院内にハローワーク、産業保健総合支援センターとの連携による就労支援出張相談窓口を設置し、通院中又は入院中の患者に対して専門スタッフによる無料の就労相談を行っている。	・「緩和ケア」は終末期医療のみならず、近年は、がん治療におけるできるだけ早い段階での開始の必要性が認識されている。 ・がんに伴う身体や精神の苦痛があっても患者が自分らしく生活できるよう、緩和医療科医と精神科医、専門知識を有する看護師・薬剤師等が連携する緩和ケアチームが、身体面・精神面の症状を軽減するための医療を提供している。 ・令和6年度の診療加算算定件数は令和5年度から減少した。地域がん診療連携拠点病院として、今後も、高度な集学的治療や適切な緩和医療の提供が期待される。				34																																																																																																											
区分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度																																																																																																																																																
症例数	527	482	548	396	383	353																																																																																																																																																
区分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度																																																																																																																																																
件数	5249	4,417	5,308	4,796	4,372	3,872																																																																																																																																																



中期目標				中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																															
									本評価	説明																																																																				
						35	③がん相談支援センターの機能を増強し、がんに関する相談支援、情報の提供に努める。	がん相談件数 (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>がん相談</td><td>4,742</td><td>4,458</td><td>3,493</td><td>2,456</td><td>2,241</td><td>2,725</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	がん相談	4,742	4,458	3,493	2,456	2,241	2,725	総合	A	がん相談支援センターにおいて、がんに関連する専門・認定看護師を中心に対面及び電話による相談を実施している。 がん相談件数については、令和6年度は前年度を上回った。	・がん相談支援センターには国立がん研究センター主催の相談員研修を修了した相談員のほか、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、がん化学療法認定看護師、乳がん認定看護師が外来、病棟において相談業務を行っており、がん患者が相談しやすい体制が確保されている。				35																																																
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																								
がん相談	4,742	4,458	3,493	2,456	2,241	2,725																																																																								
						36	④手術支援ロボットを増設するなど、高度・先進医療に対応できる手術体制の充実を図り、質の高い医療の提供を行う。	ロボット支援手術件数 (単位：件) <table><tr><td>診療科</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td>6年度目標</td></tr><tr><td>泌尿器科</td><td>104</td><td>135</td><td>132</td><td>132</td><td>136</td><td>120</td><td>—</td></tr><tr><td>婦人科</td><td>25</td><td>23</td><td>25</td><td>18</td><td>31</td><td>40</td><td>—</td></tr><tr><td>消化器外科</td><td>70</td><td>82</td><td>92</td><td>163</td><td>222</td><td>282</td><td>—</td></tr><tr><td>心臓血管外科</td><td>—</td><td>3</td><td>12</td><td>15</td><td>18</td><td>27</td><td>—</td></tr><tr><td>計</td><td>199</td><td>243</td><td>261</td><td>328</td><td>407</td><td>469</td><td>340以上</td></tr></table> ロボット支援手術者数 (単位：人) <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>人数</td><td>12</td><td>16</td><td>23</td><td>21</td><td>38</td><td>37</td></tr></table>	診療科	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標	泌尿器科	104	135	132	132	136	120	—	婦人科	25	23	25	18	31	40	—	消化器外科	70	82	92	163	222	282	—	心臓血管外科	—	3	12	15	18	27	—	計	199	243	261	328	407	469	340以上	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	人数	12	16	23	21	38	37	総合	S	ロボット支援手術は、患者にとっては低侵襲というメリットがあるが、経営面においては消耗品や機器の保守費用等を現在の診療報酬では賄うことができないという問題点があるため、手術部において適用症例を見極めたうえで実施している。 手術件数については、目標値及び令和5年度実績を大きく上回る結果となった。 運用に当たっては、手術講師を東京大学医学部、東京医科大学等から招聘し、術者の指導に充て、常に高度医療技術の習得に努めている。 令和4年度からはロボット手術運営部会を立ち上げ、より良いロボット支援手術の運営に努めているほか、総合病院の婦人科医師がロボット手術学会の学会会長を務めるなど、婦人科のロボット支援施術の普及、発展、技術の向上に貢献している。	・手術支援ロボット3台体制で泌尿器科、婦人科、消化器外科、心臓血管外科における手術に対応し、ロボット支援手術の拡充を図っている。 ・ロボット支援手術件数は469件で過去最大となり、質の高い医療の提供に貢献している。  (参考) ・ロボット支援手術は患者にとっては低侵襲である一方、必要となる消耗品や機器の保守費用等が現在の診療報酬では賄いきれないという課題があり、適用症例を手術部において慎重に見極めた上で実施されている。	✓	✓	☆	36
診療科	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																																																							
泌尿器科	104	135	132	132	136	120	—																																																																							
婦人科	25	23	25	18	31	40	—																																																																							
消化器外科	70	82	92	163	222	282	—																																																																							
心臓血管外科	—	3	12	15	18	27	—																																																																							
計	199	243	261	328	407	469	340以上																																																																							
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																								
人数	12	16	23	21	38	37																																																																								
				・がん患者に対し、地域がん診療連携拠点病院として、最新・最良の診断、ロボット支援手術などの先進的手術及び化学療法、放射線治療を組み合わせた高度な集学的治療や予防医療を提供する体制を整備し、地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療を提供していく。  ・認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制を充実する。	○認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制の充実 ・認知症や精神科患者の身体合併症に対応する病棟の運営(精神科身体合併症病棟)など医療提供体制の充実	No.21		こころの医療センターとの連携による常勤の精神科医師5名の着任により、精神科患者の身体合併症に対応する精神科リエゾンチームと認知症ケアチームが協働しながら治療を行っている。 また、精神疾患と身体疾患を併せ持つ精神・身体合併症に対する医療ニーズを踏まえ、令和5年4月から精神科病棟(精神科身体合併症病棟)を開棟した。加えて令和5年4月から精神科病棟の運用を開始し、静岡県精神科救急身体合併症対応事業を受託した。精神保健福祉法改正に伴い精神科虐待防止部会を設置し、精神科病棟における相談体制の整備、対応フローの制定を行った。令和6年4月に静岡県と精神障害者地域移行支援者連携事業業務委託契約を締結。令和6年度は措置入院患者を含め延べ1,457名の受け入れを行った。病棟稼働率は令和5年度35％から令和6年度75％へ上昇。また精神科リエゾンチームの新規紹介患者数も令和5年度502名から令和6年度644名と増加した。	総合	A	令和5年4月から精神科病棟の運用を開始し、静岡県精神科救急身体合併症対応事業を受託している。 精神科病棟運用開始により、主に県内中部・東部の身体合併を有する精神科患者の受け入れを行い、他施設での対応が困難な症例について入院管理を行っている。病棟稼働率、リエゾン介入数も増加し、精神疾患及び身体疾患への専門治療を同時に提供できる体制の充実度を高めた。 県主催の虐待防止研修への参加、CVPPPTトレーナー資格取得、訪問支援員認定等により、精神科病棟における医療体制の充実を図った。	・認知症や精神疾患を伴う身体合併症の増加に対応するため、第3期中期目標期間において、総合病院の精神科リエゾンチーム及び認知症ケアチームが中心となって体制整備を進め、令和5年度に精神身体合併症病棟を設置した。 ・精神科救急医療においては、精神身体合併症病棟の設置に伴い、県から、身体合併症の入院治療が必要かつ措置入院等が必要な患者の受け入れができる病床を1床確保する「精神科救急身体合併症事業」を受託した。これまで県内1病院のみでの事業であったが、総合病院への設置により、患者の負担軽減及び診療科の地域偏在の解消に寄与している。 ・令和6年度は、県から「精神障害者地域移行支援者連携事業」を受託し、長期入院患者の地域移行促進にも取り組んでいる。 ・精神身体合併症病棟の運営にあたっては、機構3病院の連携体制の強化が進むことを期待する。	✓		○	37																																																														
				・高度救命救急センターとして一層の充実を図り、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対応していく。	○重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 ①救急搬送患者の受入体制の充実		医師の増員を図るとともに、働きやすさに配慮した変則勤務が可能な体制を維持する。	医師の変則勤務試行状況 (単位：％) <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>該当者(人)</td><td>1,784</td><td>1,893</td><td>1,838</td><td>1,864</td><td>1,909</td><td>1,878</td></tr><tr><td>利用者(人)</td><td>1,047</td><td>1,224</td><td>1,139</td><td>1,176</td><td>1,197</td><td>1,167</td></tr><tr><td>利用率(％)</td><td>58.7</td><td>64.7</td><td>61.9</td><td>63.1</td><td>62.7</td><td>62.1</td></tr></table> ※該当者：変則勤務を行うことが可能な延べ医師数 ※利用者：変則勤務を行った延べ医師数  高度救命救急センター医師数 (単位：人数) <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>人数</td><td>9</td><td>8</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>15</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	該当者(人)	1,784	1,893	1,838	1,864	1,909	1,878	利用者(人)	1,047	1,224	1,139	1,176	1,197	1,167	利用率(％)	58.7	64.7	61.9	63.1	62.7	62.1	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	人数	9	8	8	9	10	15	総合	A	救急患者の円滑な受入体制を維持するため、各診療科の協力のもと、医師の変則勤務を進めている。 令和6年度の利用者数は前年度と同程度となった。	・県内全域からの患者を24時間体制で受け入れる三次救急医療機関として、高度救急医療を提供している。 ・当直明けに休めるよう、救急科医師の変則勤務制の施行を継続しており、対象者の6割以上が利用している。  (参考) ・平成25年には救命救急センターを、平成27年には広範囲熱傷などの重篤な救急患者の受け入れを行う高度救命救急センターを設置している。				38																				
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																								
該当者(人)	1,784	1,893	1,838	1,864	1,909	1,878																																																																								
利用者(人)	1,047	1,224	1,139	1,176	1,197	1,167																																																																								
利用率(％)	58.7	64.7	61.9	63.1	62.7	62.1																																																																								
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																								
人数	9	8	8	9	10	15																																																																								

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																																																																
						本評価	説明																																																																																																																					
				・救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ドクターカーの運用に関して、出動可能な市町の拡大に努める。	救急科医師15名体制で稼働 <table><tr><td colspan="7">救急車受入率</td><td>(単位：％)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td></tr><tr><td>当番日</td><td>90.9</td><td>87.7</td><td>94.4</td><td>93.3</td><td>92.0</td><td>92.5</td><td></td></tr><tr><td>全 日</td><td>92.3</td><td>92.5</td><td>94.4</td><td>93.4</td><td>93.3</td><td>94.5</td><td></td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">特殊疾病患者受入数</td><td>(単位：件)</td></tr><tr><td>疾病名</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td></tr><tr><td>重症熱傷</td><td>11</td><td>9</td><td>4</td><td>14</td><td>21</td><td>28</td><td></td></tr><tr><td>重症外傷</td><td>380</td><td>431</td><td>335</td><td>410</td><td>480</td><td>688</td><td></td></tr><tr><td>急性中毒</td><td>46</td><td>26</td><td>39</td><td>60</td><td>64</td><td>82</td><td></td></tr><tr><td>病院外心停止</td><td>174</td><td>201</td><td>182</td><td>236</td><td>236</td><td>288</td><td></td></tr><tr><td>計</td><td>611</td><td>667</td><td>560</td><td>720</td><td>801</td><td>1,086</td><td></td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">ドクターカー出動状況</td><td>(単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td></tr><tr><td>件数</td><td>12</td><td>8</td><td>11</td><td>9</td><td>13</td><td>24</td><td></td></tr></table> 【参考】救急患者数 令5: 11,813人、令6: 12,546人 【参考】救急車受入件数 令5: 6,443件、令6: 7,147件	救急車受入率							(単位：％)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		当番日	90.9	87.7	94.4	93.3	92.0	92.5		全 日	92.3	92.5	94.4	93.4	93.3	94.5		特殊疾病患者受入数							(単位：件)	疾病名	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		重症熱傷	11	9	4	14	21	28		重症外傷	380	431	335	410	480	688		急性中毒	46	26	39	60	64	82		病院外心停止	174	201	182	236	236	288		計	611	667	560	720	801	1,086		ドクターカー出動状況							(単位：件)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		件数	12	8	11	9	13	24		A	救急当直体制の見直しを行っているが、現在も医師数が充足しているとは言えない状況である。 令和6年度の救急患者数及び救急車受入件数は、令和5年度を上回る水準で推移した。特殊疾病患者も積極的に受け入れ、高度救命救急センターとしての機能を果たしている。 ドクターカーは事故による重症外傷や胸痛等の循環器疾患が疑われる病態に対して出動している。令和6年度の出動件数は24件と、令和5年度に比べ大きく増加した。	・静岡医療圏の救急医療体制である輪番制に参加しており、内科・外科で月7回程度、小児科で月4回程度、年間延べ210日を超える当番日当直に対応している。 ・前年度と比較し、救急車受入率は増加、特殊疾病患者の受入数とドクターカーの出動件数は大きく増加し、地域医療機関との役割分担のもと、三次救急である高度救命救急センターとしての機能が発揮されている。 ・なお、医師の働き方改革の観点からも、救急医療体制を担う医師の確保・養成、働き方や勤務環境の改善に努めていくことが求められる中、令和6年度の救急科医師は前年度から増加し、15人体制となっている。	✓		○	39
救急車受入率							(単位：％)																																																																																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																						
当番日	90.9	87.7	94.4	93.3	92.0	92.5																																																																																																																						
全 日	92.3	92.5	94.4	93.4	93.3	94.5																																																																																																																						
特殊疾病患者受入数							(単位：件)																																																																																																																					
疾病名	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																						
重症熱傷	11	9	4	14	21	28																																																																																																																						
重症外傷	380	431	335	410	480	688																																																																																																																						
急性中毒	46	26	39	60	64	82																																																																																																																						
病院外心停止	174	201	182	236	236	288																																																																																																																						
計	611	667	560	720	801	1,086																																																																																																																						
ドクターカー出動状況							(単位：件)																																																																																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																						
件数	12	8	11	9	13	24																																																																																																																						
		・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び入院・外来患者満足度について各事業年度で高い水準を目指す。	40	①No.27 ②効率的な病院運営を行い、高い病床稼働率を維持する ③No.8	総合 <table><tr><td colspan="7">病床稼働率</td><td>(単位：％)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td>一般病棟</td><td>91.1</td><td>84.8</td><td>88.2</td><td>82.6</td><td>85.4</td><td>88.2</td><td>90以上</td></tr><tr><td>全体</td><td>86.6</td><td>80.7</td><td>83.7</td><td>78.0</td><td>80.5</td><td>83.3</td><td>-</td></tr></table>	病床稼働率							(単位：％)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	一般病棟	91.1	84.8	88.2	82.6	85.4	88.2	90以上	全体	86.6	80.7	83.7	78.0	80.5	83.3	-	B	令和5年5月以降、一般病床にて新型コロナウイルス感染症患者を受け入れている。入院中に発生した患者も含め新型コロナウイルス発症入院患者数は487名となる。 令和6年度は、目標値を下回るが、昨年度よりも高い水準で推移している。新規入院患者数も増加しており、地域医療の維持に大きく貢献している。	・病床稼働率は、前年度の実績を上回ったものの、一般病床の稼働率は目標値を下回った。 ・引き続き、稼働率の向上に努める必要がある。	✓	✓	△	40																																																																																
病床稼働率							(単位：％)																																																																																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																																																																					
一般病棟	91.1	84.8	88.2	82.6	85.4	88.2	90以上																																																																																																																					
全体	86.6	80.7	83.7	78.0	80.5	83.3	-																																																																																																																					
		【目標値】 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合)	-	-	-	-	-	-																																																																																																																				
	県立こころの医療センター	④ 県立こころの医療センター診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。  県民に提供する医療＜業務予定量＞ 病床数 274床 精神病床 274床 外来患者 36,184人 入院患者 56,502人	41	-	総合 <table><tr><td colspan="7">入院・外来患者数</td><td>(単位：人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td>6年度目標</td></tr><tr><td>入院患者数</td><td>54,037</td><td>53,246</td><td>49,296</td><td>50,282</td><td>52,898</td><td>54,525</td><td>56,502</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>39,647</td><td>37,285</td><td>36,692</td><td>36,761</td><td>36,865</td><td>39,607</td><td>36,184</td></tr></table>	入院・外来患者数							(単位：人)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標	入院患者数	54,037	53,246	49,296	50,282	52,898	54,525	56,502	外来患者数	39,647	37,285	36,692	36,761	36,865	39,607	36,184	B	入院患者数、外来患者数ともに前年度を大きく上回ったが、入院患者数は目標値に達しなかった。 引き続き、他の医療機関では対応困難な重症患者などを積極的に受け入れ、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしていく。	・県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療、精神科救急医療、司法精神医療を提供している。 ・入院患者数、外来館者数とも、前年度より増加し、コロナ前と同程度に回復した。 ・外来患者数は目標値を大きく上回ったが、入院患者数は目標値を下回った。 ・引き続き県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療、精神科救急医療、司法精神医療を提供することが必要である。	✓	✓	△	41																																																																																
入院・外来患者数							(単位：人)																																																																																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																																																																																																					
入院患者数	54,037	53,246	49,296	50,282	52,898	54,525	56,502																																																																																																																					
外来患者数	39,647	37,285	36,692	36,761	36,865	39,607	36,184																																																																																																																					
		・常時精神科救急医療相談に応じ、患者の支援体制の充実を図る。 ・救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の充実を図る。	42	①②24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受け入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	総合 <table><tr><td colspan="7">平成15年4月より、県の委託事業として県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応している。 関係機関、公的機関及び就労支援施設等に配布する当センター広報誌「ぬくもり」を年4回発行し、当センターホームページへ「精神科救急ダイヤル」に関する情報を登載し、周知を図っている。 精神科救急ダイヤル件数</td><td>(単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td></td></tr><tr><td>全相談件数</td><td>3,957</td><td>3,649</td><td>1,857</td><td>2,111</td><td>2,063</td><td>1,941</td><td></td></tr><tr><td>うち時間外</td><td>2,153</td><td>2,678</td><td>1,288</td><td>1,530</td><td>1,517</td><td>1,368</td><td></td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">時間外における救急診療件数</td><td>(単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td>件 数</td><td>390</td><td>335</td><td>313</td><td>252</td><td>249</td><td>221</td><td>250以上</td></tr></table>	平成15年4月より、県の委託事業として県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応している。 関係機関、公的機関及び就労支援施設等に配布する当センター広報誌「ぬくもり」を年4回発行し、当センターホームページへ「精神科救急ダイヤル」に関する情報を登載し、周知を図っている。 精神科救急ダイヤル件数							(単位：件)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度		全相談件数	3,957	3,649	1,857	2,111	2,063	1,941		うち時間外	2,153	2,678	1,288	1,530	1,517	1,368		時間外における救急診療件数							(単位：件)	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	件 数	390	335	313	252	249	221	250以上	B	24時間365日対応可能な相談・診療体制を整え、県との委託契約により全県の精神科救急の窓口となる「精神科救急ダイヤル」を運営しており、必要時に必要な相談を受け、必要な診療を実施出来る体制を整えた。 令和5年4月からは、県の精神科救急医療対策事業において、従来の志太榛原園域の病院群輪番型に加え、全県域常時対応型の後方支援施設としての指定を受けており、よりスピード感を持った対応と、断らない精神科救急を実施した。 時間外における救急診療件数が減少しているものの、全時間帯における救急診療件数は468件→677件に増加した。	・県から受託している「精神科救急ダイヤル」の相談件数は、特定の患者から頻回の相談があること等の理由で、年度により増減があるが、おおむね年間2,000件を超える相談に対応している。 ・時間外における救急診療件数は、令和6年度は目標値を下回ったが、24時間365日対応可能な相談・診療体制が取られている。 ・件数については、必要に応じて要因を分析するなど、適切な診療体制の維持が求められる。	✓	✓	△	42																																																								
平成15年4月より、県の委託事業として県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応している。 関係機関、公的機関及び就労支援施設等に配布する当センター広報誌「ぬくもり」を年4回発行し、当センターホームページへ「精神科救急ダイヤル」に関する情報を登載し、周知を図っている。 精神科救急ダイヤル件数							(単位：件)																																																																																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																						
全相談件数	3,957	3,649	1,857	2,111	2,063	1,941																																																																																																																						
うち時間外	2,153	2,678	1,288	1,530	1,517	1,368																																																																																																																						
時間外における救急診療件数							(単位：件)																																																																																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																																																																					
件 数	390	335	313	252	249	221	250以上																																																																																																																					
		①新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。	43	①新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。	総合 <table><tr><td colspan="7">早期治療、早期退院の実践により、救急病棟(南2・北2)における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」はそれぞれの施設基準を満たすことができた。 新規患者率</td><td>(単位：％)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>施設基準</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>救 急 南2</td><td>40%以上</td><td>73.4</td><td>61.7</td><td>68.7</td><td>69.0</td><td>72.0</td><td>66.8</td></tr><tr><td>救 急 北2</td><td>40%以上</td><td>64.8</td><td>60.8</td><td>67.4</td><td>67.0</td><td>59.0</td><td>68.8</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">新規患者3ヶ月以内在宅移行率</td><td>(単位：％)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>施設基準</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>救 急 南2</td><td>60%以上</td><td>78.7</td><td>89.4</td><td>82.9</td><td>86.0</td><td>86.9</td><td>72.8</td></tr><tr><td>救 急 北2</td><td>60%以上</td><td>79.7</td><td>86.7</td><td>86.3</td><td>77.4</td><td>77.9</td><td>80.7</td></tr></table>	早期治療、早期退院の実践により、救急病棟(南2・北2)における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」はそれぞれの施設基準を満たすことができた。 新規患者率							(単位：％)	区 分	施設基準	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	救 急 南2	40%以上	73.4	61.7	68.7	69.0	72.0	66.8	救 急 北2	40%以上	64.8	60.8	67.4	67.0	59.0	68.8	新規患者3ヶ月以内在宅移行率							(単位：％)	区 分	施設基準	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	救 急 南2	60%以上	78.7	89.4	82.9	86.0	86.9	72.8	救 急 北2	60%以上	79.7	86.7	86.3	77.4	77.9	80.7	A	新規患者率及び新規患者3か月以内在宅移行率ともに病棟ごとに差はあるものの基準を満たすことが出来た。 救急・急性期治療病棟の役割を適切に果たすとともに、精神科救急入院料の施設基準を維持することができた。	・通常の入院医療と比べて多くのマンパワーと厳しい算定基準が課される精神科救急入院料を算定する南2(43床)・北2(45床)病棟においては、算定基準である新規患者率40%以上、新規患者3か月以内在宅移行率60%を大幅に上回る水準となっており、再入院等の課題はあるものの、引き続き早期退院の促進及び地域移行支援が期待される。				43																																																
早期治療、早期退院の実践により、救急病棟(南2・北2)における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」はそれぞれの施設基準を満たすことができた。 新規患者率							(単位：％)																																																																																																																					
区 分	施設基準	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																					
救 急 南2	40%以上	73.4	61.7	68.7	69.0	72.0	66.8																																																																																																																					
救 急 北2	40%以上	64.8	60.8	67.4	67.0	59.0	68.8																																																																																																																					
新規患者3ヶ月以内在宅移行率							(単位：％)																																																																																																																					
区 分	施設基準	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																					
救 急 南2	60%以上	78.7	89.4	82.9	86.0	86.9	72.8																																																																																																																					
救 急 北2	60%以上	79.7	86.7	86.3	77.4	77.9	80.7																																																																																																																					



中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																
							本評価	説明																																																																					
		・他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療に積極的に取り組む。	○他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度専門医療(クロザピン、m-ECT(修正型電気けいれん療法)、心理・社会的治療(心理教育、家族教室等))への取組	44	①薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT(修正型電気けいれん療法)を積極的に実施する。 高度・専門医療の積極的な実施。	治療が必要とされる重症患者に対し、m-ECTの治療を実施している。  m-ECT実施件数 (単位:人) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>延件数(件)</td><td>870</td><td>737</td><td>827</td><td>665</td><td>715</td><td>427</td><td>700以上</td></tr><tr><td>実患者数</td><td>70</td><td>59</td><td>56</td><td>54</td><td>62</td><td>42</td><td>—</td></tr><tr><td>中部地区</td><td>62</td><td>55</td><td>53</td><td>51</td><td>56</td><td>40</td><td>—</td></tr><tr><td>(静岡市)</td><td>50</td><td>45</td><td>43</td><td>43</td><td>48</td><td>7</td><td>—</td></tr><tr><td>東部地区</td><td>5</td><td>3</td><td>1</td><td>2</td><td>5</td><td>2</td><td>—</td></tr><tr><td>西部地区</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>—</td></tr><tr><td>その他</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	延件数(件)	870	737	827	665	715	427	700以上	実患者数	70	59	56	54	62	42	—	中部地区	62	55	53	51	56	40	—	(静岡市)	50	45	43	43	48	7	—	東部地区	5	3	1	2	5	2	—	西部地区	2	1	2	1	1	0	—	その他	1	0	0	0	0	0	—	B	m-ECT治療について、令和6年度は427件の治療を実施した。 令和5年度と比較して、実患者数が20名減少したことにより、延件数が減少した。 m-ECT治療は最終手段かつ侵襲的な治療法であるため、今まで以上に治療効果とリスクを検討した上で実施している。	・m-ECT実施件数は、目標値を下回った。 ・一方で、様々な新薬の導入等によって薬物療法への移行が進んでおり、その例として、薬物療法の患者数(No.45)は増加している。 ・他の医療機関では対応困難な高度治療が継続して提供できていると考えられ、設定する目標値について再検討することを提案する。  (参考) ・m-ECT(修正型電気けいれん療法)は、頭部への電気刺激により、脳内に治療の影響を与える治療法である。麻酔科医による全身麻酔の下、筋弛緩剤の投与により体幹のけいれんを起こさせない従来より安全・有効な治療法であり、うつ病、躁うつ病、統合失調症などの治療に用いられている。	✓	✓	△	44
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																						
延件数(件)	870	737	827	665	715	427	700以上																																																																						
実患者数	70	59	56	54	62	42	—																																																																						
中部地区	62	55	53	51	56	40	—																																																																						
(静岡市)	50	45	43	43	48	7	—																																																																						
東部地区	5	3	1	2	5	2	—																																																																						
西部地区	2	1	2	1	1	0	—																																																																						
その他	1	0	0	0	0	0	—																																																																						
				45	①先端薬物療法(クロザピンなど)を積極的に実施する。	令和6年度末時点で117名に対して継続投与中である。 静岡県内においては、現在10件の登録機関があるが、当院は3番目に承認を受けている。  クロザピン投与患者数 (単位:人) <table><tr><th>項目</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>患者数</td><td>60</td><td>65</td><td>73</td><td>83</td><td>91</td><td>117</td></tr></table>  クロザピン新規導入患者数 (単位:人) <table><tr><th>項目</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>6年度目標</th></tr><tr><td>患者数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>7</td><td>12</td><td>20</td><td>12人以上</td></tr></table>	項目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	患者数	60	65	73	83	91	117	項目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標	患者数	-	-	-	7	12	20	12人以上	A	令和6年度は投与患者数は117名となった。 クロザピン新規導入患者数は全体で20名、そのうち精神科救急に係る施設基準におけるクロザピンの新規導入患者数は18名となっている。	・令和6年度のクロザピン新規投与患者数は20名で、目標値を上回った。  (参考) ・クロザピンは、難知性の統合失調症に高い効果を示す抗精神病薬である。 ・平成21年に発売開始されたが、高い治療効果の反面、白血球の減少といった重篤な副作用が報告されていることから、安全管理体制の整備が義務付けられており、適正使用委員会の事前承認を受け、施設登録された機関のみが使用できる。また、令和2年度診療報酬改定における算定要件の見直し等によって普及促進が図られている。 ・登録の要件として、精神病床を有する医療機関の血液内科医との連携が求められていることから、静岡県立総合病院及び静岡市立静岡病院と緊急時の連携体制を構築している。	✓	✓	○	45																																		
項目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																							
患者数	60	65	73	83	91	117																																																																							
項目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																																																						
患者数	-	-	-	7	12	20	12人以上																																																																						
				46	①心理・社会的治療についての取組を積極的に実施する。	平成22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施している。また、心理教育に関する院内外研修会を開催し、スタッフのレベルアップに努めている。  心理教育参加者数 (単位:人) <table><tr><th>項目</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>参加者数</td><td>154</td><td>86</td><td>93</td><td>83</td><td>142</td><td>143</td></tr></table>  心理教育研修会参加者数 (単位:人) <table><tr><th>項目</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>参加者数</td><td>66</td><td>35</td><td>29</td><td>0</td><td>26</td><td>23</td></tr></table>	項目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	参加者数	154	86	93	83	142	143	項目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	参加者数	66	35	29	0	26	23	A	心理教育参加者数、院内の心理教育研修会については、前年度並みとなった。	・第3期中期目標期間においては、コロナ対策による活動縮小が続いたが、令和6年度の心理教育参加者数は、前年度に引き続きコロナ前と同程度となった。 ・心理教育研修会参加者数はコロナ前の半数以下だが、前年度と同程度は維持している。  (参考) ・心理教育とは、病気に関する知識を提供し、地域で暮らしていく力量を身に付けさせ、医療機関での治療から精神障害者を日常的に支える地域リハビリテーションへの連続的な移行を目指して行われる支援法である。				46																																				
項目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																							
参加者数	154	86	93	83	142	143																																																																							
項目	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																							
参加者数	66	35	29	0	26	23																																																																							
		・入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるように、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制を構築する。	○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようになるための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築	47	①在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア(ACT)チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。	平成21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を実施している。平成22年2月の支援開始以来延べ31名の支援活動を実施した。  ACT実施状況 <table><tr><th></th><th></th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td rowspan="2">対象者</td><td>外来</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>3</td><td>5</td></tr><tr><td>入院</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>3</td><td>2</td></tr><tr><td>活動状況</td><td>外来</td><td colspan="6" rowspan="2">多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</td></tr><tr><td></td><td>入院</td></tr></table>			元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	対象者	外来	4	4	4	4	3	5	入院	2	1	1	1	3	2	活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス							入院	A	令和6年度末時点では外来患者5名及び入院患者2名に対して支援活動を実施している。	・令和6年度の外来の対象患者は5名、入院の対象患者は2名となった。引き続き患者のニーズに合わせた支援体制を維持していくことが期待される。  (参考) ・医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士等からなる包括型地域生活支援プログラム(ACT)チームが地域生活での支援体制の整備と長期入院患者の退院促進に取り組み、社会復帰を後押ししている。 ・診療報酬や職員充足の課題はあるが、対象となる新規ケースの減少に対して、毎月、退院促進委員会で支援対象者の抽出を行うなど、患者のニーズに合わせた支援が行われている。	✓		○	47																															
		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																						
対象者	外来	4	4	4	4	3	5																																																																						
	入院	2	1	1	1	3	2																																																																						
活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス																																																																											
	入院																																																																												
		・「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療について、指定医療機関としての役割を積極的に果たす。	○医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与 ①「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療への指定医療機関としての積極的な関与	48	①医療観察法による入院処遇対象者を受け入れ、指定医療機関としての機能を最大限に発揮する。	令和6年度は4名の退院、3名の新規入院があった。  医療観察法病棟の稼働状況 (単位:床・%) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>病床数(床)</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td></tr><tr><td>病床利用率(%)</td><td>84.1</td><td>98.2</td><td>102.4</td><td>110.3</td><td>100.1</td><td>98.3</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	病床数(床)	12	12	12	12	12	12	病床利用率(%)	84.1	98.2	102.4	110.3	100.1	98.3	A	令和6年度は特定病床の使用はなかったが、入院処遇対象患者の受入を円滑に行い、指定医療機関としての機能を発揮した。	・こころの医療センターは、県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として、12床で稼働している。 ・稼働率の増減は、厚生労働省からの入院要請の有無次第であるが、令和6年度もほぼ満床の状態を維持しており、社会的要請である司法精神医療に対応している。  (参考) ・医療観察法は、心神喪失等の状態で重大な他害行為を犯してしまった人に対して、必要な医療提供や社会復帰促進を図るための法律である。 ・入院は地方裁判所の処遇決定のもと、厚生労働省からの要請に基づき行われるが、退院後は地域社会における適切な処遇が必要となることから、通院医療提供、生活保護、社会復帰支援、訪問指導等を担う関連行政機関との連携も重要である。	✓		○	48																																											
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																							
病床数(床)	12	12	12	12	12	12																																																																							
病床利用率(%)	84.1	98.2	102.4	110.3	100.1	98.3																																																																							



中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																																															
							本評価	説明																																																																																																				
		・認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応を図る。	○認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応 ①多様な精神疾患及び小児から成人への移行期における精神疾患等に対応するための体制の構築に向けた取組	49	①総合病院における身体合併症患者への精神科医療の提供体制を整備する。 ・公立病院経営強化プラン等の精神医療の方針を踏まえ、県内精神医療の中核病院としての役割を担う体制を整備する。 また、病棟整備計画の策定や県民要望に対応した新たな体制を構築し、休床病床の解消を行う。 ・総合病院、こども病院などと連携し、児童精神分野における精神科医療の提供体制の整備を図る。 ・多様な精神疾患などに対する研究体制を整備する。	・公立病院経営強化プランや県立病院機構精神科あり方検討ワーキンググループを踏まえ、多様な精神疾患対応するため、「大人の発達障害の専門外来」、「クロザピン相談外来」を開設した。 また、各種依存症治療に対応するため、治療指導者養成研修の受講を行い、令和7年度の「依存症サポート外来」の開設に備えている。 ・休床解消については、北3病棟の改修に向けて基本・実施設計を実施中。 ・令和6年度から研究部を設置し臨床研究を実施した。	こころ	A	多様な精神疾患に対応するため、10月に「大人の発達障害外来」を1月には「クロザピン相談外来」を開設した。 施設整備については、県内精神医療の中核としての役割を果たすよう体制の整備を進めていく。 令和6年度から研究部を設置し、研究体制の整備を行っている。	・こころの医療センターへの発達障害外来の設置にあたっては、こども病院との役割分担や連携が重要であり、こども病院からの情報提供や相互の分析が必要である。 ・専門外来の設置や研究体制の整備など、多様な精神疾患への対応強化に取り組んでいる。 ・引き続き、将来的な医療需要や、病院機構3病院の精神科医療提供体制のあり方を踏まえた検討及び実施を期待する。	✓		○	49																																																																																														
		・良好な療養環境の整備と効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び外来患者満足度について各事業年度で高い水準を目指す。	○良好な療養環境の整備と効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①国の公立病院経営強化政策指針や県、病院機構における精神科のあり方検討を踏まえた医療体制及び病棟の整備 ②施設基準に対応したクロザピン新規導入患者数の確保 ③病床稼働率85%以上の維持 ④患者満足度(外来)の向上	50	①No.49 ②No.45 ③常時、救急患者を受け入れる体制の維持と、他職種連携による早期退院促進による効率的な病院運営に努める。 ④No.8	・個室化の整備状況 個室化の整備については、北3病棟改修工事において3階部分の個室化を行い、その後既存各病棟の個室化を実施する予定。  病床稼働率 (単位：%) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>稼働率</td><td>85.8</td><td>84.8</td><td>78.5</td><td>80.1</td><td>84.0</td><td>86.9</td><td>85以上</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	稼働率	85.8	84.8	78.5	80.1	84.0	86.9	85以上	こころ	A	積極的に患者を受け入れ、ベッド調整会議において効率的な病床運営を行ったことにより、令和6年度の病床稼働率はコロナ前と比較しても高い値となった。	・令和6年度は、病床稼働率が増加し、目標値及びコロナ前の実績値を上回っている。 ・良好な療養環境については、個室化の整備を掲げている。休床中の102床を含む病棟全体の整備について、将来的な医療需要や、病院機構3病院の精神科医療提供体制のあり方を踏まえた検討及び実施を期待する。	✓	✓	○	50																																																																														
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																																																					
稼働率	85.8	84.8	78.5	80.1	84.0	86.9	85以上																																																																																																					
		【目標値】 ・クロザピン投与患者数(こころ) ・病床稼働率(こころ) ・患者満足度[外来](こころ)	【目標値】県立こころの医療センター ・クロザピン投与患者数(こころ) ・病床稼働率(こころ) ・患者満足度[外来](こころ) ・時間外診療件数(こころ) ・m-ECIT実施件数(こころ)	-	-	-	-	-																																																																																																				
		県立こども病院	県立こども病院診療事業 小児分野の中核的医療を行う基幹病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療を提供する。また、小児期から成人期への移行期医療に取組む。  県民に提供する医療<業予定量> 病床数 279床 一般病床 243床 精神病床 36床 外来患者 99,976人 入院患者 66,678人	51	-	入院・外来患者数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>6年度目標</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>75,736</td><td>65,681</td><td>66,476</td><td>67,877</td><td>68,088</td><td>69,143</td><td>66,678</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>100,672</td><td>93,078</td><td>104,999</td><td>103,277</td><td>98,167</td><td>102,926</td><td>99,976</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標	入院患者数	75,736	65,681	66,476	67,877	68,088	69,143	66,678	外来患者数	100,672	93,078	104,999	103,277	98,167	102,926	99,976	こども	A	小児分野の中核的医療を行う基幹病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療の提供に努めた。 令和5年10月末に発令した経営危機宣言を令和6年度も継続し、院長ヒアリングにおいて各診療科ごとの目標設定を明確にするなど、患者数が増加するよう取り組んだ。結果、令和6年度の入院患者数及び外来患者数は、前年度実績を上回り令和6年度目標を達成した。	・県内小児医療の中核病院として、総合的・専門的な小児・周産期医療を提供し、県内全域の小児・周産期医療ニーズへの適切な対応や県と協働した医療提供体制の構築に努めている。 ・入院患者数及び外来患者数については、前年度及び目標値を上回った。	✓	✓	○	51																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																																																																																					
入院患者数	75,736	65,681	66,476	67,877	68,088	69,143	66,678																																																																																																					
外来患者数	100,672	93,078	104,999	103,277	98,167	102,926	99,976																																																																																																					
		・小児分野の中核的医療を行う基幹病院として、ハイブリッド手術室等の先進設備を活用し、小児重症心疾患患者などに対して常時高度な先進的治療を提供する。小児心疾患治療の先進的施設として、専門医等の育成に努める。	○小児重症心疾患患者に対し、常時高度な専門的治療を提供する体制の充実及び小児心疾患治療の先進的な施設としての専門医等の育成 ①小児重症心疾患患者へ常時対応による専門的治療の提供体制の充実 ②小児循環器疾患治療スタッフに対する教育体制の充実や小児集中治療室(PICU)及び新生児集中治療室(NICU)の相互研修の実施を通じた治療レベルの向上による循環器センターの機能を強化 ③小児用補助人工心臓装置の活用に向けた体制整備 ④心エコー画像のリアルタイム遠隔診断の実施 ⑤血管撮影装置の2台化による循環器治療の提供体制の整備	52	①心臓血管外科、循環器科の連携による専門治療と、術後管理を行う小児集中治療室(PICU)を加えた循環器センターの体制を維持・充実させる。 ②新生児集中治療室(NICU)・小児集中治療室(PICU)と共同でカンファレンスを実施し、より研修効果をあげ、治療レベルの向上を図る。 ③小児用補助人工心臓装置の施設認定と機器の活用を図る。 ④心エコー画像の遠隔診断を継続実施する。 ⑤血管撮影装置の増設も視野に入れた循環器治療提供体制の整備を図る。	こども	A	心臓カテーテル治療実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>6年度目標</th></tr><tr><td>実施件数</td><td>206</td><td>192</td><td>204</td><td>187</td><td>245</td><td>202</td><td>200件以上</td></tr></table> ハイブリッド手術実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>5</td><td>8</td><td>6</td><td>4</td><td>8</td><td>6</td></tr></table> 循環器センターにおける入院患者数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>循環器科</td><td>5,759</td><td>4,777</td><td>4,795</td><td>5,577</td><td>5,546</td><td>5,945</td></tr><tr><td>心臓血管外科</td><td>6,952</td><td>6,195</td><td>3,700</td><td>2,640</td><td>2,262</td><td>2,414</td></tr></table> 循環器センターにおける研修医の人数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>人数</td><td>9</td><td>7</td><td>9</td><td>8</td><td>12</td><td>7</td></tr></table> 小児用補助人工心臓装置の使用状況 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr></table> 心エコー画像遠隔診断実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>症例数</td><td>3</td><td>0</td><td>2</td><td>5</td><td>7</td><td>4</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標	実施件数	206	192	204	187	245	202	200件以上	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	件数	5	8	6	4	8	6	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	循環器科	5,759	4,777	4,795	5,577	5,546	5,945	心臓血管外科	6,952	6,195	3,700	2,640	2,262	2,414	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	人数	9	7	9	8	12	7	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	件数	0	0	0	0	0	1	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	症例数	3	0	2	5	7	4	A	心臓血管外科、循環器科を中心とした連携により、循環器センターにおいて多くの小児重症心疾患患者を受け入れた。 令和6年度心臓カテーテル治療件数は、202件であり、目標値である200件を上回った。また、ハイブリッド手術室におけるハイブリッド手術実績も、高水準であった前年度並で推移している。 令和4年度に県内初の治療を行った経皮的肺動脈弁置換術(TPVI)も継続的に実施しており、令和6年6月には重症心臓疾患を持つネパール人の患者を受け入れTPVIを行い成功している。 ハイブリッド手術室について、当院の小児心臓カテーテル治療件数は全国トップレベルであり、更なる件数の増加を見込めることから、部屋の増設及び血管撮影装置の設置についても検討していく。 小児用補助人工心臓装置活用の再開に向けた取組として、令和6年7月1日付けで小児用補助人工心臓実施施設として再度認定を受け、1名患者を受け入れた。 さらに、心エコー画像の遠隔診断実績は4件と例年並みで推移している。 なお、循環器センターにおいて、7名の研修医を受け入れた。	・心臓カテーテル治療実績は、前年度からは減少したものの、目標値を上回った。 ・心臓カテーテル治療経皮的肺動脈弁置換術(TPVI)は、令和6年度においても海外からの患者を受け入れるなど継続的に実施されている。 ・ハイブリッド手術の件数自体は多くないが、小児医療領域では適用患者が限られている上、カテーテル治療や検査を安全に実施することを主な目的として設置された経緯もあり、有効に活用されている。 ・令和6年度においては、令和4年1月1日から認定外となっていた小児用補助人工心臓実施施設に再度認定されたことから、今後の積極的な取組を期待するとともに、認定要件を継続できるよう施設・人材の育成を期待する。  (参考) ・小児重症心疾患患者に対して、専門治療や術後の集中管理により、24時間を通して高度な先進的医療を提供するとともに、専門医育成を図っている。 ・令和3年度に国で認可された心臓カテーテル治療経皮的肺動脈弁置換術(TPVI)について、こども病院は令和4年度に初期導入13施設の一つに指定され、令和5年3月に県内初の治療を行った。	✓	✓	○	52
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																																																																																					
実施件数	206	192	204	187	245	202	200件以上																																																																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																						
件数	5	8	6	4	8	6																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																						
循環器科	5,759	4,777	4,795	5,577	5,546	5,945																																																																																																						
心臓血管外科	6,952	6,195	3,700	2,640	2,262	2,414																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																						
人数	9	7	9	8	12	7																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																						
件数	0	0	0	0	0	1																																																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																						
症例数	3	0	2	5	7	4																																																																																																						

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.
							本評価	説明					
		・地域の医療機関と連携して、ハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるほか、新生児に対して、高度な先進的治療を提供するとともに、社会の要求に応じ、県内一般小児医療水準の向上に取り組む。	○地域の医療機関と連携したハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの維持・充実と新生児に対しての高度な専門的治療を提供する体制の拡充 ①先天異常の出生前診断や、出生後の管理・処置のための体制整備 ②新生児への低侵襲手術の実施 ③社会の要求に応じた県内一般小児医療水準の向上	53	①最新式の超音波診断装置を導入する。 ②必要に応じ院内での低侵襲手術を継続実施する。 ③小児救急リモート指導医相談支援事業を活用したオンラインによる診療体制を構築する。	産科診療実績 (単位：人) 区 分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 入院延患者数 5,810 4,461 4,823 3,642 4,003 4,347 MFICU入院延患者数※ 1,907 1,517 1,433 1,240 1,273 1,520 ※令和6年6月からは、MFICU入院相当患者であるハイリスク妊娠管理加算又はハイリスク分娩等管理加算を算定した患者を記載している。  周産期医療に係る地域医療機関向け研修会等開催実績 (単位：回、人) 区 分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 研修会等回数 9 8 2 1 2 4 参加者数 377 255 155 45 55 80  NICU診療実績 (単位：人、%) 区 分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 入院延患者数 5,250 5,029 5,094 5,121 5,293 5,053 病床稼働率 79.7 76.5 77.5 77.9 80.3 76.9  GCU診療実績 (単位：人、%) 区 分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 入院延患者数 4,723 4,685 4,978 5,001 5,161 5,044 病床稼働率 71.7 71.3 75.8 76.1 78.3 76.8  新生児出生体重別入院患者実績 (単位：人) 体重(g) 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 500未満 8 4 6 2 1 4 500~1,000 41 19 22 23 13 19 1,000~1,500 25 28 15 24 18 15 1,500以上 139 168 248 180 212 213 合計 213 219 291 229 244 251  遠隔外来患者数 (単位：人) 区 分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 患者数 — 117 217 181 204 178 相談件数 — — — — 8 26	A	令和6年度の産科入院患者数は、前年度を上回る数値で推移している。最新式の超音波診断装置など最先端の医療機器を整備し、先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置等を適切に行っている。 こども病院では他の医療機関では対応が困難な超低出生体重児、極低出生体重児を受け入れており、特に令和6年度は500g未満で出生した新生児4名を診療している。より低体重で出生した患児に対しては、診療に多くの時間と人員を必要とすることもあり、NICU入院延患者数は昨年度の実績を下回った。また、新生児回復室であるGCUの入院患者数及び病床稼働率も前年度を下回った。 なお、必要に応じ新生児への低侵襲手術を実施している。 地域医療機関を対象とした研修会、検討会は、令和6年度4回開催している。 上記のとおり総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク母体、胎児及び新生児に高度かつ一貫した医療提供を実施しており、その役割を着実に果たした。 なお、地域・小児夜間救急における地域病院群オンライン連携による365日対応を試行する「小児救急リモート指導医相談支援事業」について、関係者会議での報告・協議を行いつつ、実証試験を進めている。先行病院については令和5年12月に運用を開始し、後発病院については令和6年2月に運用を開始した。当院を含め6病院で運用し、累計26件のリモート指導を実施した。 さらには、早期発見・早期治療の効果が非常に高い疾患(診断技術と治療法の進歩により新たに対象となった疾患を含む)の新生児期における発見を目的に、こども病院が実施主体となって全県的な実施体制を整備し、静岡県において「拡大新生児スクリーニング検査」を令和5年10月に開始した。実施主体の当院、検査施設の県予防医学協会、分娩施設の3者契約により検査を実施し、41医療機関(分娩施設)が参加している。また、陽性者に迅速に対応し、正確な診断、適切な治療に遅滞なくつなげるため、こども病院、浜松医科大学小児科、聖隷浜松病院小児科の専門医で静岡希少疾患ネットワークを組織している。本事業を県全域に広げることを目標に、本県でも希少疾患の子ども達を症状発症前に発見し、診断・治療につなげ、命を救い、生活の質を格段に改善するために、引き続き取り組んでいく。	・総合周産期母子医療センターの指定を受け、周産期医療の中核を担っている。 ・他の医療機関では対応が困難な超低出生体重児、極低出生体重児を受け入れながらも、効果的・効率的なベッドコントロールに努め、高い診療実績を上げている。 ・研修会について、令和6年度は年4回開催と、開催回数が増加し、中部地区の参加医師を交えた症例検討会や、看護師・助産師を対象にしたスキルアップレクチャー等を通じて、医療技術向上と連携の強化を図っている。	✓		○	53
		・本県における小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的治療に積極的に取り組む。	○小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として、高度な集学的治療への積極的な取組 ①小児がんの集学的治療推進、セカンドオピニオンの受入れなど、がん診療の機能強化 ②院内がん登録の推進 ③県立静岡がんセンターとの連携強化 ④AYA世代がん診療の連携等を推進 ⑤がん公開講座や研修会等の開催	54	小児がん拠点病院として、整備した施設及び体制の活用により、小児がん診療の更なる充実を行う。 ①②静岡県小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として血液腫瘍に対しては、骨髓・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用して対応する。 ③県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施する。 ③小児がん連携病院を指定し、地域医療機関との連携を図り、拠点病院としての役割を果たす。 ④AYA世代がんに携わる医療従事者向け研修会を開催する。 ⑤がん公開講座や研修会(脳腫瘍関連)等を開催する。	血液腫瘍科延患者数実績 (単位：人) 区 分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 入院 7,849 7,335 4,810 6,268 6,326 4,772 外来 3,430 3,079 3,276 3,204 2,772 2,834  造血幹細胞移植実績 (単位：件) 区 分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 骨髓移植 2 8 3 3 3 5 臍帯血 3 2 2 2 2 4 自家末梢血 4 1 1 4 2 6 同種末梢血 1 1 0 1 2 0 計 10 12 6 10 9 15  小児がん登録件数 (単位：人) 区 分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 6年度目標 登録件数 56 55 53 42 45 41 45  がんセンターとの共同カンファレンス回数 (単位：回) 区 分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 回数 3 7 3 9 12 13  AYA世代がん研修会実施回数 (単位：回) 区 分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 回数 4 2 2 2 3 3  がん公開講座件数 (単位：回) 区 分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 件数 1 0 1 1 1 1  研修会(脳腫瘍関係) (単位：回) 区 分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 開催回数 - - 1 1 1 1 参加人数 - - 64 61 66 54	A	こども病院は、平成31年4月に全国で15施設しか選定されない厚生労働省指定の小児がん拠点病院に初めて指定され、指定期間の4年間に於いて着実にその責務を果たした。このことにより、令和4年度に拠点病院としての指定を再度受け、令和5年4月から2期目の取組を開始している。 令和6年度の小児がん登録件数は41件であり、院内がん登録を推進しており、造血幹細胞移植を計15件実施し、各種治療法を利用して対応した。また、がんセンターとの共同カンファレンスは13回実施しており、最良の診療を提供するべく連携強化を図った。 がん相談支援センターを設置し、患児やその家族の抱える悩みや不安を受け止め、継続的に支援、対応をしている。 また、AYA世代がんに携わる医療従事者向け研修会を実施するとともに、専門医の育成にも取り組んでいる。 指定継続により、ドラッグラグの解消、難治性疾患の治療開発のための治験・臨床研究への参加が加速し、小児がん領域の医師主導治験2件、企業治験1件(国際共同治験で国内参加施設は5施設のみ)、国際共同特定臨床研究1件に参加している。治験参加施設は限られており、当院の小児がん患者が他施設では使用できない薬剤を使用する機会が増加するなど、治験参加のメリットは非常に大きい。更なる体制整備を進め、指定継続を確実なものにしていく。 院内外科系診療科、内科系診療科との密な連携や、がん化学療法看護・緩和ケア認定看護師を含む看護スタッフ、薬剤師、チャイルド・ライフ・スペシャリスト等の多職種の専門職の協働により、高度な集学的治療に積極的に取り組んでおり、小児がん拠点病院としての役割を着実に果たしている。 さらには、以下取組を実施している。 ・小児がん拠点病院として臨床試験、治験に積極的に取り組み、症例のリクルートにあたって県内の小児がん連携病院と連携している。 ・小児がんに対するがんゲノム医療を実践し、臨床研究を通じてゲノム医療の開発を行っている。 ・遺伝染色体科と協同し、遺伝性腫瘍の診療を行っている。 ・神経線維腫症1型に伴う叢状神経線維腫に対し、分子標的薬MEK阻害剤の使用を開始し、適用実績を重ねている。 ・外科系診療科と共に血管腫・脈管奇形の診療、薬物治療に取り組んでいる。	・こども病院は、全国で15施設を国が指定する小児がん拠点病院として、小児がんに対する集学的な治療を行っている。 ・小児がん登録件数は、令和6年度は目標値を下回ったが、同水準を維持している。 ・がんゲノム医療連携病院としてのがん遺伝子パネル検査等の実施や、がんセンターとの共同カンファレンスを継続し、多方面での診療や連携強化を図っている。 ・医療従事者や患者家族等に対してAYA世代がんの治療方法等をテーマとした研修会を開催し、AYA世代患者への相談対応の強化に取り組んでいる。これらの研修や公開講座については、継続的に一定数が確保されている。 ・今後も、小児がん拠点病院として、がん登録中級認定者資格を有する院内専従職員の確保に努め、診療体制の整備、地域医療機関との連携、AYA世代の成人移行・長期フォローアップへの対応など、更なる機能強化を図ることが期待される。	✓	✓	○	54



中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																																																									
							本評価	説明																																																																																																														
		・重篤な小児救命救急患者を常時受入れ可能な体制を維持・強化し、救急医療全般にわたって地域の医療機関と連携して受け入れる体制を整備する。	○重篤な小児救急患者を常時受入可能な体制を維持・強化及び地域で不足する小児救急医療体制の補完等、小児救急医療のモデルとなる体制整備 ①院内各専門領域のバックアップによる、小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした、365日24時間小児救急患者の受入可能な体制を維持、充実させる。 ②院内の小児救急専門スタッフ(医師、看護師)育成に努める。 ③患者家族宿泊施設の充実	55	こども せ	<p>小児救急センターの患者数 (単位：人、%)</p> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>5,916</td><td>3,619</td><td>4,612</td><td>4,328</td><td>4,930</td><td>4,803</td></tr></table> <p>PICUにおける救急患者受入数 (単位：人、%)</p> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>2,416</td><td>2,083</td><td>2,949</td><td>3,752</td><td>3,915</td><td>3,772</td></tr><tr><td>病床稼働率</td><td>82.5</td><td>71.3</td><td>73.4</td><td>85.7</td><td>89.1</td><td>86.1</td></tr></table> <p>※令和3年6月に実施したICUの統合(PICUとCCUの統合)の結果、心臓重症患者の受入を開始したこと等により大幅に増加した。</p> <p>ER診療実績 (単位：人)</p> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>1,695</td><td>1,254</td><td>1,504</td><td>1,269</td><td>1,550</td><td>1,458</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>4,221</td><td>2,365</td><td>3,108</td><td>3,059</td><td>3,380</td><td>3,345</td></tr></table> <p>ドクターヘリ搬送実績 (単位：回)</p> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>33</td><td>22</td><td>19</td><td>21</td><td>24</td><td>22</td></tr></table> <p>ドクターカー(高規格救急車)出動実績 (単位：回)</p> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>291</td><td>193</td><td>212</td><td>222</td><td>172</td><td>156</td></tr></table> <p>PICU配置医師・看護師 (年平均、人)</p> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>医師(有期含む)</td><td>9</td><td>8</td><td>10</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td></tr><tr><td>看護師</td><td>29</td><td>33</td><td>43</td><td>45</td><td>42</td><td>43</td></tr></table> <p>・患者家族宿泊施設の整備計画の検討状況 入札不調により整備が中断しているが、設計の見直しにより令和7年度の着工を目処に関係機関との調整を進めていく。</p>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	入院延患者数	5,916	3,619	4,612	4,328	4,930	4,803	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	入院延患者数	2,416	2,083	2,949	3,752	3,915	3,772	病床稼働率	82.5	71.3	73.4	85.7	89.1	86.1	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	入院患者数	1,695	1,254	1,504	1,269	1,550	1,458	外来患者数	4,221	2,365	3,108	3,059	3,380	3,345	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	回数	33	22	19	21	24	22	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	回数	291	193	212	222	172	156	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	医師(有期含む)	9	8	10	14	13	13	看護師	29	33	43	45	42	43	A	令和6年度のPICU入院延患者数はおおよそ前年度並みで推移している。病床稼働率は、西3病棟のうち西3BチームをPICUの後方病床とし集中治療系の病床運用を効率的に行っていることから、85%を上回っている。 また、ER患者数もおおむね前年度並で推移している。小児における静岡市病院群輪番制に参画するとともに、富士・富士宮、志太榛原等の地域の小児救急体制を補完している。 なお、令和6年度も、PICU病棟の医師確保に努め、専門スタッフを配置し、小児救急体制の充実を図っている。 メディカルコントロール体制への協力も引き続き実施しており、県メディカルコントロール推進作業部会に集中治療科医師、静岡地域メディカルコントロール協議会に小児救急科等の医師が参加している。 上記のとおりPICU・ERを運営し、24時間体制で重篤な小児患者に対する救急医療を提供しており、小児救命救急センターの役割を着実に果たしている。 患者家族宿泊施設の整備に関しては、人件費や建設物資の高騰により入札不調となっており、整備が中断しているが、設計の見直しにより令和7年度の着工を目処に関係機関との調整を進めていく。 さらには、地域・小児夜間救急における地域病院群オンライン連携による365日対応を試行する「小児救急リモート指導医相談支援事業」について、関係者会議での報告・協議を行いつつ、実証試験を進めている。先行病院については令和5年12月に運用を開始し、後発病院については令和6年2月に運用を開始した。当院を含め6病院で運用し、累計26件のリモート指導を実施した。	・小児救命救急センターの指定を受けているPICU(小児集中治療室)と小児救急センターを中心に、24時間365日を通して小児救急患者を受け入れている。 ・令和3年度にPICUとCCUを統合したことにより、稼働率は大幅に上昇しており、患者の一元管理による効率的な治療が行われている。 ・医師の働き方改革の観点からも、救急医療体制を担う医師の確保・養成、働き方や勤務環境の改善に努めていくことが求められる中、PICU配置医師数は増加傾向にあり、確保に向けた着実な取組が見られる。	✓		○	55
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																
入院延患者数	5,916	3,619	4,612	4,328	4,930	4,803																																																																																																																
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																
入院延患者数	2,416	2,083	2,949	3,752	3,915	3,772																																																																																																																
病床稼働率	82.5	71.3	73.4	85.7	89.1	86.1																																																																																																																
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																
入院患者数	1,695	1,254	1,504	1,269	1,550	1,458																																																																																																																
外来患者数	4,221	2,365	3,108	3,059	3,380	3,345																																																																																																																
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																
回数	33	22	19	21	24	22																																																																																																																
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																
回数	291	193	212	222	172	156																																																																																																																
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																
医師(有期含む)	9	8	10	14	13	13																																																																																																																
看護師	29	33	43	45	42	43																																																																																																																
		・精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神科分野における中核的機能の発揮に努める。	○子どものこころの診療分野について、総合病院、こころの医療センターとの連携を図り、県内の児童精神医療に貢献 ①「子どもの心の診療ネットワーク事業」の拠点病院として、教育・福祉・医療機関の連携ネットワークの更なる拡大、充実 ②臨床研修の充実による児童精神科医の継続的育成	56	こども せ	<p>こころの診療科診療実績 (単位：人)</p> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>入院延患者数</td><td>9,445</td><td>7,890</td><td>10,353</td><td>11,258</td><td>10,698</td><td>10,952</td></tr><tr><td>入院新患者数</td><td>50</td><td>63</td><td>71</td><td>63</td><td>69</td><td>59</td></tr><tr><td>外来延患者数</td><td>11,592</td><td>11,383</td><td>13,180</td><td>12,459</td><td>11,814</td><td>11,911</td></tr><tr><td>外来初診患者数</td><td>514</td><td>579</td><td>617</td><td>542</td><td>543</td><td>602</td></tr></table> <p>こころの診療科地域別実患者数実績 (単位：人)</p> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>東部</td><td>759</td><td>744</td><td>829</td><td>796</td><td>784</td><td>778</td></tr><tr><td>中部</td><td>1,227</td><td>1,329</td><td>1,423</td><td>1,424</td><td>1,477</td><td>1,574</td></tr><tr><td>西部</td><td>59</td><td>56</td><td>53</td><td>44</td><td>54</td><td>47</td></tr><tr><td>県外</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td></tr><tr><td>合計</td><td>2,059</td><td>2,142</td><td>2,318</td><td>2,273</td><td>2,324</td><td>2,408</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	入院延患者数	9,445	7,890	10,353	11,258	10,698	10,952	入院新患者数	50	63	71	63	69	59	外来延患者数	11,592	11,383	13,180	12,459	11,814	11,911	外来初診患者数	514	579	617	542	543	602	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	東部	759	744	829	796	784	778	中部	1,227	1,329	1,423	1,424	1,477	1,574	西部	59	56	53	44	54	47	県外	14	13	13	9	9	9	合計	2,059	2,142	2,318	2,273	2,324	2,408	A	こころの診療科は、全国的にも少ない小児総合医療機関内に開放・閉鎖の2つのエリアを有する入院病棟を持ち、多くの入院患者を受入れている。コロナ禍から完全に回復し、令和6年度の入院患者数も前年度と同水準で推移した。また、外来患者数も入院と同様、前年度と同程度の実績となった。 県内の児童精神科医療の中核的機能を持つ病院として、中部地域はもちろんのこと、児童精神科の医療機関が少ない東部地域からも多くの患者を受け入れており、子どもの心に向き合う医療を行った。	・「こころ」から「身体」まで一貫した小児医療を行っており、こころの診療科では県内全域及び県外からも患者を受け入れ、児童精神分野の中核機関としての役割を果たしている。 ・今後も専門スタッフによるきめ細かな医療サービスの提供や、急増する子どもの心の問題に関する地域連携の強化に努めることが期待される。				56																												
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																
入院延患者数	9,445	7,890	10,353	11,258	10,698	10,952																																																																																																																
入院新患者数	50	63	71	63	69	59																																																																																																																
外来延患者数	11,592	11,383	13,180	12,459	11,814	11,911																																																																																																																
外来初診患者数	514	579	617	542	543	602																																																																																																																
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																
東部	759	744	829	796	784	778																																																																																																																
中部	1,227	1,329	1,423	1,424	1,477	1,574																																																																																																																
西部	59	56	53	44	54	47																																																																																																																
県外	14	13	13	9	9	9																																																																																																																
合計	2,059	2,142	2,318	2,273	2,324	2,408																																																																																																																
		②厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参加する。		57	こども せ	<p>事業を行っている全国19都府県1政令指定都市にある29の拠点病院の一つとして参加し、学校・地域との連携強化を図った。 (拠点病院を配置している都府県等) 岩手県、群馬県、千葉県、東京都、石川県、山梨県、長野県、静岡県、三重県、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、香川県、高知県、福岡県、佐賀県、熊本県、沖縄県、札幌市</p> <p>精神保健講座等開催実績</p> <table><tr><th>区分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>精神保健講座</td><td>児童養護施設巡回相談</td><td>精神保健講座</td><td>児童養護施設巡回相談</td><td>精神保健講座</td><td>児童養護施設巡回相談</td><td>精神保健講座</td></tr><tr><td>対象</td><td>県内小中学校教諭 子ども・家族</td><td>県内小中学校教諭 子ども・家族</td><td>県内小中学校教諭 子ども・家族</td><td>県内小中学校教諭 子ども・家族</td><td>県内小中学校教諭 子ども・家族</td><td>県内小中学校教諭 子ども・家族</td></tr><tr><td>参加者数等</td><td>5回 96人</td><td>11回 49人</td><td>2回 11回</td><td>4回 140人</td><td>10回 75人</td><td>11回 131人</td></tr></table>	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	精神保健講座	児童養護施設巡回相談	精神保健講座	児童養護施設巡回相談	精神保健講座	児童養護施設巡回相談	精神保健講座	対象	県内小中学校教諭 子ども・家族	県内小中学校教諭 子ども・家族	県内小中学校教諭 子ども・家族	県内小中学校教諭 子ども・家族	県内小中学校教諭 子ども・家族	県内小中学校教諭 子ども・家族	参加者数等	5回 96人	11回 49人	2回 11回	4回 140人	10回 75人	11回 131人	A	こども病院は、厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参加している。 令和6年度は児童養護施設の巡回事業は4施設12回実施し、複数の地域の要保護児童対策協議会に医師等が参加するなど、福祉、教育、保健など様々な領域と連携し、診療支援を行った。 また、診療関係者の研修・育成事業にも取り組み、研修医や学生を受入れるとともに、教員を対象とした児童思春期精神保健講座を5回実施した。	・様々な子どもの心の問題に加え、児童虐待や発達障害に対応するため、国が国立成育医療センターを中央拠点病院として全国的に推進している「子どもの心の診療ネットワーク」事業において、静岡県の拠点病院として業務受託している。 ・地域医療機関や保健福祉関係機関等からの相談・診療支援に加え、小中学校教諭を対象とした精神保健講座の開催や、児童擁護施設巡回相談を実施しており、他の医療機関や保健福祉関係機関と連携した、医学的支援・診療支援が実施されている。				57																																																																													
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																
精神保健講座	児童養護施設巡回相談	精神保健講座	児童養護施設巡回相談	精神保健講座	児童養護施設巡回相談	精神保健講座																																																																																																																
対象	県内小中学校教諭 子ども・家族	県内小中学校教諭 子ども・家族	県内小中学校教諭 子ども・家族	県内小中学校教諭 子ども・家族	県内小中学校教諭 子ども・家族	県内小中学校教諭 子ども・家族																																																																																																																
参加者数等	5回 96人	11回 49人	2回 11回	4回 140人	10回 75人	11回 131人																																																																																																																
		③児童精神科医の育成に努める。		58	こども せ	<p>有期職員医師を1名採用し、専門的な児童精神科医を育成している。</p> <p>有期職員医師採用実績 (単位：人)</p> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>採用人数</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	採用人数	1	1	1	1	1	1	A	児童精神科臨床研修として有期職員医師を1名採用し、児童精神科医の育成を行った。	・子どもの心の診療ネットワーク事業の一環として、有期職員医師1名を配置し、診療やカンファレンスを通じて指導を行い、児童精神科医の育成に努めている。				58																																																																																											
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																
採用人数	1	1	1	1	1	1																																																																																																																



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																													
						本評価	説明																																																																																		
	・重症心身障害児等の医療的ケア児の退院、在宅移行を支援する体制について、県と連携して整備を図る。	○重症心身障害児等の医療的ケア児の退院、在宅移行を支援する体制を県と連携して具体化 ①医療的ケア児のレスパイト対応のため、障害者総合支援法に基づく「短期入所サービス」の実施	59	①言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。 ①医療的ケア児の在宅移行支援病棟の設置を検討する。 ①「短期入所サービス」事業の実施	<div>医療的ケア児に関する検討会開催実績 (単位：回)</div> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>3</td><td>6</td><td>6</td><td>3</td><td>1</td><td>1</td></tr></table> <div>リハビリ実施実績 (単位：件)</div> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>理学療法</td><td>22,829</td><td>22,985</td><td>24,683</td><td>25,770</td><td>26,886</td><td>34,097</td><td>20,000</td></tr><tr><td>作業療法</td><td>4,546</td><td>3,813</td><td>7,794</td><td>11,495</td><td>11,333</td><td>10,566</td><td>—</td></tr><tr><td>言語聴覚療法</td><td>9,744</td><td>10,162</td><td>10,045</td><td>9,555</td><td>10,332</td><td>11,053</td><td>—</td></tr><tr><td>計</td><td>37,119</td><td>36,960</td><td>42,522</td><td>46,820</td><td>48,551</td><td>55,716</td><td>—</td></tr></table> <div>短期入所利用者数 (単位：人)</div> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>利用者数</td><td>-</td><td>-</td><td>0</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	回数	3	6	6	3	1	1	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	理学療法	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	34,097	20,000	作業療法	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	10,566	—	言語聴覚療法	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	11,053	—	計	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	55,716	—	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	利用者数	-	-	0	3	3	4	A	他院では対応困難な小児重症患者へのリハビリの拠点として、言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォローなどを行っており、令和6年度のリハビリ実施件数は、年度目標を達成し過去最大件数であった令和5年度を大幅に上回った。 在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応として、令和2年度に医療型短期入所(空床型)に係る障害福祉サービス事業者の指定を受け、サービスを提供している。 こども病院は小児の急性期高度専門医療を担っているが、慢性期医療・福祉の分野となる医療的ケア児について、在宅移行、在宅移行後の患児・家族へのフォローに関する検討を行っている。	・こども病院においては、県から委託されている移行期医療支援事業の一環として、重症心身障害児の在宅以降後の移行フォロー等の課題に対して医療的ケア児に関する検討会を実施している。 ・医療的ケア児及びその家族への支援体制の強化に努め、障害福祉サービス事業所(短期入所者)においては、令和6年度は延4人の利用があった。 ・在宅移行後のフォローにも取り組んでおり、リハビリ実施件数は第3期中期目標期間を通じて高い水準にあり、令和6年度も、3療法の合計、理学療法件数及び言語聴覚療法において前年度を上回った。 ・理学療法においては、PICUでの早期離床・リハビリテーション加算算定件数の増加が増収にもつながるなど、患者の機能回復に対する質の高い医療の提供と経営面の両方に寄与している。 ・実績件数の増加に伴い、これまで対応できなかった集中治療室の患者への対応が可能となるなど、患者の早期機能回復に寄与している。  (参考) ・重症心身障害児は、重度の肢体不自由と知的障害を併せ持ち、経管栄養やたん吸引等の医療的なケアを必要とする。 ・近年、在宅者の割合が増加していることから、県の支援のあり方も、従来の入所型の重症心身障害児施設等の確保から、在宅における患者や家族の生活支援としてのショートステイ実施施設確保や人材育成等へ移行してきている。 ・具体的には、医療機関における短期入所サービス提供事業実施の支援、通所施設への看護師配置、家族のレスパイトのための訪問看護に対する支援等が挙げられる。 ・令和2年度に障害福祉サービス事業所(短期入所者)の指定を受けている。				59									
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																			
回数	3	6	6	3	1	1																																																																																			
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																																		
理学療法	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	34,097	20,000																																																																																		
作業療法	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	10,566	—																																																																																		
言語聴覚療法	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	11,053	—																																																																																		
計	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	55,716	—																																																																																		
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																			
利用者数	-	-	0	3	3	4																																																																																			
	・少子化の進行等に対応する効率的な病院運営体制と良好な療養環境を整備し、県民に安全で質の高い医療の提供を行うことにより、病床稼働率及び入院・外来患者満足度について各事業年度で高い水準を目指す。	○効率的な病院運営と良好な療養環境の整備による県民に安全で質の高い医療を提供 ①医療安全体制の徹底 ②入院支援センターを活用した患者サービスの向上 ③心臓カテーテル治療数の増加 ④病床稼働率75%以上の維持 ⑤患者満足度(入院・外来)の向上 ⑥遠隔医療の適切な推進 ⑦良好な療養環境の提供、整備	60	①医療安全体制を徹底し、国際的な医療機能評価である JCI 取得を視野に入れた、院内機能強化を進める。 ②入院支援センターの業務の推進。 ③№52 ④効率的な病院運営を行い、高い病床稼働率を維持する。 ⑤№6 ⑥遠隔による外来診療、セカンドオピニオンを実施する。 ⑥№53 ⑦ファシリテッドッグやホスピタルアート等による療養環境の提供、整備のほか、中央特別支援学校との連携による学習支援の取組を進める。	<div>JCIワーキングの設置と開催回数 (単位：回)</div> <table><tr><th>区 分</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>開催回数</td><td>-</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr></table> <div>病床稼働率 (単位：%)</div> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td>稼働率</td><td>76.4</td><td>66.4</td><td>76.7</td><td>75.9</td><td>75.9</td><td>77.3</td><td>75以上</td></tr></table> <div>入院支援センター利用者数 (単位：人)</div> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>利用者数</td><td>—</td><td>5,382</td><td>4,573</td><td>4,814</td><td>4,918</td><td>5,530</td></tr></table> <div>遠隔外来患者数 (単位：人)</div> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>患者数</td><td>—</td><td>117</td><td>217</td><td>181</td><td>204</td><td>178</td></tr><tr><td>相談件数</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>8</td><td>26</td></tr></table> <div>ファシリテッドッグの活動実績 (単位：回)</div> <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>回数</td><td>1,649</td><td>1,201</td><td>1,473</td><td>2,298</td><td>2,239</td><td>2,223</td></tr></table> <p>・ファシリテッドッグの活動状況 ファシリテッドッグは、専門的な研修を修了した臨床経験のある看護師のハンドラーとペアを組み、平日5日間、フルタイムで病院に勤務している。主な活動内容は、手術室への移動の付き添い、リハビリの応援、兄弟、家族のケア、採血・点滴確保の際の応援、ベッドでの添い寝などである。</p> <p>・療養環境整備状況 医師、看護師を中心に構成された療養環境改善委員会にて、子どものための療養環境について検討している。また、小児医療施設に特有の保育士、チャイルド・ライフ・スペシャリスト(CLS)、ホスピタル・プレイ・スペシャリスト(HPS)、さらには病院ボランティアも加えた多職種で、子どもの生活そのものであり、有効なコミュニケーションツールである「遊び」の提供を含めた、将来を見据え成長を支える療養環境の整備を行っている。</p> <p>・中央特別支援学校との連携を含めた学習支援の取組 長期入院する児童生徒に対し、県立中央特別支援学校による病院内学級(さらに学級・そよかせ学級)にて学習の場を提供している。一方で、退院後に地域の学校へ戻っていくことを見据え、オンラインも活用しながら、連携、復学支援、学習継続支援などを行っている。</p>	区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	開催回数	-	3	1	0	0	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	稼働率	76.4	66.4	76.7	75.9	75.9	77.3	75以上	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	利用者数	—	5,382	4,573	4,814	4,918	5,530	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	患者数	—	117	217	181	204	178	相談件数	—	—	—	—	8	26	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	回数	1,649	1,201	1,473	2,298	2,239	2,223	A	令和6年度の病床稼働率は77.3%と目標を上回っている。平均在院日数が短縮する中で入院患者数は増加しており、効率的な医療提供の推進が図られていることが背景となっている。 こども病院は極めて広域性があり、遠方から来院する患者の負担を軽減しつつ安全で質の高い医療を提供するため、令和2年9月からオンラインによる外来診療体制を全国に先駆けて構築しており、令和6年度も継続的に実施している。また、令和5年12月から「小児救急リモート指導医相談支援事業」の運用も開始しており、遠隔医療を適切に推進している。 入院支援センターを活用し、患者サービスの向上のための業務を推進している。具体的には、入院説明時に患者から得た情報を基にアセスメントをして入院前支援・療養支援計画書を立案し、入院前に入院病棟と情報共有している。令和6年度のセンター利用者数は過去最高をとった。 国際的な医療機能評価の JCI取得を見据え、まずは日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新に対応した。令和5年度に「病院の質向上プロジェクト」を開始し、多岐に渡る継続的な活動を行い、令和6年6月に審査を受審した。また、国際ニュース週刊誌のニュースウィークが発表する「世界の優れた専門病院ランキング」の小児科部門に3年連続でランクインしており、安全で質の高い医療を提供していることが国際的にも評価されている。 療養環境整備の一環として、平成21年度に全国で初めてファシリテッドッグを導入した。ファシリテッドッグがいることで、子ども達のストレスが軽減され、治療に前向きになり、食欲やリハビリが促進されるなどの効果が報告されている。また、臨床経験のある医療者がハンドラーを務めることで医療スタッフと円滑にコミュニケーションがとれ、医療チームの一員として、単なる患者さんとの触れ合い活動にとどまらず、個々の患者さんのニーズに応じて積極的に治療に介入することができている。 病棟にプレイルームや自習室を備えて遊びや学習の場を提供している。また、図書室、病棟及び外来には「わくわく文庫」を設置し、療養中の子どもたちを支援している。 さらに、子どもたちの想像力向上、不安の緩和などを目的に、様々なホスピタルアートに取り組んでおり、「日本文化の四季」や「世界旅行」をテーマとした県内大学生による壁画装飾アートや、寄贈されたティズニー壁紙を院内に配置している。外来には子どもたちが描いた魚の絵がスクリーンに映し出される「紙アクリウム」を設置・運用している。また、入院している子どもやその家族を対象に模擬店の出店などを行う「わくわくまつり」を8月に開催したり、県内チームに所属するスポーツ選手の訪問を定期的に受入れたりもしている。 こども病院に長期入院する児童生徒は県立中央特別支援学校に在籍し、病院内学級(さらに学級・そよかせ学級)にて学習を継続している。その一方で、退院後に地域の学校へ戻っていくことを見据えて、児童生徒がオンラインで元在籍校とつながったり、教員間で学習状況の確認をしたりしている。また、地域医療連携室が診療情報等に関する窓口となるとともに、復学時には病棟プライマリー看護師が主体となってカンファレンスを実施し、患児を中心に、患児家族、医療者、教育関係者が連携して対応している。なお、令和4年度に県教育委員会と連携して実施した、高校生の小児がん患者への学習継続支援の結果、現在はオンラインでの授業参加により正式に履修修得可能となっている。	・病床稼働率は患者数の増加や、入院支援センターの活用により、例年と同水準で推移しており、令和6年度は目標値を上回った。 ・入院支援センターは、従来外来や病棟で行っていた入院時の書類説明、検査説明等を一元化して行うことにより、業務効率化と各部門の負担軽減を図っており、稼働後もワーキングにて、支援対象診療科の拡大等の検討を行っている。 ・また、コロナ禍を契機とした複数科でのオンラインによる外来診療体制を継続しており、県東部・西部地域をはじめ、県外も含めた遠方から来院する患者の負担軽減に努めている。 ・令和5年度からは、「小児救急リモート指導医相談支援事業」や「拡大新生児スクリーニング検査」を開始するなど、他圏域のみならず県全域の小児医療提供体制の維持・進展に向けて積極的に取り組んでいる。 ・良好な療養環境の整備については、H21の独法化当初からファシリテッドッグを導入している。導入当時は全国初の取組として注目を集め、令和6年度においても医療チームの一員として活動を継続している。その他においても、小児患者の不安軽減のため、様々な工夫を凝らして乳幼児からAYA世代までの患者の療養を支援している。 ・患者家族宿泊施設については、現在の「こあらの家」の老朽化により新築を検討している。	✓	✓	○	60
区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																				
開催回数	-	3	1	0	0																																																																																				
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																																		
稼働率	76.4	66.4	76.7	75.9	75.9	77.3	75以上																																																																																		
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																			
利用者数	—	5,382	4,573	4,814	4,918	5,530																																																																																			
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																			
患者数	—	117	217	181	204	178																																																																																			
相談件数	—	—	—	—	8	26																																																																																			
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																			
回数	1,649	1,201	1,473	2,298	2,239	2,223																																																																																			

10

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																																																																																																																																																																																																												
						本評価	説明																																																																																																																																																																																																																																																																	
		【目標値】 ・心臓カテーテル治療実績(こども) ・病床稼働率(こども) ・患者満足度[入院・外来](こども)	-	-	-		-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																												
2	医療従事者の確保及び質の向上 各病院及び地域の医療水準の維持・向上を図るため、医療従事者の確保・育成に努めること。また、優秀な人材を確保・育成するため、研究環境の充実や、院内研修、国内外との交流による研修機能の強化を図ること。さらに、医療従事者が働きやすい環境の整備に努めること。	2 医療従事者の確保及び質の向上 県立病院が提供する医療の質の向上を図り、最適な医療を安全に提供するため、医療従事者が専門業務に専念できる体制や働きやすい環境の整備に努めることにより、優秀な人材の確保・育成を行う。また、研究環境の充実や、教育研修機能の充実や国内外の医療機関との交流などを推進し、医療従事者の確保・育成に積極的に取り組む。	2 医療従事者の確保及び質の向上	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																												
			61	・業務運営に必要な人材の確保に努める。	本部・各病院（総務） <table><tr><th colspan="10">職員の確保状況(各年度4月1日現在)</th></tr><tr><th colspan="2">区分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>7年度</th><th>7年度目標</th></tr><tr><td rowspan="6">正規職員</td><td rowspan="2">総合</td><td>医師</td><td>173</td><td>177</td><td>180</td><td>185</td><td>193</td><td>206</td><td>205</td><td>207</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>4</td><td>6</td><td>5</td><td>6</td><td>5</td><td>5</td><td>3</td><td>-</td></tr><tr><td rowspan="2">こころ</td><td>医師</td><td>738</td><td>761</td><td>754</td><td>755</td><td>770</td><td>789</td><td>789</td><td>808</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>13</td><td>15</td></tr><tr><td rowspan="2">こども</td><td>医師</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>117</td><td>120</td><td>116</td><td>120</td><td>121</td><td>123</td><td>120</td><td>119</td></tr><tr><td rowspan="6">有期職員</td><td rowspan="2">総合</td><td>医師</td><td>90</td><td>91</td><td>92</td><td>99</td><td>106</td><td>119</td><td>115</td><td>120</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>-</td></tr><tr><td rowspan="2">こころ</td><td>看護 師</td><td>395</td><td>398</td><td>410</td><td>398</td><td>390</td><td>382</td><td>363</td><td>373</td></tr><tr><td>医師</td><td>277</td><td>281</td><td>285</td><td>297</td><td>313</td><td>340</td><td>333</td><td>342</td></tr><tr><td rowspan="2">計</td><td>歯科医師</td><td>5</td><td>7</td><td>7</td><td>8</td><td>7</td><td>7</td><td>5</td><td>-</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>1,250</td><td>1,279</td><td>1,280</td><td>1,273</td><td>1,281</td><td>1,294</td><td>1,272</td><td>1,300</td></tr><tr><td rowspan="6">有期職員</td><td rowspan="2">総合</td><td>医師</td><td>91</td><td>96</td><td>99</td><td>110</td><td>104</td><td>111</td><td>111</td><td>-</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td><td>2</td><td>-</td></tr><tr><td rowspan="2">こころ</td><td>看護 師</td><td>64</td><td>62</td><td>61</td><td>60</td><td>69</td><td>74</td><td>81</td><td>-</td></tr><tr><td>医師</td><td>3</td><td>4</td><td>6</td><td>11</td><td>7</td><td>10</td><td>5</td><td>-</td></tr><tr><td rowspan="2">こども</td><td>看護 師</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>9</td><td>10</td><td>10</td><td>8</td><td>7</td><td>7</td><td>9</td><td>-</td></tr><tr><td rowspan="6">有期職員</td><td rowspan="2">総合</td><td>医師</td><td>58</td><td>48</td><td>50</td><td>45</td><td>41</td><td>38</td><td>35</td><td>-</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td rowspan="2">こころ</td><td>看護 師</td><td>14</td><td>16</td><td>18</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>17</td><td>-</td></tr><tr><td>医師</td><td>152</td><td>148</td><td>155</td><td>166</td><td>152</td><td>159</td><td>151</td><td>-</td></tr><tr><td rowspan="2">計</td><td>看護 師</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>2</td><td>2</td><td>-</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>87</td><td>88</td><td>89</td><td>83</td><td>92</td><td>98</td><td>107</td><td>-</td></tr></table> ※有期職員は、正規職員の状況により必要人員を確保するため、目標は設定しない。 ※正規職員の看護師は、現員から休職者等を除いた実働数を記載している。 ※年度計画数値と本表の定数は一致しない。	職員の確保状況(各年度4月1日現在)										区分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度目標	正規職員	総合	医師	173	177	180	185	193	206	205	207	歯科医師	4	6	5	6	5	5	3	-	こころ	医師	738	761	754	755	770	789	789	808	歯科医師	14	13	13	13	14	15	13	15	こども	医師	-	-	-	-	-	-	-	-	看護 師	117	120	116	120	121	123	120	119	有期職員	総合	医師	90	91	92	99	106	119	115	120	歯科医師	1	1	2	2	2	2	2	-	こころ	看護 師	395	398	410	398	390	382	363	373	医師	277	281	285	297	313	340	333	342	計	歯科医師	5	7	7	8	7	7	5	-	看護 師	1,250	1,279	1,280	1,273	1,281	1,294	1,272	1,300	有期職員	総合	医師	91	96	99	110	104	111	111	-	歯科医師	-	-	-	-	-	1	2	-	こころ	看護 師	64	62	61	60	69	74	81	-	医師	3	4	6	11	7	10	5	-	こども	看護 師	-	-	-	-	-	-	-	-	看護 師	9	10	10	8	7	7	9	-	有期職員	総合	医師	58	48	50	45	41	38	35	-	看護 師	-	-	-	-	-	1	-	-	こころ	看護 師	14	16	18	15	16	17	17	-	医師	152	148	155	166	152	159	151	-	計	看護 師	-	-	-	-	-	2	2	-	看護 師	87	88	89	83	92	98	107	-	B	令和6年度について、医師に関しては、派遣医局等への働きかけ等を行い、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝えるなど、確保に努めている。 看護師の募集については、修学資金の貸与など確保対策を進めている。 また、病院説明会や養成校訪問、県内外の合同就職説明会への積極的な参加を行っており、令和6年9月末時点で3病院の必要数を確保できたが、内定辞退や国家試験に合格できなかったなどの理由により、最終的には採用予定人数120人に対して5人不足の115人の採用となった。	・職員数の管理においては、現状を踏まえた適正な人員規模を検討しつつ、職員採用を行うなど、収支状況を勘案して臨機応変に対応している。今後も、地方独立行政法人としての機動性・柔軟性を発揮していくことが期待される。 ・目標値の看護師数(正規職員)に達していないが、不足する人員については、有期職員の採用等により対応している。 ・今後も、救急医療や小児・周産期医療等の現場における医師の働き方改革の影響や、人件費の上昇が経営状況に及ぼす影響等を注視しつつ、機構内での配置見直しを含め、安全で質の高い医療の提供の根幹となる医療従事者の適正数確保が期待される。	✓	✓	△	61
						職員の確保状況(各年度4月1日現在)																																																																																																																																																																																																																																																																		
区分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度目標																																																																																																																																																																																																																																																															
正規職員	総合	医師	173	177	180	185	193	206	205	207																																																																																																																																																																																																																																																														
		歯科医師	4	6	5	6	5	5	3	-																																																																																																																																																																																																																																																														
	こころ	医師	738	761	754	755	770	789	789	808																																																																																																																																																																																																																																																														
		歯科医師	14	13	13	13	14	15	13	15																																																																																																																																																																																																																																																														
	こども	医師	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																														
		看護 師	117	120	116	120	121	123	120	119																																																																																																																																																																																																																																																														
有期職員	総合	医師	90	91	92	99	106	119	115	120																																																																																																																																																																																																																																																														
		歯科医師	1	1	2	2	2	2	2	-																																																																																																																																																																																																																																																														
	こころ	看護 師	395	398	410	398	390	382	363	373																																																																																																																																																																																																																																																														
		医師	277	281	285	297	313	340	333	342																																																																																																																																																																																																																																																														
	計	歯科医師	5	7	7	8	7	7	5	-																																																																																																																																																																																																																																																														
		看護 師	1,250	1,279	1,280	1,273	1,281	1,294	1,272	1,300																																																																																																																																																																																																																																																														
有期職員	総合	医師	91	96	99	110	104	111	111	-																																																																																																																																																																																																																																																														
		歯科医師	-	-	-	-	-	1	2	-																																																																																																																																																																																																																																																														
	こころ	看護 師	64	62	61	60	69	74	81	-																																																																																																																																																																																																																																																														
		医師	3	4	6	11	7	10	5	-																																																																																																																																																																																																																																																														
	こども	看護 師	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																														
		看護 師	9	10	10	8	7	7	9	-																																																																																																																																																																																																																																																														
有期職員	総合	医師	58	48	50	45	41	38	35	-																																																																																																																																																																																																																																																														
		看護 師	-	-	-	-	-	1	-	-																																																																																																																																																																																																																																																														
	こころ	看護 師	14	16	18	15	16	17	17	-																																																																																																																																																																																																																																																														
		医師	152	148	155	166	152	159	151	-																																																																																																																																																																																																																																																														
	計	看護 師	-	-	-	-	-	2	2	-																																																																																																																																																																																																																																																														
		看護 師	87	88	89	83	92	98	107	-																																																																																																																																																																																																																																																														
			62	・研修医の確保に努める。	各病院（総務） <table><tr><th colspan="7">初期臨床研修医数（総合病院）</th></tr><tr><th>初期臨床研修医</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>1年生</td><td>23 (1)</td><td>20 (1)</td><td>25 (3)</td><td>21 (2)</td><td>22 (2)</td><td>21 (0)</td></tr><tr><td>2年生</td><td>23 (3)</td><td>19 (4)</td><td>20 (1)</td><td>23 (3)</td><td>20 (3)</td><td>22 (2)</td></tr><tr><td>計</td><td>46 (4)</td><td>39 (5)</td><td>45 (4)</td><td>44 (5)</td><td>42 (5)</td><td>43 (2)</td></tr></table> ※（ ）うち自治医大学出身者  <table><tr><th colspan="7">後期臨床研修医数</th></tr><tr><th>後期臨床研修医</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>総 合</td><td>48</td><td>58</td><td>53</td><td>54</td><td>57</td><td>57</td></tr><tr><td>こころ</td><td>2</td><td>4</td><td>3</td><td>11</td><td>10</td><td>10</td></tr><tr><td>こども</td><td>15</td><td>9</td><td>12</td><td>8</td><td>12</td><td>11</td></tr><tr><td>計</td><td>65</td><td>71</td><td>68</td><td>73</td><td>79</td><td>78</td></tr></table>	初期臨床研修医数（総合病院）							初期臨床研修医	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	1年生	23 (1)	20 (1)	25 (3)	21 (2)	22 (2)	21 (0)	2年生	23 (3)	19 (4)	20 (1)	23 (3)	20 (3)	22 (2)	計	46 (4)	39 (5)	45 (4)	44 (5)	42 (5)	43 (2)	後期臨床研修医数							後期臨床研修医	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	総 合	48	58	53	54	57	57	こころ	2	4	3	11	10	10	こども	15	9	12	8	12	11	計	65	71	68	73	79	78	A	初期臨床研修医確保活動として、対面式の合同説明会が開催され、東京・大阪・浜松でPR活動を行った。 後期臨床研修医確保活動として、当院に見学に来た医師を対象に申し込みの案内メールを複数回送付した。また昨年同様、遠方で見学に来るのが難しい研修医等をターゲットにオンライン会議システムを活用した面談を案内した。	・総合病院の初期臨床研修医確保は、計画人数(1年目21名、2年目22名)と同程度を確保している。 ・後期研修医(専攻医)については、新専門医制度のもと、見学者や研修医に対する専門医研修プログラム説明会の開催、PR動画やホームページ等を通じた広報など、積極的な広報により確保に努めている。 ・大都市圏への専攻医の集中は制度的な要因も大きく、シーリング(募集定員の上限)による地方への分散等の影響を注視し、十分な確保ができるよう、積極的な採用活動や医師にとって魅力的な病院を目指す取組の継続が期待される。				62																																																																																																																																																																															
						初期臨床研修医数（総合病院）																																																																																																																																																																																																																																																																		
初期臨床研修医	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																																																																																																																		
1年生	23 (1)	20 (1)	25 (3)	21 (2)	22 (2)	21 (0)																																																																																																																																																																																																																																																																		
2年生	23 (3)	19 (4)	20 (1)	23 (3)	20 (3)	22 (2)																																																																																																																																																																																																																																																																		
計	46 (4)	39 (5)	45 (4)	44 (5)	42 (5)	43 (2)																																																																																																																																																																																																																																																																		
後期臨床研修医数																																																																																																																																																																																																																																																																								
後期臨床研修医	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																																																																																																																		
総 合	48	58	53	54	57	57																																																																																																																																																																																																																																																																		
こころ	2	4	3	11	10	10																																																																																																																																																																																																																																																																		
こども	15	9	12	8	12	11																																																																																																																																																																																																																																																																		
計	65	71	68	73	79	78																																																																																																																																																																																																																																																																		

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価	県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																																																																																																																																																																																																																	
			63	・即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。	看護師については、定時募集に加えて随時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。  正規職員の確保状況（各年度4月1日現在）（単位：人） <table><tr><th>区分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>7年度</th></tr><tr><td>医 師</td><td>283</td><td>289</td><td>293</td><td>307</td><td>322</td><td>341</td><td>333</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>5</td><td>7</td><td>7</td><td>8</td><td>7</td><td>7</td><td>5</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>1,366</td><td>1,398</td><td>1,403</td><td>1,398</td><td>1,408</td><td>1,413</td><td>1,396</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>333</td><td>347</td><td>362</td><td>369</td><td>373</td><td>377</td><td>405</td></tr><tr><td>研 究 員</td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>事 務</td><td>123</td><td>131</td><td>136</td><td>140</td><td>139</td><td>140</td><td>142</td></tr><tr><td>計</td><td>2,112</td><td>2,174</td><td>2,201</td><td>2,223</td><td>2,250</td><td>2,278</td><td>2,281</td></tr></table> 法人合計 <table><tr><td>医 師</td><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>3</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>医療技術</td><td></td><td></td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>事 務</td><td>32</td><td>32</td><td>32</td><td>34</td><td>33</td><td>30</td><td>32</td></tr><tr><td>計</td><td>35</td><td>34</td><td>36</td><td>38</td><td>36</td><td>34</td><td>34</td></tr></table> 本部（総務） <table><tr><td>医 師</td><td>179</td><td>184</td><td>188</td><td>195</td><td>202</td><td>206</td><td>205</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>4</td><td>6</td><td>5</td><td>6</td><td>5</td><td>5</td><td>3</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>807</td><td>829</td><td>826</td><td>837</td><td>847</td><td>859</td><td>869</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>226</td><td>237</td><td>249</td><td>255</td><td>260</td><td>261</td><td>284</td></tr><tr><td>研 究 員</td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>1</td><td>1</td><td></td><td>0</td></tr><tr><td>事 務</td><td>53</td><td>59</td><td>63</td><td>65</td><td>65</td><td>69</td><td>70</td></tr><tr><td>計</td><td>1,271</td><td>1,317</td><td>1,331</td><td>1,359</td><td>1,380</td><td>1,400</td><td>1,431</td></tr></table> 総合 <table><tr><td>医 師</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>13</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>120</td><td>124</td><td>122</td><td>122</td><td>127</td><td>130</td><td>128</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>25</td><td>26</td><td>26</td><td>27</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td></tr><tr><td>事 務</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>14</td><td>14</td><td>14</td></tr><tr><td>計</td><td>170</td><td>175</td><td>174</td><td>176</td><td>182</td><td>187</td><td>184</td></tr></table> こころ <table><tr><td>医 師</td><td>90</td><td>91</td><td>92</td><td>99</td><td>106</td><td>119</td><td>115</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>436</td><td>444</td><td>452</td><td>436</td><td>432</td><td>423</td><td>398</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>82</td><td>84</td><td>86</td><td>86</td><td>85</td><td>86</td><td>91</td></tr><tr><td>事 務</td><td>27</td><td>28</td><td>28</td><td>27</td><td>27</td><td>27</td><td>26</td></tr><tr><td>計</td><td>636</td><td>648</td><td>660</td><td>650</td><td>652</td><td>657</td><td>632</td></tr></table> こども	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	医 師	283	289	293	307	322	341	333	歯科医師	5	7	7	8	7	7	5	看護 師	1,366	1,398	1,403	1,398	1,408	1,413	1,396	医療技術	333	347	362	369	373	377	405	研 究 員	2	2		1	1	0	0	事 務	123	131	136	140	139	140	142	計	2,112	2,174	2,201	2,223	2,250	2,278	2,281	医 師		1				1	0	看護 師	3	1	3	3	2	1	1	医療技術			1	1	1	2	1	事 務	32	32	32	34	33	30	32	計	35	34	36	38	36	34	34	医 師	179	184	188	195	202	206	205	歯科医師	4	6	5	6	5	5	3	看護 師	807	829	826	837	847	859	869	医療技術	226	237	249	255	260	261	284	研 究 員	2	2		1	1		0	事 務	53	59	63	65	65	69	70	計	1,271	1,317	1,331	1,359	1,380	1,400	1,431	医 師	14	13	13	13	14	15	13	歯科医師							0	看護 師	120	124	122	122	127	130	128	医療技術	25	26	26	27	27	28	29	事 務	11	12	13	14	14	14	14	計	170	175	174	176	182	187	184	医 師	90	91	92	99	106	119	115	歯科医師	1	1	2	2	2	2	2	看護 師	436	444	452	436	432	423	398	医療技術	82	84	86	86	85	86	91	事 務	27	28	28	27	27	27	26	計	636	648	660	650	652	657	632	A	医師については、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝え、募集に努めている。 今後、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、医学生向け説明会への参加や病院見学の受入などを行い確保に努める。 令和6年度は、看護師募集について、定時募集を第1期は3病院、第2期と第3期は総合病院を対象に実施した。 また、経験者を対象とした月次募集を毎月実施することにより切れ目のない募集を実施している。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、養成校訪問、病院説明会、3病院見学ツアーなど様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋げている。 コメディカルは、必要な職種について適時、募集を実施し、薬剤師、栄養士、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、医療ソーシャルワーカー、言語聴覚士、胚培養士について公募試験を実施することで、優秀な人材の確保に努めた。 事務についても、正規職員の公募試験を実施し、優秀な人材の確保に努めた。	・全国的に看護師不足が問題となる中、積極的な看護師確保対策、柔軟な採用試験の実施、勤務環境の改善、多様な勤務条件の設定等の努力により、各病院が高度・専門・特殊医療の提供に必要な水準の職員数が確保されている。 ・看護師定時募集方法については、第1期募集から勤務先を3病院として実施し、看護学生の就職活動の早期化と勤務先の希望に柔軟に対応している。 ・職員の募集については、県広報（県民だより）に登載エントリーを行っているほか、パンフレットを県施設で配布するなど周知に努めている。				63
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度																																																																																																																																																																																																																																																																					
医 師	283	289	293	307	322	341	333																																																																																																																																																																																																																																																																					
歯科医師	5	7	7	8	7	7	5																																																																																																																																																																																																																																																																					
看護 師	1,366	1,398	1,403	1,398	1,408	1,413	1,396																																																																																																																																																																																																																																																																					
医療技術	333	347	362	369	373	377	405																																																																																																																																																																																																																																																																					
研 究 員	2	2		1	1	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																					
事 務	123	131	136	140	139	140	142																																																																																																																																																																																																																																																																					
計	2,112	2,174	2,201	2,223	2,250	2,278	2,281																																																																																																																																																																																																																																																																					
医 師		1				1	0																																																																																																																																																																																																																																																																					
看護 師	3	1	3	3	2	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																					
医療技術			1	1	1	2	1																																																																																																																																																																																																																																																																					
事 務	32	32	32	34	33	30	32																																																																																																																																																																																																																																																																					
計	35	34	36	38	36	34	34																																																																																																																																																																																																																																																																					
医 師	179	184	188	195	202	206	205																																																																																																																																																																																																																																																																					
歯科医師	4	6	5	6	5	5	3																																																																																																																																																																																																																																																																					
看護 師	807	829	826	837	847	859	869																																																																																																																																																																																																																																																																					
医療技術	226	237	249	255	260	261	284																																																																																																																																																																																																																																																																					
研 究 員	2	2		1	1		0																																																																																																																																																																																																																																																																					
事 務	53	59	63	65	65	69	70																																																																																																																																																																																																																																																																					
計	1,271	1,317	1,331	1,359	1,380	1,400	1,431																																																																																																																																																																																																																																																																					
医 師	14	13	13	13	14	15	13																																																																																																																																																																																																																																																																					
歯科医師							0																																																																																																																																																																																																																																																																					
看護 師	120	124	122	122	127	130	128																																																																																																																																																																																																																																																																					
医療技術	25	26	26	27	27	28	29																																																																																																																																																																																																																																																																					
事 務	11	12	13	14	14	14	14																																																																																																																																																																																																																																																																					
計	170	175	174	176	182	187	184																																																																																																																																																																																																																																																																					
医 師	90	91	92	99	106	119	115																																																																																																																																																																																																																																																																					
歯科医師	1	1	2	2	2	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																					
看護 師	436	444	452	436	432	423	398																																																																																																																																																																																																																																																																					
医療技術	82	84	86	86	85	86	91																																																																																																																																																																																																																																																																					
事 務	27	28	28	27	27	27	26																																																																																																																																																																																																																																																																					
計	636	648	660	650	652	657	632																																																																																																																																																																																																																																																																					
			64	・就職説明会への参加、多角的な広報の実施や養成校の訪問などにより、必要な職員の確保を目指す。	看護学生向け就職説明会（令和7年度時点）（単位：人） <table><tr><th>業 者</th><th>区 分</th><th>来場者数</th><th>訪問者数</th></tr><tr><td></td><td>ナース専科（静岡）</td><td>-</td><td>88</td></tr><tr><td></td><td>ナースナビ（浜松）</td><td>236</td><td>55</td></tr><tr><td></td><td>マイナビ（静岡）</td><td>85</td><td>19</td></tr><tr><td></td><td>（沼津）</td><td>97</td><td>67</td></tr><tr><td></td><td>（静岡）夏開催</td><td>204</td><td>209</td></tr></table> 養成校 <table><tr><td></td><td>静岡県立大学</td><td>-</td><td>87</td></tr><tr><td></td><td>常葉大学</td><td>-</td><td>116</td></tr><tr><td></td><td>聖隷クリストファー大学</td><td>-</td><td>48</td></tr><tr><td></td><td>順天堂大学</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td></td><td>静岡市立看護専門学校</td><td>-</td><td>53</td></tr><tr><td></td><td>静岡県立看護専門学校</td><td>-</td><td>53</td></tr></table> ※訪問者数は病院間の重複あり  看護学生向け就職説明会（単位：人） <table><tr><th></th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>来場者数</td><td>業者 709</td><td>709</td><td>582</td><td>0</td><td>545</td><td>622</td></tr><tr><td></td><td>養成校 -</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>訪問者数</td><td>業者 645</td><td>645</td><td>438</td><td>545</td><td>381</td><td>438</td></tr><tr><td></td><td>養成校 316</td><td>316</td><td>120</td><td>294</td><td>294</td><td>357</td></tr><tr><td>受験者数</td><td>業者 112</td><td>112</td><td>82</td><td>381</td><td>49</td><td>-</td></tr><tr><td></td><td>養成校 92</td><td>92</td><td>72</td><td>67</td><td>81</td><td>-</td></tr></table>	業 者	区 分	来場者数	訪問者数		ナース専科（静岡）	-	88		ナースナビ（浜松）	236	55		マイナビ（静岡）	85	19		（沼津）	97	67		（静岡）夏開催	204	209		静岡県立大学	-	87		常葉大学	-	116		聖隷クリストファー大学	-	48		順天堂大学	-	-		静岡市立看護専門学校	-	53		静岡県立看護専門学校	-	53		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	来場者数	業者 709	709	582	0	545	622		養成校 -	-	-	-	-	-	訪問者数	業者 645	645	438	545	381	438		養成校 316	316	120	294	294	357	受験者数	業者 112	112	82	381	49	-		養成校 92	92	72	67	81	-	A	学生の知りたい情報を提供するため、積極的に説明会に参加した。 総合病院の看護師不足が続いているため、県外の就職説明会にも参加した。 看護師確保対策の中でも企業・養成校主催の就職説明会は、看護学生が看護部長や先輩看護師等と直接話ができることから、病院の宣伝だけでなく、看護学生個人が知りたい情報を直接伝えることができる利点がある。 説明会での内容は内定者からのアンケート結果を参考に検討をし、病院内での様子が伝わるよう動画などを用いて説明を行っている。今後も昨年に引き続き企業・養成校主催の説明会へ参加し、現在の学生の動向等をつかむことで、看護師確保に努める。	・就職説明会においては、機構の看護師が直にコミュニケーションを図ることで、看護学生が知りたい情報を把握できるという利点に併せて、採用後のミスマッチの予防にも効果があるものと考えられる。 ・WEBを利用し広く情報を提供するとともに、学生と病院とのミスマッチを減らすために積極的に対面での説明会等を開催するなど、様々な工夫を行いつつ看護師確保に努めている。				64																																																																																																																																																															
業 者	区 分	来場者数	訪問者数																																																																																																																																																																																																																																																																									
	ナース専科（静岡）	-	88																																																																																																																																																																																																																																																																									
	ナースナビ（浜松）	236	55																																																																																																																																																																																																																																																																									
	マイナビ（静岡）	85	19																																																																																																																																																																																																																																																																									
	（沼津）	97	67																																																																																																																																																																																																																																																																									
	（静岡）夏開催	204	209																																																																																																																																																																																																																																																																									
	静岡県立大学	-	87																																																																																																																																																																																																																																																																									
	常葉大学	-	116																																																																																																																																																																																																																																																																									
	聖隷クリストファー大学	-	48																																																																																																																																																																																																																																																																									
	順天堂大学	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																									
	静岡市立看護専門学校	-	53																																																																																																																																																																																																																																																																									
	静岡県立看護専門学校	-	53																																																																																																																																																																																																																																																																									
	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																																																																																																																						
来場者数	業者 709	709	582	0	545	622																																																																																																																																																																																																																																																																						
	養成校 -	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																						
訪問者数	業者 645	645	438	545	381	438																																																																																																																																																																																																																																																																						
	養成校 316	316	120	294	294	357																																																																																																																																																																																																																																																																						
受験者数	業者 112	112	82	381	49	-																																																																																																																																																																																																																																																																						
	養成校 92	92	72	67	81	-																																																																																																																																																																																																																																																																						



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																																																																																																									
						本評価	説明																																																																																																																																																														
1) 医療従事者の確保・育成 各病院において、研究環境の整備及び物的・人的資源を活用した研修プログラムの充実により、臨床医学に真摯に取り組む研究意欲の高い医師や臨床研修医・専攻医の確保及び育成に努めるほか、県との協働により、本県の医師確保対策に取り組むこと。また、看護師及びその他の医療従事者の資質向上のため、所有施設を有効活用した研修の充実を図るとともに、看護師養成施設等からの実習生受入れなど、県内の看護師等の養成に協力すること。	(1) 医療従事者の確保・育成 県立病院において、研究環境及び医療技術向上と医師養成の特色のある取組による充実した研修体制を整備し、臨床医学に真摯に取り組む研究意欲の高い医師、臨床研修医や専攻医の確保及び技能や知識の向上に努めるほか、県との協働による本県の医師確保対策に取り組む。また、県立総合病院のメディカルスキルアップセンターなどを活用して、医師、看護師及びその他の医療従事者の教育研修体制の充実・強化に努める。実習生の受入れや職員の派遣などを通じて国内外の医療機関と交流を進める。	(1) 医療従事者の確保・育成 ①研修医に選ばれる良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実 ②地域医療連携推進法人の参画医療機関等との連携による医療従事者の確保 ③医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実 ④県立総合病院メディカルスキルアップセンターなど病院機構の研修施設を活用した教育研修の充実、複数病院との共同利用で合同一次・二次救命処置トレーニングの実施 ⑤国際交流の推進 ⑥認定看護師等の資格取得への支援の看護学生等に対する魅力的な実習の提供 ⑦コメディカル・事務職員の研修	—	—	—  <table><tr><td colspan="8">海外研修の実績</td><td>(単位:人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>R元</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td><td>計</td></tr><tr><td>人 数</td><td>55</td><td>0</td><td>0</td><td>29</td><td>30</td><td>61</td><td>175</td></tr></table> <table><tr><td rowspan="13">6 年度</td><td>臨床研修医UCLA研修</td><td>16</td></tr><tr><td>浙江省訪問団</td><td>13</td></tr><tr><td>American Thoracic Society 2024 International Conference</td><td>5</td></tr><tr><td>AATS AORTIC SYMPOSIUM 104th Annual Mrrting</td><td>3</td></tr><tr><td>The Spepherd Center</td><td>10</td></tr><tr><td>KLVC+DASY 2024</td><td>1</td></tr><tr><td>European Respiratory Society International Congress 2024</td><td>3</td></tr><tr><td>41st ESRA Annual Congress</td><td>1</td></tr><tr><td>21th ESSKA Congress</td><td>1</td></tr><tr><td>ESRA INTERNATIONAL CONGRESS OF UPDATE IN CARDIOLOGY AND CARDIOVASCULAR SURGERY</td><td>1</td></tr><tr><td>38th EACTS Annual Meeting</td><td>1</td></tr><tr><td>United European Gastroenterology Week 2024</td><td>1</td></tr><tr><td>San Antonio Breast Cancer Symposium 2024</td><td>3</td></tr><tr><td>グループオトロジコ側頭骨頭蓋底解剖コース</td><td>1</td></tr><tr><td>中国浙江省研修</td><td>1</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">海外での学会発表実績</td><td>(単位:件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2 年度</td><td>3 年度</td><td>4 年度</td><td>5 年度</td><td>6 年度</td></tr><tr><td>総合</td><td>65</td><td>0</td><td>0</td><td>11</td><td>13</td><td>19</td></tr><tr><td>こども</td><td>31</td><td>3</td><td>19</td><td>27</td><td>22</td><td>25</td></tr></table> <table><tr><td colspan="6">海外研修の主な実績</td><td>(単位:人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td colspan="4">内 容</td><td>4 年度</td><td>5 年度</td><td>6 年度</td></tr><tr><td>総 合</td><td colspan="4">UCLA研修</td><td>12</td><td>11</td><td>16</td></tr><tr><td></td><td colspan="4">その他 海外学会</td><td>17</td><td>19</td><td>45</td></tr><tr><td>こころ</td><td colspan="4">—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="2">こども</td><td colspan="4">World Summit for Pediatric and Congenital Heart Surgery 2024</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td colspan="4">その他海外学会</td><td>8</td><td>30</td><td>22</td></tr></table>	海外研修の実績								(単位:人)	区 分	R元	R2	R3	R4	R5	R6	計	人 数	55	0	0	29	30	61	175	6 年度	臨床研修医UCLA研修	16	浙江省訪問団	13	American Thoracic Society 2024 International Conference	5	AATS AORTIC SYMPOSIUM 104th Annual Mrrting	3	The Spepherd Center	10	KLVC+DASY 2024	1	European Respiratory Society International Congress 2024	3	41st ESRA Annual Congress	1	21th ESSKA Congress	1	ESRA INTERNATIONAL CONGRESS OF UPDATE IN CARDIOLOGY AND CARDIOVASCULAR SURGERY	1	38th EACTS Annual Meeting	1	United European Gastroenterology Week 2024	1	San Antonio Breast Cancer Symposium 2024	3	グループオトロジコ側頭骨頭蓋底解剖コース	1	中国浙江省研修	1	海外での学会発表実績							(単位:件)	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	総合	65	0	0	11	13	19	こども	31	3	19	27	22	25	海外研修の主な実績						(単位:人)	区 分	内 容				4 年度	5 年度	6 年度	総 合	UCLA研修				12	11	16		その他 海外学会				17	19	45	こころ	—				—	—	—	こども	World Summit for Pediatric and Congenital Heart Surgery 2024				0	0	1	その他海外学会				8	30	22	A	(総合) 毎月、基礎臨床講座を開催し、各指導医から研修医等へ講義を行っているほか、医療英語・海外学会発表研修など臨床研修機能の充実を図っている。 この他、医師の技術力向上を目指し海外研修を奨励している。 また、海外学会発表を積極的に行っており、技術力の高さを示している。 令和2年度及び3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、海外での学会発表や研修の実績はなかったが、令和4年度から徐々に増加しており、令和6年度も前年度を上回る件数となった。  (こども) 令和6年度の海外での学会発表件数は25件であり、先進的高度医療に係る技術力の高さを示している。 また、海外研修を実施し更なる技術力向上に努めている。	・国際学会における演題発表や、医療先進国状況調査等に医師を派遣しており、その成果は院内外での研修講師として共有されるなど医療水準の向上に寄与している。 ・また、海外研修の報告をホームページに掲載しており、研修医の募集にあたって病院機構が魅力的な環境であることをPRしている。 ・引き続き、医師の技術力の向上を目指して、海外研修等を奨励する体制が期待される。				65														
海外研修の実績								(単位:人)																																																																																																																																																													
区 分	R元	R2	R3	R4	R5	R6	計																																																																																																																																																														
人 数	55	0	0	29	30	61	175																																																																																																																																																														
6 年度	臨床研修医UCLA研修	16																																																																																																																																																																			
	浙江省訪問団	13																																																																																																																																																																			
	American Thoracic Society 2024 International Conference	5																																																																																																																																																																			
	AATS AORTIC SYMPOSIUM 104th Annual Mrrting	3																																																																																																																																																																			
	The Spepherd Center	10																																																																																																																																																																			
	KLVC+DASY 2024	1																																																																																																																																																																			
	European Respiratory Society International Congress 2024	3																																																																																																																																																																			
	41st ESRA Annual Congress	1																																																																																																																																																																			
	21th ESSKA Congress	1																																																																																																																																																																			
	ESRA INTERNATIONAL CONGRESS OF UPDATE IN CARDIOLOGY AND CARDIOVASCULAR SURGERY	1																																																																																																																																																																			
	38th EACTS Annual Meeting	1																																																																																																																																																																			
	United European Gastroenterology Week 2024	1																																																																																																																																																																			
	San Antonio Breast Cancer Symposium 2024	3																																																																																																																																																																			
グループオトロジコ側頭骨頭蓋底解剖コース	1																																																																																																																																																																				
中国浙江省研修	1																																																																																																																																																																				
海外での学会発表実績							(単位:件)																																																																																																																																																														
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度																																																																																																																																																															
総合	65	0	0	11	13	19																																																																																																																																																															
こども	31	3	19	27	22	25																																																																																																																																																															
海外研修の主な実績						(単位:人)																																																																																																																																																															
区 分	内 容				4 年度	5 年度	6 年度																																																																																																																																																														
総 合	UCLA研修				12	11	16																																																																																																																																																														
	その他 海外学会				17	19	45																																																																																																																																																														
こころ	—				—	—	—																																																																																																																																																														
こども	World Summit for Pediatric and Congenital Heart Surgery 2024				0	0	1																																																																																																																																																														
	その他海外学会				8	30	22																																																																																																																																																														
		④メディカルスキルアップセンターなど、病院機構研修施設の活用の促進を図る。	66	総合・こども  <table><tr><td colspan="7">(総合病院) メディカルスキルアップセンター利用状況</td><td>(単位:回、人)</td></tr><tr><td rowspan="2">区 分</td><td rowspan="2">元年度</td><td colspan="2">2年度</td><td rowspan="2">3年度</td><td colspan="2">4年度</td><td colspan="2">5年度</td><td colspan="2">6年度</td></tr><tr><td>うち外部利用</td><td>うち外部利用</td><td>うち外部利用</td><td>うち外部利用</td><td>うち外部利用</td><td>うち外部利用</td></tr><tr><td rowspan="2">医師</td><td>開催回数</td><td>775</td><td>42</td><td>1097</td><td>5</td><td>1,773</td><td>5</td><td>925</td><td>0</td><td>1379</td><td>0</td><td>2,094</td><td>0</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>3,236</td><td>166</td><td>3,488</td><td>16</td><td>3,194</td><td>41</td><td>1,707</td><td>17</td><td>2,068</td><td>1</td><td>2,737</td><td>18</td></tr><tr><td rowspan="2">看護師</td><td>開催回数</td><td>268</td><td>39</td><td>275</td><td>7</td><td>175</td><td>4</td><td>95</td><td>0</td><td>84</td><td>0</td><td>52</td><td>0</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>5,867</td><td>291</td><td>4,468</td><td>67</td><td>2,987</td><td>67</td><td>2,016</td><td>0</td><td>1,847</td><td>0</td><td>1,226</td><td>64</td></tr><tr><td rowspan="2">その他</td><td>開催回数</td><td>310</td><td>186</td><td>238</td><td>118</td><td>122</td><td>91</td><td>10</td><td>0</td><td>10</td><td>0</td><td>8</td><td>0</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>2,671</td><td>1,122</td><td>1,863</td><td>736</td><td>503</td><td>215</td><td>392</td><td>146</td><td>267</td><td>258</td><td>250</td><td>173</td></tr><tr><td rowspan="2">計</td><td>開催回数</td><td>1,373</td><td>267</td><td>1,610</td><td>130</td><td>2,070</td><td>100</td><td>1,030</td><td>0</td><td>1,470</td><td>0</td><td>2,094</td><td>0</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>11,774</td><td>1,579</td><td>9,819</td><td>819</td><td>6,684</td><td>323</td><td>4,115</td><td>163</td><td>4,202</td><td>259</td><td>4,213</td><td>257</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">(こども病院) ラーニングセンター利用状況</td><td>(単位:件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2 年度</td><td>3 年度</td><td>4 年度</td><td>5 年度</td><td>6 年度</td></tr><tr><td>利用件数</td><td>13</td><td>0</td><td>18</td><td>28</td><td>27</td><td>42</td></tr></table> ※令和6年度から受講者数に応じて、教室、中会議室、大会議室を使い分けて使用し、その合計利用件数を記載 ※令和3～5年度は、ラーニングセンターが使用中止のため、代替施設(病室等)での研修回数を記載。	(総合病院) メディカルスキルアップセンター利用状況							(単位:回、人)	区 分	元年度	2年度		3年度	4年度		5年度		6年度		うち外部利用	うち外部利用	うち外部利用	うち外部利用	うち外部利用	うち外部利用	医師	開催回数	775	42	1097	5	1,773	5	925	0	1379	0	2,094	0	参加人数	3,236	166	3,488	16	3,194	41	1,707	17	2,068	1	2,737	18	看護師	開催回数	268	39	275	7	175	4	95	0	84	0	52	0	参加人数	5,867	291	4,468	67	2,987	67	2,016	0	1,847	0	1,226	64	その他	開催回数	310	186	238	118	122	91	10	0	10	0	8	0	参加人数	2,671	1,122	1,863	736	503	215	392	146	267	258	250	173	計	開催回数	1,373	267	1,610	130	2,070	100	1,030	0	1,470	0	2,094	0	参加人数	11,774	1,579	9,819	819	6,684	323	4,115	163	4,202	259	4,213	257	(こども病院) ラーニングセンター利用状況							(単位:件)	区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	利用件数	13	0	18	28	27	42	A	(総合) メディカルスキルアップセンターでは、各種シミュレーターを導入し、研修医を始めとする医師や看護師等の医療従事者によるトレーニングや講習に活用している。外部利用については、医師会主催の研修会や高校生の見学ツアー時の診療体験などで活用されている。 令和6年度は、令和5年度と同水準で推移した。今後も医師をはじめとする院内利用だけでなく、外部利用の拡大に努める。  (こども) 令和3年度からのワーキンググループでの検討結果を受けて、令和5年度にラーニングセンターに係る整備及び改修を実施した。その結果、会議室の改修を行うことで研修内容や受講人数に応じて、教室、中会議室、大会議室を研修会場として使い分けることが可能となった。また、会議室の1つにポータブル医ガス装置を整備し、実技研修を常時実施可能な環境としている。 このように研修機能を集約したラーニングセンターは、令和6年度、医療従事者による研修会場として22件利用されている。今後も更なる活用を推進していく。	・総合病院のメディカルスキルアップセンターは、平成29年度に先端医学棟内への移転に伴い、従来の2.8倍の約332㎡に拡張し、採血等の基本手技、心配蘇生等の救急訓練、内視鏡下手術訓練等の臨床各科に応じたシミュレーター整備など、研修環境の充実が図られている。 ・センターの利用者数は、一定程度の利用者数は確保されており、現場に即した実践的な研修が提供されている。 ・充実した研修施設が地域に還元されるよう、県内医療施設等への周知などの取組強化を期待する。 ・こども病院のラーニングセンターは、第3期目標期間においては使用休止状態が続いていたが、令和6年度から、新たに研修機能を集約させたラーニングセンターの運用が開始された。R6年度は延42件利用されており、今後も実戦的な研修を含む積極的な運用を期待する。	✓	○	66
(総合病院) メディカルスキルアップセンター利用状況							(単位:回、人)																																																																																																																																																														
区 分	元年度	2年度		3年度	4年度		5年度		6年度																																																																																																																																																												
		うち外部利用	うち外部利用		うち外部利用	うち外部利用	うち外部利用	うち外部利用																																																																																																																																																													
医師	開催回数	775	42	1097	5	1,773	5	925	0	1379	0	2,094	0																																																																																																																																																								
	参加人数	3,236	166	3,488	16	3,194	41	1,707	17	2,068	1	2,737	18																																																																																																																																																								
看護師	開催回数	268	39	275	7	175	4	95	0	84	0	52	0																																																																																																																																																								
	参加人数	5,867	291	4,468	67	2,987	67	2,016	0	1,847	0	1,226	64																																																																																																																																																								
その他	開催回数	310	186	238	118	122	91	10	0	10	0	8	0																																																																																																																																																								
	参加人数	2,671	1,122	1,863	736	503	215	392	146	267	258	250	173																																																																																																																																																								
計	開催回数	1,373	267	1,610	130	2,070	100	1,030	0	1,470	0	2,094	0																																																																																																																																																								
	参加人数	11,774	1,579	9,819	819	6,684	323	4,115	163	4,202	259	4,213	257																																																																																																																																																								
(こども病院) ラーニングセンター利用状況							(単位:件)																																																																																																																																																														
区 分	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度																																																																																																																																																															
利用件数	13	0	18	28	27	42																																																																																																																																																															

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																																																																																																																	
						本評価	説明																																																																																																																																																																						
			67	⑤海外との視察者等の受け入れや派遣など、国際交流の推進を図る。 ⑤静岡社会健康医学大学院大学と連携し、海外大学等との交流を図る。	各病院（企画）  海外視察・講演等の派遣・受入（単位：人） <table><tr><th></th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>視察・講演等派遣</td><td>73</td><td>0</td><td>0</td><td>29</td><td>72</td><td>70</td></tr><tr><td>視察・研修等受入</td><td>35</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td><td>29</td><td>26</td></tr></table> 総合病院では、平成23年度より中国浙江省からの研修受入を行っており、中国浙江省7医院と友好協力協定及び覚書を締結し、研修生を受け入れている。 令和4年度11月に機構と浙江省衛生健康委員会と友好協定を締結した。		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	視察・講演等派遣	73	0	0	29	72	70	視察・研修等受入	35	0	0	3	29	26	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣研修及び相互訪問は中止していたが、令和4年度から徐々に再開し、令和5年6月には浙江省衛生健康委員会の孫副主任をはじめとする6名が来訪、令和6年4月、12月には、静岡県立病院機構職員が5年ぶりに浙江省を訪問するなどの交流を行った。また、令和6年度はタイ高等教育科学事務局訪問団10名の受け入れを行った。				67																																																																																																																																													
	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																							
視察・講演等派遣	73	0	0	29	72	70																																																																																																																																																																							
視察・研修等受入	35	0	0	3	29	26																																																																																																																																																																							
			68	⑥看護師及びその他の医療従事者のスキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。 ⑥認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図る。	本部（企画）  資格等取得助成制度利用者（単位：人） <table><tr><th></th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td rowspan="4">総合</td><td>看護師</td><td>0</td><td>9</td><td>10</td><td>13</td><td>12</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>9</td><td>5</td></tr><tr><td>事務</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>0</td><td>10</td><td>13</td><td>22</td><td>17</td></tr><tr><td rowspan="4">こころ</td><td>看護師</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>事務</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>8</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td rowspan="4">こども</td><td>看護師</td><td>6</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>5</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>事務</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>10</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td></tr><tr><td rowspan="2">本部</td><td>事務</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>看護師</td><td>8</td><td>12</td><td>13</td><td>15</td><td>18</td></tr><tr><td rowspan="3">計</td><td>コメディカル</td><td>9</td><td>1</td><td>1</td><td>11</td><td>6</td></tr><tr><td>事務</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>18</td><td>13</td><td>16</td><td>26</td><td>24</td></tr></table>  総合 主な医療職種の資格取得者数（6/30までの累計） <table><tr><th>職種</th><th>人数</th><th>専門・認定領域</th></tr><tr><td>専門看護師</td><td>3</td><td>がん看護、急性・重症患者看護</td></tr><tr><td>認定看護師</td><td>17</td><td>救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん薬物療法看護、感染管理、脳卒中看護、がん放射線療法</td></tr><tr><td>薬剤師</td><td>42</td><td>がん薬物療法認定、がん専門、がん指導、外来がん治療認定、外来がん治療専門病院薬学認定、研修認定、医療薬学専門、医療薬学指導、薬物療法専門、薬物療法指導、認定実務実習指導、認定CRC、周術期管理チーム、NST専門療法士、感染制御認定、抗菌化学療法認定、登録抗酸菌症エキスパート、精神科薬物療法認定、緩和薬物療法認定、緩和医療暫定指導、老年薬学認定、小児薬物療法認定、骨粗しょう症マネージャー、腎臓病療養指導士、心不全療養指導士、パーキンソン病療養指導士、公認スポーツファーマシスト</td></tr><tr><td>検査技師</td><td>35</td><td>緊急臨床検査士、認定病理、細胞検査士、超音波検査士、日本心エコー図学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、がんゲノム医療コーディネーター、臨床実習指導者、肝炎医療コーディネーター、臨床検査士、遺伝子分析化学認定士、認定一般、臨床化学・免疫化学精度保証管理、医療技術部門管理資格認定、認定HIA検査技術者、国際細胞検査士、細胞治療認定管理師、認定臨床微生物、認定血液、心電図検定、JHNS認定心電図専門士、心血管インターベンション技師、登録抗酸菌エキスパート、日本睡眠学会認定検査技師</td></tr><tr><td>放射線技師</td><td>43</td><td>放射線治療専門、放射線治療品質管理、医学物理士、PET認定、救急撮影、第1種放射線取扱主任者、磁気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、血管撮影/介入専門技師、血管診療技師、デジタルマンモグラフィ撮影認定、超音波検査士</td></tr><tr><td>理学療法士 作業療法士</td><td>29</td><td>NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士、認定療法士、3学会認定呼吸療法士、糖尿病療養指導士、心臓リハビリテーション指導士、ICLSインストラクター</td></tr><tr><td>栄養士</td><td>20</td><td>糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養研修指導師、栄養サポートチーム専門療法士、がん専門療法士、NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士</td></tr><tr><td>計</td><td>189</td><td></td></tr></table>  こころ 認定看護師取得者数（6年度）（単位：人） <table><tr><th>区分</th><th>人数</th><th>専門・認定領域</th></tr><tr><td>専門看護師</td><td>0</td><td>精神看護（リエゾン領域）</td></tr><tr><td rowspan="2">認定看護師</td><td>5</td><td>精神科</td></tr><tr><td>0</td><td>感染管理</td></tr></table>  こども 認定看護師取得者数（6年度）（単位：人） <table><tr><th>区分</th><th>人数</th><th>専門・認定領域</th></tr><tr><td>専門看護師</td><td>1</td><td>小児看護</td></tr><tr><td rowspan="2">認定看護師</td><td>10</td><td>皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名、緩和ケア看護1名、認定看護管理者1名</td></tr></table>		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	総合	看護師	0	9	10	13	12	コメディカル	0	1	1	9	5	事務	0	0	2	0	0	計	0	10	13	22	17	こころ	看護師	2	1	1	0	1	コメディカル	5	0	0	0	0	事務	1	0	0	0	0	計	8	1	1	0	1	こども	看護師	6	2	2	2	5	コメディカル	4	0	0	2	1	事務	0	0	0	0	1	計	10	2	2	4	6	本部	事務	0	0	0	0	0	看護師	8	12	13	15	18	計	コメディカル	9	1	1	11	6	事務	1	0	2	0	1	計	18	13	16	26	24	職種	人数	専門・認定領域	専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護	認定看護師	17	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん薬物療法看護、感染管理、脳卒中看護、がん放射線療法	薬剤師	42	がん薬物療法認定、がん専門、がん指導、外来がん治療認定、外来がん治療専門病院薬学認定、研修認定、医療薬学専門、医療薬学指導、薬物療法専門、薬物療法指導、認定実務実習指導、認定CRC、周術期管理チーム、NST専門療法士、感染制御認定、抗菌化学療法認定、登録抗酸菌症エキスパート、精神科薬物療法認定、緩和薬物療法認定、緩和医療暫定指導、老年薬学認定、小児薬物療法認定、骨粗しょう症マネージャー、腎臓病療養指導士、心不全療養指導士、パーキンソン病療養指導士、公認スポーツファーマシスト	検査技師	35	緊急臨床検査士、認定病理、細胞検査士、超音波検査士、日本心エコー図学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、がんゲノム医療コーディネーター、臨床実習指導者、肝炎医療コーディネーター、臨床検査士、遺伝子分析化学認定士、認定一般、臨床化学・免疫化学精度保証管理、医療技術部門管理資格認定、認定HIA検査技術者、国際細胞検査士、細胞治療認定管理師、認定臨床微生物、認定血液、心電図検定、JHNS認定心電図専門士、心血管インターベンション技師、登録抗酸菌エキスパート、日本睡眠学会認定検査技師	放射線技師	43	放射線治療専門、放射線治療品質管理、医学物理士、PET認定、救急撮影、第1種放射線取扱主任者、磁気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、血管撮影/介入専門技師、血管診療技師、デジタルマンモグラフィ撮影認定、超音波検査士	理学療法士 作業療法士	29	NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士、認定療法士、3学会認定呼吸療法士、糖尿病療養指導士、心臓リハビリテーション指導士、ICLSインストラクター	栄養士	20	糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養研修指導師、栄養サポートチーム専門療法士、がん専門療法士、NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士	計	189		区分	人数	専門・認定領域	専門看護師	0	精神看護（リエゾン領域）	認定看護師	5	精神科	0	感染管理	区分	人数	専門・認定領域	専門看護師	1	小児看護	認定看護師	10	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名、緩和ケア看護1名、認定看護管理者1名	A	感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置し、組織横断的に活動することができている。 また、認定看護師等の病院運営に寄与する資格等については、資格等取得資金貸付要綱を改定し、取得支援制度を拡充するなど、資格取得者の増員を図った。	・高度・専門医療を提供する県立病院において、医療の質の向上のため、優れた看護技術と知識を備え高水準の看護を実践する専門看護師や認定看護師を育成することが必要とされる。 ・令和6年度の資格者数は、総合20人(専門3人、認定17人)、こころ5人(専門0人、認定5人)、こども12人(専門2人、認定10人)であり、資格等取得制度の利用者数は11人と、育成が図られている。				68
	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																							
総合	看護師	0	9	10	13	12																																																																																																																																																																							
	コメディカル	0	1	1	9	5																																																																																																																																																																							
	事務	0	0	2	0	0																																																																																																																																																																							
	計	0	10	13	22	17																																																																																																																																																																							
こころ	看護師	2	1	1	0	1																																																																																																																																																																							
	コメディカル	5	0	0	0	0																																																																																																																																																																							
	事務	1	0	0	0	0																																																																																																																																																																							
	計	8	1	1	0	1																																																																																																																																																																							
こども	看護師	6	2	2	2	5																																																																																																																																																																							
	コメディカル	4	0	0	2	1																																																																																																																																																																							
	事務	0	0	0	0	1																																																																																																																																																																							
	計	10	2	2	4	6																																																																																																																																																																							
本部	事務	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																							
	看護師	8	12	13	15	18																																																																																																																																																																							
計	コメディカル	9	1	1	11	6																																																																																																																																																																							
	事務	1	0	2	0	1																																																																																																																																																																							
	計	18	13	16	26	24																																																																																																																																																																							
職種	人数	専門・認定領域																																																																																																																																																																											
専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護																																																																																																																																																																											
認定看護師	17	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん薬物療法看護、感染管理、脳卒中看護、がん放射線療法																																																																																																																																																																											
薬剤師	42	がん薬物療法認定、がん専門、がん指導、外来がん治療認定、外来がん治療専門病院薬学認定、研修認定、医療薬学専門、医療薬学指導、薬物療法専門、薬物療法指導、認定実務実習指導、認定CRC、周術期管理チーム、NST専門療法士、感染制御認定、抗菌化学療法認定、登録抗酸菌症エキスパート、精神科薬物療法認定、緩和薬物療法認定、緩和医療暫定指導、老年薬学認定、小児薬物療法認定、骨粗しょう症マネージャー、腎臓病療養指導士、心不全療養指導士、パーキンソン病療養指導士、公認スポーツファーマシスト																																																																																																																																																																											
検査技師	35	緊急臨床検査士、認定病理、細胞検査士、超音波検査士、日本心エコー図学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、がんゲノム医療コーディネーター、臨床実習指導者、肝炎医療コーディネーター、臨床検査士、遺伝子分析化学認定士、認定一般、臨床化学・免疫化学精度保証管理、医療技術部門管理資格認定、認定HIA検査技術者、国際細胞検査士、細胞治療認定管理師、認定臨床微生物、認定血液、心電図検定、JHNS認定心電図専門士、心血管インターベンション技師、登録抗酸菌エキスパート、日本睡眠学会認定検査技師																																																																																																																																																																											
放射線技師	43	放射線治療専門、放射線治療品質管理、医学物理士、PET認定、救急撮影、第1種放射線取扱主任者、磁気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、血管撮影/介入専門技師、血管診療技師、デジタルマンモグラフィ撮影認定、超音波検査士																																																																																																																																																																											
理学療法士 作業療法士	29	NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士、認定療法士、3学会認定呼吸療法士、糖尿病療養指導士、心臓リハビリテーション指導士、ICLSインストラクター																																																																																																																																																																											
栄養士	20	糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養研修指導師、栄養サポートチーム専門療法士、がん専門療法士、NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士																																																																																																																																																																											
計	189																																																																																																																																																																												
区分	人数	専門・認定領域																																																																																																																																																																											
専門看護師	0	精神看護（リエゾン領域）																																																																																																																																																																											
認定看護師	5	精神科																																																																																																																																																																											
	0	感染管理																																																																																																																																																																											
区分	人数	専門・認定領域																																																																																																																																																																											
専門看護師	1	小児看護																																																																																																																																																																											
認定看護師	10	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名、緩和ケア看護1名、認定看護管理者1名																																																																																																																																																																											



中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(令6)		令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)		重点	数値	評価	No.																																																																										
											本評価	説明																																																																																
2)	勤務環境の向上 優秀な医療従事者を確保するため、働きやすく、また、働きがいのある病院となるよう、適切な労務管理の推進、ICTの活用などにより医師をはじめとした医療従事者の時間外労働の縮減とワーク・ライフ・バランスの向上に取り組み、職員の精神面を含めた健康保持に配慮するほか、医療従事者の業務分担を行うなど、勤務環境の向上を図ること。	(2) 勤務環境の向上 適切な労務管理の推進、ICTの活用、医師をはじめとした医療従事者の業務分担をはじめ、仕事と生活の調和に配慮した雇用形態や勤務時間の設定などによる時間外勤務の縮減及び職員の健康保持への配慮や院内保育所の活用など、職員が働きやすく、働きがいを実感できる勤務環境づくりを進める。	(2) 勤務環境の向上 ①柔軟な勤務条件の設定及び適切な労務管理の推進 ②医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備 ③職員の意欲を高め、勤務実績が的確に反映される人事・給与制度の運用 ④職員が働きやすい施設等の環境整備 ⑤県立病院内保育所の活用	-	-	-	-	実習・アルバイト研修等の受入れ (単位：人) <table><tr><th colspan="2">区 分</th><th colspan="6">6 年度</th></tr><tr><th>医師</th><th>医学生</th><th>看護師</th><th>看護学生</th><th>コメディカル</th><th>計</th></tr><tr><td>総 合</td><td>73</td><td>357</td><td>0</td><td>430</td><td>194</td><td>1,054</td></tr><tr><td>こころ</td><td>41</td><td>2</td><td>1</td><td>414</td><td>370</td><td>828</td></tr><tr><td>こども</td><td>75</td><td>43</td><td>11</td><td>325</td><td>60</td><td>514</td></tr><tr><td>計</td><td>189</td><td>402</td><td>12</td><td>1,169</td><td>624</td><td>2,396</td></tr></table>	区 分		6 年度						医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総 合	73	357	0	430	194	1,054	こころ	41	2	1	414	370	828	こども	75	43	11	325	60	514	計	189	402	12	1,169	624	2,396	A	各病院では、例年医師、医学生、看護師、看護学生等を積極的に受け入れ、メディカルスキルアップセンター等を活用した臨床現場に即した実践的な研修を提供している。	・医師、医学生、看護師、看護学生、コメディカルの実習やアルバイトを積極的に受け入れ、臨床現場に即した実践的な研修を提供している。 ・実習・アルバイトの受入れにおいては、新型コロナウイルス等の感染症対策を行いながら、効果的な実践研修の場の提供に努めている。				69																																			
				区 分		6 年度																																																																																						
医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																																							
総 合	73	357	0	430	194	1,054																																																																																						
こころ	41	2	1	414	370	828																																																																																						
こども	75	43	11	325	60	514																																																																																						
計	189	402	12	1,169	624	2,396																																																																																						
				-	-	-	-	職員研修参加者数 (単位：人) <table><tr><th></th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度</th><th>4 年度</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th></tr><tr><td>新規採用職員研修</td><td>139</td><td>160</td><td>130</td><td>147</td><td>149</td><td>139</td></tr><tr><td>新規役付職員研修</td><td>7</td><td>10</td><td>271</td><td>80</td><td>54</td><td>50</td></tr><tr><td>新規監督者研修</td><td>11</td><td>16</td><td>10</td><td>16</td><td>16</td><td>18</td></tr><tr><td>労務管理者研修</td><td>-</td><td>120</td><td>96</td><td>96</td><td>55</td><td>42</td></tr><tr><td>新任管理者・新任監督者研修</td><td>21</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>133</td><td>44</td></tr><tr><td>コミュニケーション・ティーチング講座</td><td>19</td><td>31</td><td>27</td><td>24</td><td>19</td><td>30</td></tr><tr><td>接遇・クレーム対応講座</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>17</td><td>33</td></tr><tr><td>ファシリテーション講座</td><td>25</td><td>29</td><td>30</td><td>26</td><td>19</td><td>25</td></tr><tr><td>コーチング講座</td><td>20</td><td>29</td><td>19</td><td>32</td><td>20</td><td>23</td></tr><tr><td>メンタルサポート講座</td><td>29</td><td>24</td><td>21</td><td>18</td><td>14</td><td>17</td></tr></table> ※ 令和3年度以降は職務級制度の改正により新規役付き職員研修の対象者が増加した。		元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	新規採用職員研修	139	160	130	147	149	139	新規役付職員研修	7	10	271	80	54	50	新規監督者研修	11	16	10	16	16	18	労務管理者研修	-	120	96	96	55	42	新任管理者・新任監督者研修	21	-	-	-	133	44	コミュニケーション・ティーチング講座	19	31	27	24	19	30	接遇・クレーム対応講座	-	-	-	-	17	33	ファシリテーション講座	25	29	30	26	19	25	コーチング講座	20	29	19	32	20	23	メンタルサポート講座	29	24	21	18	14	17	A	令和6年度についても、階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修や働き方改革関連法に対応するための労務管理者研修を実施している。	・全ての職種に共通して必要となるコミュニケーション能力や組織マネジメント能力など、県内医療の中核を担う県立病院の職員として求められる社会的スキルの習得につながる研修や、働き方改革関連法に対応するための研修など、階層や目的に応じた研修が実施されている。				70
					元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度																																																																																		
新規採用職員研修	139	160	130	147	149	139																																																																																						
新規役付職員研修	7	10	271	80	54	50																																																																																						
新規監督者研修	11	16	10	16	16	18																																																																																						
労務管理者研修	-	120	96	96	55	42																																																																																						
新任管理者・新任監督者研修	21	-	-	-	133	44																																																																																						
コミュニケーション・ティーチング講座	19	31	27	24	19	30																																																																																						
接遇・クレーム対応講座	-	-	-	-	17	33																																																																																						
ファシリテーション講座	25	29	30	26	19	25																																																																																						
コーチング講座	20	29	19	32	20	23																																																																																						
メンタルサポート講座	29	24	21	18	14	17																																																																																						
				-	-	-	-	看護師の2交代勤務については、総合病院で21部署、こころの医療センターで3部署、こども病院で10部署となっている。看護師の夜勤専従について、3病院で導入した。また、看護師アソシエイトを3名採用した。  また、総合病院は令和5年9月に、こども病院では令和6年3月に、静岡県から特定及び連携型特定地域医療提供機関の指定を受けたため、許可された医師の労働時間短縮計画等に基づき、医師の労働時間短縮の取組等を推進した。  医師 1 人あたりの平均時間外数（単位：時間） <table><tr><th>区分</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th></tr><tr><td>総 合</td><td>720</td><td>738</td></tr><tr><td>こころ</td><td>298</td><td>322</td></tr><tr><td>こども</td><td>351</td><td>476</td></tr></table>  ※令和6年度から増加しているが、令和17年度末までの医師の労働時間の短縮に向けた目標達成を実現するため、様々な取組みを着実に実行している。  医師 1 人あたりの年次有給休暇取得日数（単位：日） <table><tr><th>区分</th><th>5 年度</th><th>6 年度</th></tr><tr><td>総 合</td><td>10.3</td><td>10.7</td></tr><tr><td>こころ</td><td>13</td><td>12</td></tr><tr><td>こども</td><td>10</td><td>10</td></tr></table>	区分	5 年度	6 年度	総 合	720	738	こころ	298	322	こども	351	476	区分	5 年度	6 年度	総 合	10.3	10.7	こころ	13	12	こども	10	10	S	令和6年度については、効果的な職員採用に繋げるため、看護師のアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。 看護師の2交代制や夜勤専従の取組など、雇用形態の多様化を図っている。 また、医師の年次有給休暇取得日数については、義務づけられている5日間以上を取得することができている。  令和6年度から義務化された医師の働き方改革への対応として、以下のような取り組みを各病院で行っている。  総合病院では、チーム制・複数主治医制の導入を進め、患者・家族等への時間外の説明などを原則禁止し、休暇の取得も推進した。また、現在継続している医師から看護・メディカルスタッフ・事務等への業務のタスクシフト(看護師特定行為の推進、持続皮下グルコース検査の推進他)を推進した。加えて、タスクシフトを行う、看護・メディカルスタッフ・事務等の労働環境の改善を推進した。 看護師の特定行為研修においては、総合病院では令和6年度は研修終了者9名が、腹腔ドレーン抜去や動脈ライン抜去等の特定行為を実施し、新たに4名が研修を受講した。また、「タスクシフト・看護師の特定行為研修」については日本病院学会で優良表彰を受けた。 医師の労働時間短縮計画に基づき、水準指定医師で勤務間インターバルが取得できなかった医師を毎月検証し、当該医師及び及び当該上司(診療科部長)に対し、代償休息の取得を依頼し、その実績について毎月検証した。 令和6年4月から月の法定外時間外労働＋休日労働時間数が100時間以上とすることが見込まれる医師について、面接指導医師による面接指導を実施した。令和6年度計画について検証し、時点修正を行う等、PDCAサイクルを回していく。  こども病院では、医師の働き方改革をふまえ、看護師による病棟における採血業務の実施や薬剤師による服薬指導等、他職種へのタスクシフトを行っている。また、医師を含む医療スタッフと患者家族との面談時間を原則、勤務時間内(9時～16時30分まで)としており、医師の労働時間の短縮に努めている。また、看護師の特定行為について1名が活動しており、令和6年度より2名が新たに研修中である。	・地方独立行政法人としての柔軟性・機動性を発揮して、交替勤務制、夜勤専従、アソシエイト制度など、個々のライフスタイルに合わせた多様な勤務条件・雇用形態が設定されており、離職防止やワークライフバランスの実現に寄与している。 ・令和6年度からの医師の時間外労働上限規制に対応するため、総合病院及びこども病院は、特定及び連携型地域医療提供機関の指定を受けている。 ・医師の働き方改革について、総合病院では、チーム制・複数主治医制の導入、タスクシフトの推進、勤務間インターバル制度の試行など、病院全体で積極的な取組を進めている。 ・また、医師からタスクシフトを受ける看護師等については、増員や特定行為研修による養成を行うほか、さらにその補助を行う看護助手等についても増員を図るなど、タスクシフトの受け手の勤務環境の向上も推進している。 ・こころの医療センター、こども病院についても、DXに関する取組やタスクシフトの推進など、効率的な運営による業務の省力化を図っている。 ・救急科においては、長時間労働による医師の負担が課題とされている。令和6年度の総合病院の救急科医師数及びこども病院のPICU配置医師数は前年度より増加しているが、今後も県立病院としての医療提供の使命とのバランスを図りつつ、救急医療体制を担う医師の確保・養成、勤務環境改善のための制度等の工夫が期待される。 ・一方で、医師の1人当たり時間外勤務は前年度実績と比較し、3病院とも増加しており、評価項目として数値目標が設定されていないものの「特に着目すべき」成果とするには至らなかったことから、県評価は○とする	✓	○	71																																																						
区分	5 年度	6 年度																																																																																										
総 合	720	738																																																																																										
こころ	298	322																																																																																										
こども	351	476																																																																																										
区分	5 年度	6 年度																																																																																										
総 合	10.3	10.7																																																																																										
こころ	13	12																																																																																										
こども	10	10																																																																																										

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																																																																												
						本評価	説明																																																																																																																																	
			72	②医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境の整備や業務多忙を解消するために、医療秘書・助手等を効果的に配置する。	本部・各病院（総務） <table><tr><td colspan="2">補助職員の配置状況（各年度4月1日現在）</td><td colspan="6">（単位：人）</td></tr><tr><td rowspan="4">総合</td><td>医師事務補助</td><td>76</td><td>72</td><td>72</td><td>70</td><td>82</td><td>79</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>58</td><td>56</td><td>58</td><td>59</td><td>52</td><td>57</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>23</td><td>26</td><td>28</td><td>27</td><td>29</td><td>29</td></tr><tr><td>小計</td><td>157</td><td>154</td><td>158</td><td>156</td><td>163</td><td>165</td></tr><tr><td rowspan="4">こころ</td><td>医師事務補助</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>7</td><td>8</td><td>8</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>小計</td><td>12</td><td>13</td><td>12</td><td>10</td><td>11</td><td>10</td></tr><tr><td rowspan="4">こども</td><td>医師事務補助</td><td>19</td><td>20</td><td>18</td><td>18</td><td>23</td><td>20</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>21</td><td>21</td><td>21</td><td>20</td><td>24</td><td>24</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>8</td><td>6</td><td>6</td><td>5</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>小計</td><td>48</td><td>47</td><td>45</td><td>43</td><td>49</td><td>46</td></tr><tr><td rowspan="4">計</td><td>医師事務補助</td><td>96</td><td>94</td><td>91</td><td>89</td><td>106</td><td>99</td></tr><tr><td>看護助手</td><td>88</td><td>86</td><td>88</td><td>86</td><td>84</td><td>89</td></tr><tr><td>コメディカル助手</td><td>33</td><td>34</td><td>36</td><td>34</td><td>33</td><td>33</td></tr><tr><td>小計</td><td>217</td><td>214</td><td>215</td><td>209</td><td>223</td><td>221</td></tr></table>	補助職員の配置状況（各年度4月1日現在）		（単位：人）						総合	医師事務補助	76	72	72	70	82	79	看護助手	58	56	58	59	52	57	コメディカル助手	23	26	28	27	29	29	小計	157	154	158	156	163	165	こころ	医師事務補助	1	2	1	1	1	0	看護助手	9	9	9	7	8	8	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2	小計	12	13	12	10	11	10	こども	医師事務補助	19	20	18	18	23	20	看護助手	21	21	21	20	24	24	コメディカル助手	8	6	6	5	2	2	小計	48	47	45	43	49	46	計	医師事務補助	96	94	91	89	106	99	看護助手	88	86	88	86	84	89	コメディカル助手	33	34	36	34	33	33	小計	217	214	215	209	223	221	A	医師の事務補助を行う職員の配置については、電子カルテの入力業務等により、医師が診療に専念できる等、事務負担軽減の効果が確認されている。 総合病院では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて、医療従事者が診療に専念できるように医師事務作業補助者を配置しており、令和5年度においても、診療報酬の施設基準上、最上位基準を維持している。 なお、令和4年度から派遣会社を活用した夜間看護補助者の配置を開始し、看護師の負担軽減および診療報酬上の加算も併せて取得することができている。 また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければできない業務に専念できている。	・時間外労働時間の上限規制に対応し、適切な人員配置や部署を超えた協力体制の構築に取り組んでいる。 ・派遣会社を活用した夜間の看護補助者配置等により、医師だけでなく看護師の業務負担を軽減すると同時に、診療報酬上の加算も取得している。				72
補助職員の配置状況（各年度4月1日現在）		（単位：人）																																																																																																																																						
総合	医師事務補助	76	72	72	70	82	79																																																																																																																																	
	看護助手	58	56	58	59	52	57																																																																																																																																	
	コメディカル助手	23	26	28	27	29	29																																																																																																																																	
	小計	157	154	158	156	163	165																																																																																																																																	
こころ	医師事務補助	1	2	1	1	1	0																																																																																																																																	
	看護助手	9	9	9	7	8	8																																																																																																																																	
	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2																																																																																																																																	
	小計	12	13	12	10	11	10																																																																																																																																	
こども	医師事務補助	19	20	18	18	23	20																																																																																																																																	
	看護助手	21	21	21	20	24	24																																																																																																																																	
	コメディカル助手	8	6	6	5	2	2																																																																																																																																	
	小計	48	47	45	43	49	46																																																																																																																																	
計	医師事務補助	96	94	91	89	106	99																																																																																																																																	
	看護助手	88	86	88	86	84	89																																																																																																																																	
	コメディカル助手	33	34	36	34	33	33																																																																																																																																	
	小計	217	214	215	209	223	221																																																																																																																																	
			73	③全職員を対象とした人事評価制度を円滑に実施する。	本部（総務） <p>県準拠として職員組合と合意し、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与(勤勉手当)に活用、令和3年度から昇給に活用し(令和4年度前期、後期の評価を令和6年1月1日昇給に活用)、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に実施している。</p>	A	平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与(勤勉手当)に活用、令和3年度から昇給に活用し(令和4年度前期、後期の評価を令和6年1月1日昇給に活用)、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に実施している。	・県に準拠した人事評価制度を導入しており、職員の意欲が反映される仕組みづくりに取り組んでいる。				73																																																																																																																												
			74	④就労環境の改善に向けた院内施設、子育て支援や相談など福利厚生 の充実を進める。	本部・各病院（総務・企画） <p>【総合病院】 ・院内保育所については、保育所運営協議会において、事務局、委託先、利用者間の意見交換を行い、院内保育所入所者を対象にインフルエンザ予防接種を令和6年度も実施した。  【こころの医療センター】 ・老朽化した施設、機器の更新を順次進め、就労環境の改善に努めた。  【こども病院】 ・院内保育所の夜間保育の対応拡大(週2日から週3日へ) ・eラーニングツールを活用した職員研修の受講や受講管理の効率化</p>	A	看護師等が離職することを防止するため、こころのケアだけでなく体力低下で看護業務へ支障を来さないよう日常生活相談を含め、心身に対するきめ細かい対応を行い、長期に渡り勤務できる環境を整える取組を行っている。 また、育児休業や育児短時間勤務による一時的な収入の減少を補い、就学前の子を養育するための資金を貸し付ける「就学前児童の養育資金貸付制度」を創設し、職員が安心して育児をしたり、育児短時間勤務等による職場復帰できるようにするための取組を行っている。  こころの医療センターでは、スポットエアコンの導入や監視カメラを増設し、職員の就労環境の改善、負担軽減を図った。  こども病院では、院内保育所の夜間保育を週2日から週3日へ対応出来るよう整備した。さらに令和6年度も引き続き、職員研修にeラーニングツールであるSafetyPlusを活用し、受講や受講管理の効率化を図っている。  引き続き、院内施設の充実や、就労環境の向上に取り組んでいく。	・職員の就労環境の向上に向けた院内施設の充実に取り組んでいる。 ・第3期目標期間中には、総合病院でカフェ棟やレストラン棟を開業し、職員が気軽に休憩・交流できるスペースができたことで、職員の士気向上に寄与している。 ・施設整備だけでなく、院内保育所入所者向けのインフルエンザ予防接種の実施など、ソフト面での対応も行っており、今後も職員家族にも配慮した就労環境向上の取組が期待される。				74																																																																																																																												
			75	⑤院内保育の活用を図る。	総合・こども <table><tr><td colspan="2">保育所利用者数</td><td colspan="6">（単位：人）</td></tr><tr><td rowspan="2">区 分</td><td rowspan="2">定員</td><td colspan="6">平均利用者数</td></tr><tr><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>総合「おひさま」</td><td>100</td><td>75</td><td>65</td><td>65</td><td>70</td><td>60</td><td>57</td></tr><tr><td>こども「ことり」</td><td>80</td><td>16</td><td>17</td><td>19</td><td>32</td><td>32</td><td>30</td></tr><tr><td>計</td><td>180</td><td>91</td><td>82</td><td>84</td><td>102</td><td>92</td><td>87</td></tr></table>	保育所利用者数		（単位：人）						区 分	定員	平均利用者数						元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	総合「おひさま」	100	75	65	65	70	60	57	こども「ことり」	80	16	17	19	32	32	30	計	180	91	82	84	102	92	87	A	各病院の院内保育所では、育児をしながら勤務する医師や看護師の就労環境の向上のため、保育メニュー等の更なる充実に努めている。 総合病院では、二重保育や夜間保育、土日預かり等の多様なメニューを揃え、子育てしながら働きやすい環境を引き続き提供できている。幼保無償化の影響により入所者数が減少しているため、有期コメディカル・正規事務の入所を開始した。また、院内保育所利用者を対象としたインフルエンザ予防接種も実施している。 こども病院では、令和6年度は45人を上限に運用し、二重保育や病後児保育等の保育サービスに対応している。また、院内保育所の夜間保育を週2日から週3日へ対応出来るよう整備した。	・総合病院やこども病院の院内保育所は、二重保育や夜間保育、病後児保育などの新たな保育サービスに対応しており、入所基準を医師・看護師から正規事務職員や有期コメディカルに拡大するなど、子育て世代の職員の勤務環境向上が図られている。 ・利用者数が一定数に留まっており、増加に向けて、職員への広報や利用の働きかけなど、有効な活用に向けた取組が期待される。				75																																																																														
保育所利用者数		（単位：人）																																																																																																																																						
区 分	定員	平均利用者数																																																																																																																																						
		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																	
総合「おひさま」	100	75	65	65	70	60	57																																																																																																																																	
こども「ことり」	80	16	17	19	32	32	30																																																																																																																																	
計	180	91	82	84	102	92	87																																																																																																																																	



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.		
						本評価	説明							
3	医療に関する調査及び研究	3	医療に関する調査及び研究	3	医療に関する調査及び研究	—	—	—	—	—	—	—		
	医療や県民の健康寿命延伸に関する調査及び研究を行い、県立病院が提供する医療の高度化や本県の医療水準の向上、県民の健康寿命の延伸に寄与すること。	県内医療水準の向上と県民の健康寿命延伸に寄与するため、県立病院が有する医療資源の活用、院外への情報発信、他の機関との連携を図りながら、調査及び研究に取り組む。また、それらを円滑に進めるため、医療DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進・充実強化に努める。	県内の医療水準の向上と県民の健康寿命延伸に寄与するため、県立病院としての医療資源の活用、院外への情報発信、他機関との連携等により調査・研究に取り組む。	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
1)	研究機能の強化	(1) 研究機能の強化	(1)	研究機能の強化	—	—	—	—	—	—	—	—		
	各病院において、臨床医学や県が推進する社会健康医学などの研究を推進し、新しい医療を創出する研究に取り組むほか、医療ビッグデータを活用した疫学、ゲノム研究、乳幼児難聴の音声言語獲得に係る研究などの社会健康医学研究を更に推進し、その研究成果の発信等により、県内医療水準の向上及び医療人材の確保・育成に努めること。さらに、産学官との連携による共同研究や治験に取り組むこと。	県立総合病院のリサーチサポートセンターを活用し、県立病院が臨床医学や県が推進する医療ビッグデータを活用した疫学、ゲノム研究及び乳幼児難聴の音声言語獲得に係る研究などの社会健康医学を幅広く推進する。新しい医療の創出を目指し、これら研究成果の発信や還元により、県内医療水準の向上及び医療人材の確保・育成に努める。また、治験や調査研究事業の推進に参画できるよう引き続き体制の整備を行い、県立大学等の研究機関との共同研究にも取り組む。	①各大学院や研究所等との連携を強化し、病院機構が行う特色ある研究の推進・発展 ②県立総合病院リサーチサポートセンターの臨床研究を行う環境整備及び研究支援体制の充実 ③静岡社会健康医学大学院大学と連携した、医療ビッグデータを活用した疫学、ゲノム研究及び乳幼児難聴の音声言語獲得に係る研究などの社会健康医学研究の充実・推進 ④聴覚障害児における言語獲得の研究実施と早期治療体制の構築 ⑤県立総合病院リサーチサポートセンターにおいて、静岡県からの受託研究として、「県民の健康寿命の更なる延伸」に向けた社会健康医学研究の実施 ⑥治験や調査研究事業に積極的に参画できる体制の整備・充実による受託件数の増加 ⑦県立大学等の研究機関との共同研究	76	総合	①②臨床研究や疫学研究の充実・研究員を確保し、円滑な運用を行う。 ③④⑤研究体制を充実させ、研究を円滑に行い、研究成果を体系的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ④聴覚障害児における言語獲得の研究支援について、外部機関との連携を推進する。 ④研究体制を充実させ、受託研究を円滑に行い、研究成果を体系的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ⑥研究資金となる奨学寄附金を受入れる。 ⑥研究支援室による臨床研究の支援を行う。 ⑦県立大学との共同研究を行う。	臨床研究数 (単位：件、％) 区 分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 毎年度目標 研究数 376 399 329 409 449 474 350以上 支援研究数 50 57 68 67 71 91 — 支援率 13.3 14.3 20.7 16.4 15.8 19.2 —  客員研究員受入状況 (単位：人) 区 分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 静岡県立大学 15 15 15 13 13 13 外部 22 25 16 16 15 21  奨学寄附金受入件数・金額 区分 寄附者 目的 金額(千円) 元年度 日本ベーマテリアル株式会社 糖尿病治療に関する研究 200 日本ベーマテリアル株式会社 呼吸器疾患における研究 200 合計 400 2年度 日本ベーマテリアル株式会社 糖尿病治療に関する研究 200 日本ベーマテリアル株式会社 呼吸器疾患における研究 200 アミカス・セラピューティクス株式会社 遺伝性疾患に関する研究支援 500 株式会社ジェーベン・ディジョン・エンジニアリング 整形外科疾患における研究 1,000 合計 1,900 3年度 日本ベーマテリアル株式会社 糖尿病治療に関する研究 200 日本ベーマテリアル株式会社 呼吸器疾患における研究 200 大正製薬株式会社 糖尿病疾患の治療に関する研究 300 合計 700 4年度 日本ベーマテリアル株式会社 糖尿病治療に関する研究 200 日本ベーマテリアル株式会社 呼吸器疾患における研究 100 京セラ株式会社 変形関節症に関する研究 1,500 第10回日本婦人科ロボット手術学会 産婦人科の診断治療に関する研究 500 合計 2,300 5年度 日本ベーマテリアル株式会社 糖尿病治療に関する研究 100 日本ベーマテリアル株式会社 呼吸器疾患における研究 100 バイタル株式会社 心臓血管外科における研究 100 京セラ株式会社 変形関節症に関する研究 1,500 合計 1,800 6年度 静岡インクレチン研究会 糖尿病治療に関する研究 1,402 株式会社APEX 心臓血管外科領域における研究 400 石川 優樹 免疫研究部における研究 1,500 合計 3,302  新生児聴覚スクリーニング件数 (単位：件) 区 分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 スクリーニング件数 541 567 549 488 471 439  人工内耳埋込術件数 (単位：件) 区 分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 件数 13 9 13 24 25 17	S	病院機構では、リサーチサポートセンターを活用した研究に取り組んでおり、文部科学省科学研究費についてはすべての診療部門が申請対象となっている。令和6年度における文部科学省科学研究費の応募状況は、応募件数5件で、総合病院採択分の過年度からの研究継続件数は4件、他施設分担研究の継続件数は3件、合計7件の研究を取り扱っている。 きこえとことばのセンター(静岡県乳幼児聴覚支援センター)では、乳幼児期の難聴や人工内耳の装用による脳の発達メカニズムに関する研究をNTTコミュニケーション科学基礎研究所と共同で実施している。並行して新生児聴覚スクリーニング検査をオンサイト入力することで、関係機関との情報共有を可能にし、難聴の早期発見、早期介入、その後の支援につなげるための一元化された情報管理システムを開発し、県下での導入を進めるなど、きこえとことばのセンターの事業について積極的に取り組んでいる。 また、令和6年度から本格的に開始された聴覚障害児療育体制整備においては、令和6年11月に静岡県、病院機構、そして聴覚障害児の音声言語獲得に高い実績を持つシェパードセンターの3者で、令和9年度まで、お互いに協力して聴覚障害児療育施設を病院機構内に整備することを目的とした協定書を締結。オーストラリア政府からの支援も受けつつ、シェパードセンターの持つ聴覚障害児療育プログラムを病院機構内の施設で実施するために、言語聴覚士への研修、施設整備等をオーストラリアの現地スタッフと協力して進めてきた。	・リサーチサポートセンターにおいては、社会健康医学研究の推進に貢献しており、社会健康医学大学院大学とも連携して、県民への成果還元を期待する。 ・客員研究員の受入れや機器整備などの研究体制強化の成果が現れており、令和6年度の臨床研究数は474件で、目標値及び昨年度を大きく上回った。 ・文部科学省科学研究費補助金の受入れが可能な研究機関としてリサーチサポートセンターを含む14部門が指定を受けており、令和6年度は5件応募、7件継続(他施設分担研究を含む)となっている。 ・意欲ある医師に対して研究や学術交流の機会を提供することで今後の医療水準の向上と、魅力的な臨床研究環境をPRすることによる医師確保への貢献が期待される。  ・きこえとことばのセンター(静岡県乳幼児聴覚支援センター)は、平成22年に県の委託により総合病院に設置し、聴覚異常の早期発見と早期治療に係る専門的支援を実施してきた。 ・令和6年度における新生児聴覚スクリーニング検査件数も前年度同水準を維持した。 ・一般に、聴覚異常は「早期発見」「早期治療(人工内耳装用)」・「その後の療養」により、音声言語の獲得が期待できるが、わが国における療養プログラムは確立しているとは言いがたい。 ・きこえとことばのセンターにおいては、聴覚障害児支援において先進的取組を行っているオーストラリアのシェパードセンターと連携し、わが国における療育プログラムの確立に向けたパイロットモデルの実施に向けて活動を行ってきた。 ・県は、機構とシェパードセンターとの連携のもと、令和7年度から、新たに全国モデルとなる静岡県型の療育体制の構築に向けたモデル事業の実施を計画している。 ・令和6年度において、機構では来年度のモデル事業の本格実施に向け、シェパードセンターの作成したスキルアップ研修の受講や、機器整備を行っている。 ・これらの取組による、今後の県民への成果還元が期待される。  (参考) ・先端医学棟5階に設置されたリサーチ サポートセンターでは、県民の健康に寄与する臨床や疫学研究を行っている。 ・遺伝子解析、統計解析、検体の収集・保存・解析、県民の疾病の分析などによる基礎的な研究から、県民の健康・福祉の向上への貢献をめざしている。	✓	✓	☆	76

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																				
						本評価	説明																																																																									
			77	⑤医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。	各病院 医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位：千円、件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>総 合</td><td>件 数 17</td><td>17</td><td>23</td><td>25</td><td>27</td><td>24</td></tr><tr><td></td><td>契約額 42,504</td><td>27,994</td><td>58,794</td><td>91,214</td><td>57,272</td><td>45,461</td></tr><tr><td>こころ</td><td>件 数 0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td></td><td>契約額 0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>子ども</td><td>件 数 35</td><td>23</td><td>37</td><td>58</td><td>58</td><td>51</td></tr><tr><td></td><td>契約額 29,479</td><td>12,041</td><td>20,531</td><td>14,282</td><td>12,143</td><td>3,901</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	総 合	件 数 17	17	23	25	27	24		契約額 42,504	27,994	58,794	91,214	57,272	45,461	こころ	件 数 0	0	0	0	0	0		契約額 0	0	0	0	0	0	子ども	件 数 35	23	37	58	58	51		契約額 29,479	12,041	20,531	14,282	12,143	3,901	A	令和6年度も、製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行っている。 製造販売後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。				77																				
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																										
総 合	件 数 17	17	23	25	27	24																																																																										
	契約額 42,504	27,994	58,794	91,214	57,272	45,461																																																																										
こころ	件 数 0	0	0	0	0	0																																																																										
	契約額 0	0	0	0	0	0																																																																										
子ども	件 数 35	23	37	58	58	51																																																																										
	契約額 29,479	12,041	20,531	14,282	12,143	3,901																																																																										
2) 診療等の情報の活用	(2) 診療等の情報の活用	(2) 診療等の情報の活用	-	-	-		-																																																																									
診療等を通じて得られる情報を県立病院で提供する医療の質の向上のために活用するとともに、他の医療機関へ情報提供すること。	電子カルテシステムの統合等による管理機能の充実を図り、科学的根拠を集積・分析し、カンファレンス、臨床研修、臨床研究等において活用し、医療の質の向上を図る。また、講習会、研究会等へ情報発信しやすい体制を整備する。	①診療情報等の分析のできるシステムの活用	78	①DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。	総合 DPCコーディング部会開催実績 (単位：回、人) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>開催回数</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>3</td></tr><tr><td>出席者数</td><td>25</td><td>33</td><td>27</td><td>23</td><td>23</td><td>16</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	開催回数	4	4	4	4	4	3	出席者数	25	33	27	23	23	16	A	DPCデータの分析結果を元に、医局会においてDPC入院期間Ⅱ以内の退院状況や副傷病名の付与率等を報告するとともに、DPCコーディング部会における議論等により平均在院日数の短縮やDPCコーディングの適正化に努めている。					78																																															
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																										
開催回数	4	4	4	4	4	3																																																																										
出席者数	25	33	27	23	23	16																																																																										
			79	①DPCの診療情報を分析し、診療ヘフィードバックを行う。また、職員の分析にかかるスキルアップに努める。	こころ DPCデータの分析結果を診療へ活かすとともに適切なコーディングを周知するため、DPC部会兼コード検討委員会を開催した。 DPC部会兼コード検討委員会開催実績 (単位：回、人) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>開催回数</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>出席者数</td><td>49</td><td>58</td><td>40</td><td>42</td><td>56</td><td>48</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	開催回数	4	4	4	4	4	4	出席者数	49	58	40	42	56	48	A	早期のデータ入力を継続して促し適切なコーディングを行うことで診療報酬を漏れなく請求している。					79																																															
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																										
開催回数	4	4	4	4	4	4																																																																										
出席者数	49	58	40	42	56	48																																																																										
4 医療に関する地域への支援	4 医療に関する地域への支援	4 医療に関する地域への支援	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																				
本県の地域医療の確保のため、県立病院がその支援に大きな役割を果たし、信頼され、必要とされる病院であり続けるよう努めること。	地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																				
1) 地域の医療機関等との連携・支援	(1) 地域の医療機関等との連携・支援	(1) 地域の医療機関等との連携・支援	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																				
医師派遣の拠点病院として、県医師確保計画の推進に協力し、医師不足の公的医療機関に対し医師派遣を行うとともに、地域医療連携推進法人制度の活用等による病院の機能分化・連携強化を進め、地域における質の高い医療の提供の推進に取り組むこと。また、他の医療機関から紹介された患者の受入れ及び患者に適した医療機関の紹介を積極的に行うこと。さらに、高度医療機器の共同利用の促進、ICTを活用した他の医療機関等との医療情報の共有など、地域医療の確保への支援を一層推進すること。	県が策定する医師確保計画の推進に協力する。 県立病院の医師の増員及び育成を図り、地域医療連携推進法人制度の活用等による地域医療を支える県内医療機関への医師派遣の充実など、病院の機能分化・連携強化を進め、地域における質の高い医療の提供の推進に取り組む。また、ICTを活用した医療連携、遠隔診断のネットワークづくりや、高度医療機器などの共同利用を推進し、県立病院の施設、設備や機能について地域への開放を進める。	①県内の医師確保・偏在解消等を県、浜松医科大学、静岡社会健康医学大学院大学等と連携して実施 ②県の医師派遣事業及び常勤医師の派遣への協力 ③地域医療連携推進法人制度の活用等による本県の医師確保、医師の人材育成、地域医療構想推進の支援及び病院の機能分化・連携強化 ④静岡市清水区の桜ヶ丘病院へ医師派遣等を行い清水区の病院医療の充実を支援 ⑤県内病院への常勤幹部医師の配置 ⑥専門医制度への対応 ⑦医療機器の共同利用の推進 ⑧ICT技術を活用した地域医療機関等との連携及び支援	80	①②⑤⑥県内の医師確保、偏在解消等を県、浜松医科大学、静岡社会健康医学大学院大学等と連携して実施するほか、地域医療支援病院としての使命を果たすため医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。 ③④⑦⑧地域医療連携推進法人制度を活用して、静岡市清水区の桜ヶ丘病院への医師派遣等を行い、県の地域医療構想を推進することにより、地域において質が高く効率的な医療提供体制を構築する。	本部（総務・経営）総合・こころ (総合) 医師定数（各年度4月1日現在） <table><tr><th>区 分</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>7年度</th></tr><tr><td>定数</td><td>314</td><td>320</td><td>317</td><td>317</td><td>313</td><td>342</td></tr></table> (総合) 医師派遣実績 (単位：機関、科、人) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td rowspan="3">総 合</td><td>医療機関等</td><td>9</td><td>9</td><td>6</td><td>9</td><td>10</td></tr><tr><td>診療科</td><td>11</td><td>11</td><td>11</td><td>9</td><td>10</td></tr><tr><td>延人員数</td><td>752</td><td>687</td><td>501</td><td>583</td><td>726</td></tr></table> (こども) 静岡市立静岡病院、焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、島田市立総合医療センター、中東連総合医療センター、県中西部発達障害者支援センター、静岡赤十字病院に医師を派遣している。また、県の実情に基づき、重症心身障害児施設つばさ静岡にも医師を派遣している。  医師派遣実績（公的病院等） (単位：機関、科、人) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>医療機関等</td><td>7</td><td>7</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td></tr><tr><td>診療科</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>延人員数</td><td>282</td><td>277</td><td>351</td><td>333</td><td>381</td><td>348</td></tr></table>	区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	定数	314	320	317	317	313	342	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	総 合	医療機関等	9	9	6	9	10	診療科	11	11	11	9	10	延人員数	752	687	501	583	726	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	医療機関等	7	7	8	8	8	8	診療科	2	3	3	3	3	3	延人員数	282	277	351	333	381	348	A	県立病院としての役割を果たすため、継続的に医師確保に努めている一方、医師不足が顕著な公的病院等については医師派遣を行った。 県内初の地域医療連携推進法人「ふじのくに社会健康医療連合」は、令和7年3月末現在、静岡県立病院機構3病院、地域医療機能推進機構清水さくら病院、静岡社会健康医学大学院大学、国立病院機構静岡医療センターの4法人、5病院と1大学院大学の6施設が参画している。 令和6年度は、昨年度から引き続き、総合病院から清水さくら病院に対して医師派遣を行ったほか、地域医療に貢献する志を持った医師の確保・育成を推進するため、静岡県、静岡社会健康医学大学院大学と連携し、県医学修学資金貸与医師の配置調整業務を実施した。  (総合) 医療機関等に対しては、桜ヶ丘病院、島田市立総合医療センター、富士宮市立病院、伊豆赤十字病院、佐久間病院、川根本町いやしの里診療所、つばさ静岡の計7箇所に医師派遣を行った。  (こども) 令和6年度、県内の8医療機関等に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援している。また、公的病院だけでなく、県の実情に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たしている。小児科医が不足する医療機関からの派遣要請には可能な限り対応していく必要があり、働き方改革への対応とのバランスをとりながらも要請には全て応えている。			✓	○	80
区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度																																																																										
定数	314	320	317	317	313	342																																																																										
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																										
総 合	医療機関等	9	9	6	9	10																																																																										
	診療科	11	11	11	9	10																																																																										
	延人員数	752	687	501	583	726																																																																										
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																										
医療機関等	7	7	8	8	8	8																																																																										
診療科	2	3	3	3	3	3																																																																										
延人員数	282	277	351	333	381	348																																																																										



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																												
						本評価	説明																																																	
			81	②小児1次救急医療への応援を行う。	静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣している。  医師派遣実績（急病センター）（単位：機関、科、人） <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>医療機関</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>診療科</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>延人員数</td><td>214</td><td>197</td><td>165</td><td>194</td><td>240</td><td>181</td></tr></table>  【参考】医師派遣実績計 <table><tr><td>区 分</td><td>医療機関</td><td>診療科</td><td>延人員数</td></tr><tr><td>公的病院</td><td>8</td><td>3</td><td>348</td></tr><tr><td>急病センター</td><td>2</td><td>2</td><td>181</td></tr><tr><td></td><td>10</td><td>※4</td><td>529</td></tr></table> ※重複のため計が一致しない	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	医療機関	2	2	2	2	2	2	診療科	2	2	2	2	2	2	延人員数	214	197	165	194	240	181	区 分	医療機関	診療科	延人員数	公的病院	8	3	348	急病センター	2	2	181		10	※4	529	A	令和6年度は、静岡市急病センター及び志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣し、地域の小児1次救急医療を支援している。小児1次救急医療の成立のため、派遣要請には可能な限り対応していく方針であり、働き方改革への対応とのバランスをとりながらも要請には全て応えている。	・小児一次救急医療支援として、継続的に医師派遣を行っている。 ・令和5年度から、小児二次救急医療機関における医師の負担軽減のため、小児救急リポート指導医相談支援事業を開始した。こども病院の指導医が、隣接する圏域の病院の若手医師に対して、遠隔で診療支援を行う県のモデル事業である。 ・地域医療を支える最後の砦としての役割を果たしているとともに、モデル事業であることから、今後の県内での展開拡大に向けた効果検証も必要である。	✓		○	81
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																		
医療機関	2	2	2	2	2	2																																																		
診療科	2	2	2	2	2	2																																																		
延人員数	214	197	165	194	240	181																																																		
区 分	医療機関	診療科	延人員数																																																					
公的病院	8	3	348																																																					
急病センター	2	2	181																																																					
	10	※4	529																																																					
			82	④静岡社会健康大学院大学と連携して、医師の配置調整など「ふじのくに地域医療支援センター」業務を支援する。	『ふじのくに地域医療支援センター』の機能の一部業務である「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金貸与者の勤務先病院の決定支援」の業務を受託し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。  配置調整医師数及び県内勤務開始者数（単位：名） <table><tr><td>勤務開始年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>配置調整医師数</td><td>76</td><td>108</td><td>125</td><td>160</td><td>163</td><td>181</td></tr><tr><td>うち県内勤務医師数</td><td>47</td><td>71</td><td>83</td><td>107</td><td>108</td><td>110</td></tr></table> ※配置調整は各前年度となる。	勤務開始年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	配置調整医師数	76	108	125	160	163	181	うち県内勤務医師数	47	71	83	107	108	110	A	静岡社会健康大学院大学と連携して、県の医師確保施策に寄与できるよう努めた。	ふじのくに地域医療支援センターの一部機能として、県内病院における専門医制度に関する支援と、県医学修学研修資金貸与者の勤務先決定に関する支援について、県から受託しており、静岡社会健康医学大学院大学と連携して配置調整を行っている。	✓		○	82																							
勤務開始年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																		
配置調整医師数	76	108	125	160	163	181																																																		
うち県内勤務医師数	47	71	83	107	108	110																																																		
			83	⑥専攻医を受け入れる体制を整備し、専攻医の募集を行う。	(総合) 全19領域中12領域においてプログラムを実施し、令和6年度は21名、令和7年度は20名が当院の専門研修プログラムに所属し研修を開始した。 当院ホームページにプログラム説明動画を公開のうえ専門研修プログラムの魅力を発信した。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めた。  (こころ) 病院見学の受入を積極的に行い、専攻医の確保に努めている。  (こども) 平成29年度から新制度に準じて実施された小児科専門医制度の基幹研修施設として、新制度に則った研修を実施しており、令和6年度は10名が本研修に取り組んでいる。	A	(総合) 19領域中12領域の専攻医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力が伝わるような募集を行った。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めた。  (こころ) 令和6年度は10名の専攻医を受け入れ、病院見学は6名を受け入れた。  (こども) 小児科専攻医研修の基幹研修施設として、県中東部の連携施設10病院と作成した日本小児科学会の承認を受けたプログラムをもとに指導を行い、令和6年度は10名が本研修に取り組んでいる。	・新専門医制度の開始以降、各病院で研修プログラムを作成し受入体制を整備するとともに、院内外研修医・学生に向けたプログラム説明動画の作成など、積極的なPR活動を通じて、専攻医の確保に努めている。 ・各病院の研修プログラムにおいては、充実した医療施設・設備のもと、専門医・指導医による指導体制を構築するなど、充実を図っている。 ・地域の連携病院との協力のもと、専攻医にとって魅力的な指導体制と研修プログラムを確保し、積極的な採用活動のもと、地域医療にも貢献する専攻医を安定的に確保できるよう努めることが期待される。	✓		○	83																																												
			84	⑦地域の医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用件数の向上を図る。	地域における医療機器の効率的な活用のため、CT・MRIの共同利用に取り組んでおり、地域医療の支援に貢献している。市内他施設における機器整備が進められており、共同利用件数も令和2年度を底に持ち直している。  C T、M R I 共同利用（単位：件） <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>C T</td><td>881</td><td>659</td><td>722</td><td>733</td><td>617</td><td>516</td></tr><tr><td>M R I</td><td>595</td><td>472</td><td>517</td><td>522</td><td>516</td><td>541</td></tr><tr><td>CT(撮影のみ)</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>MRI(撮影のみ)</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>18</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	C T	881	659	722	733	617	516	M R I	595	472	517	522	516	541	CT(撮影のみ)	0	0	0	0	0	0	MRI(撮影のみ)	1	0	0	18	0	0	A	CT・MRI共同利用件数については、年間100件以上依頼のあった診療所にてCTの導入と新規医師採用があったため減少しているが、それ以外の施設からは例年通りの件数依頼を受けており、地域医療に貢献している。	・CT・MRIの共同利用件数は市内他病院の機器整備が進んだ影響を受けつつも、一定程度の件数を維持しており、地域医療を支援する役割を果たしている。				84									
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																		
C T	881	659	722	733	617	516																																																		
M R I	595	472	517	522	516	541																																																		
CT(撮影のみ)	0	0	0	0	0	0																																																		
MRI(撮影のみ)	1	0	0	18	0	0																																																		

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																													
						本評価	説明																																																		
			85	総合	<p>・令和2年3月からは、地域医療情報連携ネットワークにおける同意取得方法に関する厚生労働省通知を受け、患者への参加同意取得手続等の運用の見直しを進めるなど、ふじのくにねっと参加施設の利便性に貢献した。令和4年度以降は協議会の会長を中東達総合医療センターから選出して運営を継続している。</p> <p>・令和5年度以降、ふじのくにねっと参加施設数が減少しているため、令和6年度には、県医師会経由で県東部の病院に開示施設用説明資料を送付するなど、ふじのくにねっと協議会への参加に向けた広報に力を入れている。</p>	A	<p>ネットワーク全体で病病・病診連携における積極開示をルール化することを理事会で方針として採択し、先進事例の共有等の取組を推進している。</p> <p>令和6年度には、参照施設として参加した病院が2施設、診療所が1施設あった。また、開示施設としての参加を検討している病院が1施設ある。令和7年度には、システム更新を予定している開示施設が2施設あり、ふじのくにねっとの継続的な利用が推進されている。</p>	<p>・総合病院においては、県内各医療圏の地域性や医療機関の特性に幅広く対応する地域医療情報連携ネットワークの効果的な運用体制を引き続き確保するとともに、参画医療機関に対する適切な運用支援等が期待される。</p> <p>(参考) ・「ふじのくにねっと」とは、ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会において、県内各医療施設間で患者・診療情報を共有するためのICTネットワーク基盤を構築し、病診連携・病病連携を始め、薬局や訪問看護等の関連施設との情報共有の利便性向上と効率化・迅速化を図り医療提供体制を強化するものである。</p>				85																																													
			86	こども	<p>小児医療ネットワークを通じて、浜松医科大学等との合同カンファレンスやマレーシア国立循環器病センター(IJN)との接続試験を兼ねた症例検討会を実施している。また、他医療機関(4施設)と連携し、心エコー画像遠隔診断を実施している。</p> <p>心エコー画像遠隔診断実績 (単位: 件)</p> <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>症例数</td><td>3</td><td>0</td><td>2</td><td>5</td><td>7</td><td>4</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	症例数	3	0	2	5	7	4	A	<p>小児循環器科専門医研修施設として、浜松医科大学等との映像情報を通じたカンファレンスを実施している。また、マレーシア国立循環器病センターともカンファレンスを実施している。</p> <p>令和6年度は、連携医療機関との心エコー画像遠隔診断を4件実施し、医療機関からの相談について映像情報を活用して対応した。</p>	<p>・心エコー遠隔診断については、順天堂静岡病院、富士宮市立病院、沼津市立病院、藤枝市立総合病院を連携機関として実施しており、令和6年度は4件実施している。また、各医療機関からの相談に応じるなど、ICT技術を通じた、こども病院における高度専門医療技術・知見の地域等への還元に努めている。</p>				86																															
			区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																
症例数	3	0	2	5	7	4																																																			
2)	社会的な要請への協力及び知識や技術の普及	社会的な要請への協力及び知識や技術の普及	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																													
	社会的な要請への協力及び知識や技術の普及	社会的な要請への協力及び知識や技術の普及	87	総合	<p>①院内外の研修会等を定期的に開催し、地域の医療機関へ情報提供する。</p> <p>拡大がんキャンサーボード実績</p> <table><tr><td>区分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>回数(回)</td><td>5</td><td>3</td><td>2</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td rowspan="3">参加人数(人)</td><td>院内</td><td>178</td><td>73</td><td>78</td><td>101</td><td>106</td><td>132</td></tr><tr><td>院外</td><td>108</td><td>49</td><td>36</td><td>49</td><td>25</td><td>15</td></tr><tr><td>合計</td><td>286</td><td>122</td><td>114</td><td>150</td><td>131</td><td>147</td></tr></table>	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	回数(回)	5	3	2	4	4	4	参加人数(人)	院内	178	73	78	101	106	132	院外	108	49	36	49	25	15	合計	286	122	114	150	131	147	A	<p>がん診療部主催の拡大がんキャンサーボード(多職種カンファレンス)では、がん症例の診断や治療方法等について、院内外の多職種による包括的な議論が行われている。</p> <p>令和6年度も、前年度と同程度開催した。</p>	<p>・多職種の医療チームが参加してがんの症例検討を行う「拡大がんキャンサーボード」、他団体等主体の講演会への講師派遣、医療観察法に基づく鑑定対応、子どもの心の診療ネットワーク事業における静岡県県の拠点病院としての診療支援・研修事業など、地域の医療従事者の養成への貢献や県立病院としての社会的役割に応じた取組が行われており、病院機構の有する高度・専門医療の技術や知見が積極的に地域に共有・還元されている。</p>				87									
			区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																
			回数(回)	5	3	2	4	4	4																																																
			参加人数(人)	院内	178	73	78	101	106	132																																															
				院外	108	49	36	49	25	15																																															
合計	286	122		114	150	131	147																																																		
88	総合	<p>①他団体の講師派遣依頼に協力する。</p> <p>講師派遣実績 (単位: 件)</p> <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>医師</td><td>56</td><td>58</td><td>43</td><td>51</td><td>63</td><td>81</td></tr><tr><td>その他</td><td>38</td><td>34</td><td>21</td><td>41</td><td>44</td><td>43</td></tr><tr><td>計</td><td>94</td><td>92</td><td>64</td><td>92</td><td>107</td><td>124</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	医師	56	58	43	51	63	81	その他	38	34	21	41	44	43	計	94	92	64	92	107	124	A	<p>他団体等が主催する講演会の講師として、医師や認定看護師を派遣しており、令和6年度も、令和5年度に引き続き、積極的に実施している。</p>	<p>・講師派遣依頼に対し、機構として適切に対応している。</p>				88																				
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																			
医師	56	58	43	51	63	81																																																			
その他	38	34	21	41	44	43																																																			
計	94	92	64	92	107	124																																																			
89	こども	<p>①②他団体等が主催する講習会、研究会、学会への講師派遣を推進する。</p> <p>院外講演会講師派遣状況(医師) (単位: 回)</p> <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>派遣回数</td><td>22</td><td>4</td><td>9</td><td>23</td><td>21</td><td>6</td></tr></table> <p>院外講演会講師派遣状況(看護師) (単位: 回)</p> <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>派遣回数</td><td>33</td><td>17</td><td>30</td><td>37</td><td>25</td><td>17</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	派遣回数	22	4	9	23	21	6	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	派遣回数	33	17	30	37	25	17	A	<p>他団体等が主催する講演会の講師やアドバイザーとして医師や看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行っている。派遣実績は前年度並みとなっている。</p>	<p>・講師派遣依頼に対し、機構として適切に対応している。</p>				89																				
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																			
派遣回数	22	4	9	23	21	6																																																			
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																			
派遣回数	33	17	30	37	25	17																																																			
90	こども	<p>①医療にかかる鑑定等の要請への協力など積極的に対応する。</p> <p>医療観察法による鑑定入院受入実績 (単位: 件)</p> <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>こころ</td><td>5</td><td>10</td><td>8</td><td>5</td><td>7</td><td>5</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	こころ	5	10	8	5	7	5	A	<p>医療観察法に係る鑑定入院の受入について、積極的に協力し令和6年度は5件の実績となった。</p>	<p>・医療観察法による鑑定入院受入件数は、令和6年度は5件の受入れを行っており、社会的要請に機構として適切に対応している。</p>	✓		○	90																																		
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																			
こころ	5	10	8	5	7	5																																																			
91	こども	<p>①特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するため、講座や相談会などを継続的に開催する。</p> <p>精神保健講座等開催実績</p> <table><tr><td>区分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td rowspan="2">対象</td><td>県内小中学校教諭 こども・家族 校教諭</td><td>県内小中学校教諭 こども・家族 校教諭</td><td>県内小中学校教諭 こども・家族 校教諭</td><td>県内小中学校教諭 こども・家族 校教諭</td><td>県内小中学校教諭 こども・家族 校教諭</td><td>県内小中学校教諭 こども・家族 校教諭</td></tr><tr><td>5回 96人</td><td>11回 11施設</td><td>2回 49人</td><td>11施設 140人</td><td>10施設 75人</td><td>11施設 131人</td></tr></table> <p>医療機関に対する相談・助言件数 (単位: 件)</p> <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>件 数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>82</td><td>61</td><td>70</td></tr></table> <p>教育研修の実施回数 (単位: 件)</p> <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>実施回数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>5</td><td>8</td><td>7</td></tr></table>	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	対象	県内小中学校教諭 こども・家族 校教諭	県内小中学校教諭 こども・家族 校教諭	県内小中学校教諭 こども・家族 校教諭	県内小中学校教諭 こども・家族 校教諭	県内小中学校教諭 こども・家族 校教諭	県内小中学校教諭 こども・家族 校教諭	5回 96人	11回 11施設	2回 49人	11施設 140人	10施設 75人	11施設 131人	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	件 数	-	-	-	82	61	70	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	実施回数	-	-	-	5	8	7	A	<p>厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参加している。こころの診療科では教師を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を定期的に行い、教育機関や福祉機関との連携を強化している。</p> <p>令和4年度から受託している静岡県の児童虐待早期発見医療体制整備事業について、育児環境支援室を中心に、令和6年度も責務を果たすべく取り組んだ。医療機関向け窓口への相談に対応したり、児童虐待が疑われる事例に対する緊急子育て支援対策委員会を開催し、必要と判断した場合には児童相談所への通告を行ったりすることを通して、体制整備を推進している。また、令和6年度も子ども虐待対応研修を実施しており、県内総合病院を訪問しての医療従事者向けの研修、MSWを対象にした研修などを行った。</p>	<p>・こども病院においては、児童虐待早期発見医療体制整備事業を県から受託し、令和6年度は相談及び助言を70件行っている。</p> <p>(参考) ・小児救急医療現場における虐待が疑われる子供の受診が一定数あるなかで、医療機関における知識や経験、組織的対応の不足により、十分な対応ができていないという課題がある。 ・こども病院においては、令和4年度に、虐待が疑われる事案に対する医療機関からの相談を受け付ける、児童虐待早期発見医療体制整備事業を県から受託し、地域全体での児童虐待防止体制の構築に向けて取り組んでいる。</p>				91
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																			
対象	県内小中学校教諭 こども・家族 校教諭	県内小中学校教諭 こども・家族 校教諭	県内小中学校教諭 こども・家族 校教諭	県内小中学校教諭 こども・家族 校教諭	県内小中学校教諭 こども・家族 校教諭	県内小中学校教諭 こども・家族 校教諭																																																			
	5回 96人	11回 11施設	2回 49人	11施設 140人	10施設 75人	11施設 131人																																																			
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																			
件 数	-	-	-	82	61	70																																																			
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																			
実施回数	-	-	-	5	8	7																																																			



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																																																																																				
						本評価	説明																																																																																																																																									
			92	①小児慢性特定疾患治療研究事業や障害者総合支援法、児童福祉法、精神保健福祉法等の公費負担医療を実施する。	公費負担患者状況 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>小児慢性</td><td>1,771</td><td>1,691</td><td>1,674</td><td>1,571</td><td>1,565</td><td>1,530</td></tr><tr><td>育成医療</td><td>55</td><td>36</td><td>20</td><td>10</td><td>6</td><td>3</td></tr><tr><td>養育医療</td><td>182</td><td>190</td><td>195</td><td>165</td><td>169</td><td>171</td></tr><tr><td>特定疾患</td><td>7</td><td>6</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td></tr><tr><td>特定疾病</td><td>100</td><td>92</td><td>115</td><td>124</td><td>147</td><td>169</td></tr><tr><td>生活保護</td><td>182</td><td>181</td><td>188</td><td>185</td><td>193</td><td>183</td></tr><tr><td>精神保健</td><td>69</td><td>52</td><td>50</td><td>32</td><td>29</td><td>35</td></tr><tr><td>その他</td><td>146</td><td>204</td><td>751</td><td>1,207</td><td>245</td><td>140</td></tr><tr><td>計</td><td>2,512</td><td>2,452</td><td>3,002</td><td>3,002</td><td>3,304</td><td>2,243</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	小児慢性	1,771	1,691	1,674	1,571	1,565	1,530	育成医療	55	36	20	10	6	3	養育医療	182	190	195	165	169	171	特定疾患	7	6	9	10	11	12	特定疾病	100	92	115	124	147	169	生活保護	182	181	188	185	193	183	精神保健	69	52	50	32	29	35	その他	146	204	751	1,207	245	140	計	2,512	2,452	3,002	3,002	3,304	2,243	A	公費負担医療を提供するためには、本人による申請が必要となることから、証明書・診断書の発行など公費適用患者の利便性を重視して対応している。	・医療費助成制度(公費負担)においては、患者が自己負担額の助成を受けるため、医療機関受診後に自治体に対して申請を要する。 ・患者家族の手続き上の負担や心情に配慮し、パンフレット等を用いて丁寧な対応を行っている。				92																																																														
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																										
小児慢性	1,771	1,691	1,674	1,571	1,565	1,530																																																																																																																																										
育成医療	55	36	20	10	6	3																																																																																																																																										
養育医療	182	190	195	165	169	171																																																																																																																																										
特定疾患	7	6	9	10	11	12																																																																																																																																										
特定疾病	100	92	115	124	147	169																																																																																																																																										
生活保護	182	181	188	185	193	183																																																																																																																																										
精神保健	69	52	50	32	29	35																																																																																																																																										
その他	146	204	751	1,207	245	140																																																																																																																																										
計	2,512	2,452	3,002	3,002	3,304	2,243																																																																																																																																										
			93	①研究雑費や研究旅費等の予算化等により学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持する。	海外研修の実績 (単位:人) <table><tr><th>区 分</th><th>R元</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>計</th></tr><tr><td>人 数</td><td>55</td><td>0</td><td>0</td><td>29</td><td>30</td><td>61</td><td>175</td></tr></table> 学会発表実績(国内外) (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>件 数</td><td>547</td><td>51</td><td>102</td><td>352</td><td>463</td><td>468</td></tr></table> こころ 学会発表実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>12</td><td>4</td><td>6</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr></table> こども 学会発表実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>448</td><td>141</td><td>245</td><td>316</td><td>330</td><td>365</td></tr></table>	区 分	R元	R2	R3	R4	R5	R6	計	人 数	55	0	0	29	30	61	175	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	件 数	547	51	102	352	463	468	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	件数	12	4	6	6	7	8	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	件数	448	141	245	316	330	365	A	医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会等へ参加できる体制を確保している。 令和6年度の学会発表実績は、昨年度と同水準で維持している。 医師や研修医などの医療スタッフが国内外の学会や研修会等へ参加できる体制を引き続き確保していく。	・研究研修費を確保することにより、新技術・知識習得のための各種研修会・講習会への参加、情報収集のための各種図書購入等を推進している。 ・研修会等の参加者が得た知識をもとに、院内・院外の研修で講師を務めて研修成果の伝達を行うなど工夫している。 ・第3期中期目標期間では、新型コロナウイルス感染症の影響により、学会等の開催数が減少していた期間もあったが、令和6年度においては件数も回復傾向にある。引き続き学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持していくことが期待される。				93																																																																										
区 分	R元	R2	R3	R4	R5	R6	計																																																																																																																																									
人 数	55	0	0	29	30	61	175																																																																																																																																									
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																										
件 数	547	51	102	352	463	468																																																																																																																																										
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																										
件数	12	4	6	6	7	8																																																																																																																																										
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																										
件数	448	141	245	316	330	365																																																																																																																																										
			94	③院内における資格取得を支援し、活用を促進する。 ④No.66 ⑤【子】県から受託している児童虐待早期発見医療体制整備事業を推進するため、相談窓口の設置や教育研修など地域の医療機関を支援する。	資格等取得助成制度利用者 (単位:人) <table><tr><th colspan="2"></th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th></tr><tr><td rowspan="4">総合</td><td>看護師</td><td>0</td><td>9</td><td>10</td><td>13</td><td>12</td><td>15</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>9</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>事務</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>0</td><td>10</td><td>13</td><td>22</td><td>17</td><td>20</td></tr><tr><td rowspan="4">こころ</td><td>看護師</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>事務</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>8</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td rowspan="4">こども</td><td>看護師</td><td>6</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>5</td><td>2</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>事務</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>10</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>5</td></tr><tr><td>本部</td><td>事務</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td rowspan="4">計</td><td>看護師</td><td>8</td><td>12</td><td>13</td><td>15</td><td>18</td><td>18</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>9</td><td>1</td><td>1</td><td>11</td><td>6</td><td>7</td></tr><tr><td>事務</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>18</td><td>13</td><td>16</td><td>26</td><td>24</td><td>26</td></tr></table>			元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	総合	看護師	0	9	10	13	12	15	コメディカル	0	1	1	9	5	5	事務	0	0	2	0	0	0	計	0	10	13	22	17	20	こころ	看護師	2	1	1	0	1	1	コメディカル	5	0	0	0	0	0	事務	1	0	0	0	0	0	計	8	1	1	0	1	1	こども	看護師	6	2	2	2	5	2	コメディカル	4	0	0	2	1	2	事務	0	0	0	0	0	1	計	10	2	2	4	6	5	本部	事務	0	0	0	0	0	0	計	看護師	8	12	13	15	18	18	コメディカル	9	1	1	11	6	7	事務	1	0	2	0	0	1	計	18	13	16	26	24	26	A	平成24年度以降、資格等取得助成制度により資格取得を支援している。 これまで、毎年度一定数の利用者があり、令和6年度については認定一般検査技師等で26人が利用した。 意欲ある職員の資質向上に資することが出来ている。	・毎年度一定数の職員に利用されており、制度として有効に活用されている。  (参考) ・資格等助成制度は、看護師、コメディカル、事務職員が、診療情報管理士資格等の新たな免許・資格等の積極的取得促進のために、原則として3万円を上限として、支給する助成金である。				94
		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																									
総合	看護師	0	9	10	13	12	15																																																																																																																																									
	コメディカル	0	1	1	9	5	5																																																																																																																																									
	事務	0	0	2	0	0	0																																																																																																																																									
	計	0	10	13	22	17	20																																																																																																																																									
こころ	看護師	2	1	1	0	1	1																																																																																																																																									
	コメディカル	5	0	0	0	0	0																																																																																																																																									
	事務	1	0	0	0	0	0																																																																																																																																									
	計	8	1	1	0	1	1																																																																																																																																									
こども	看護師	6	2	2	2	5	2																																																																																																																																									
	コメディカル	4	0	0	2	1	2																																																																																																																																									
	事務	0	0	0	0	0	1																																																																																																																																									
	計	10	2	2	4	6	5																																																																																																																																									
本部	事務	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																									
計	看護師	8	12	13	15	18	18																																																																																																																																									
	コメディカル	9	1	1	11	6	7																																																																																																																																									
	事務	1	0	2	0	0	1																																																																																																																																									
	計	18	13	16	26	24	26																																																																																																																																									

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
						本評価	説明																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
3) 県民への情報提供の充実	(3) 県民への情報提供の充実	(3) 県民への情報提供の充実	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
公開講座や医療相談の開催、ホームページの活用などを通じて県民へ情報発信し、県民の健康意識の高揚に努めること。	定期的に公開講座、医療相談会等を開催し、ホームページ等で健康管理・増進などについての情報を提供するなど、様々な方法で県民への情報提供を進め県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実に努める。	①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供 ③報道機関等への情報発信	95	①県民向け・医療機関向けの公開講座等を開催する。	特色を活かした公開講座等を企画、開催している。  公開講座 (単位：件、人) <table><tr><th>病院</th><th>区分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>毎年度目標</th></tr><tr><td rowspan="2">総合</td><td>県民向け</td><td>実施件数</td><td>9</td><td>3</td><td>5</td><td>7</td><td>27</td><td>22</td></tr><tr><td>参加者</td><td>349</td><td>125</td><td>104</td><td>176</td><td>649</td><td>410</td><td>実施件数 35件以上</td></tr><tr><td rowspan="2">医療機関向け</td><td>実施件数</td><td>27</td><td>10</td><td>9</td><td>21</td><td>27</td><td>26</td><td></td></tr><tr><td>参加者</td><td>1,441</td><td>371</td><td>379</td><td>1,083</td><td>1,461</td><td>1,486</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">こころ</td><td>県民向け</td><td>実施件数</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>2</td><td>14</td><td rowspan="2">実施件数 7件以上</td></tr><tr><td>参加者</td><td>21</td><td>0</td><td>0</td><td>7</td><td>23</td><td>202</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">医療機関向け</td><td>実施件数</td><td>8</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>参加者</td><td>115</td><td>20</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>31</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="3">こども</td><td>県民向け</td><td>実施件数</td><td>6</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>10</td><td rowspan="3">実施件数 20件以上</td></tr><tr><td>参加者</td><td>188</td><td>20</td><td>127</td><td>125</td><td>173</td><td>307</td><td></td></tr><tr><td>医療機関向け</td><td>実施件数</td><td>6</td><td>10</td><td>15</td><td>12</td><td>18</td><td>18</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	病院	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	総合	県民向け	実施件数	9	3	5	7	27	22	参加者	349	125	104	176	649	410	実施件数 35件以上	医療機関向け	実施件数	27	10	9	21	27	26		参加者	1,441	371	379	1,083	1,461	1,486		こころ	県民向け	実施件数	2	0	0	2	2	14	実施件数 7件以上	参加者	21	0	0	7	23	202		医療機関向け	実施件数	8	3	0	0	0	1			参加者	115	20	0	0	0	31			こども	県民向け	実施件数	6	1	3	3	4	10	実施件数 20件以上	参加者	188	20	127	125	173	307		医療機関向け	実施件数	6	10	15	12	18	18																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
						病院	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
						総合	県民向け	実施件数	9	3	5	7	27	22																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
							参加者	349	125	104	176	649	410	実施件数 35件以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
医療機関向け	実施件数	27	10	9	21	27	26																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	参加者	1,441	371	379	1,083	1,461	1,486																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
こころ	県民向け	実施件数	2	0	0	2	2	14	実施件数 7件以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	参加者	21	0	0	7	23	202																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
医療機関向け	実施件数	8	3	0	0	0	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	参加者	115	20	0	0	0	31																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
こども	県民向け	実施件数	6	1	3	3	4	10	実施件数 20件以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	参加者	188	20	127	125	173	307																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	医療機関向け	実施件数	6	10	15	12	18	18																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.		
						本評価	説明							
1) 医療救護活動の拠点機能	(1) 医療救護活動の拠点機能	(1) 医療救護活動の拠点機能	-	-	-		-							
災害等における本県の医療救護活動の拠点機能を担うこと。特に、県立総合病院は基幹災害拠点病院として、県立こころの医療センターは基幹災害拠点精神科病院として、県内の災害時医療の中心的役割を果たすことのできるよう機能強化を図ること。あわせて、国の原子力災害対策指針に基づく新たな原子力災害医療体制の整備に努めること。また、県立こども病院は災害時における小児医療分野の中心的役割を果たすよう、日頃から備えること。	県立総合病院は基幹災害拠点病院及び原子力災害拠点病院として、県立こころの医療センターは基幹災害拠点精神科病院としての体制を整備し、日頃から実践的な災害医療訓練を定期的に開催するなど、医療救護活動の拠点となる病院としての機能を維持向上し、災害等の発生時には重篤患者の受入れ、県内外のDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)との連携など求められる機能を発揮する。県立こども病院は小児医療分野で中心的役割を果たすことができるよう体制整備に取り組む。	①基幹災害拠点病院(小児分野を含む)等として、災害時の医療救護活動の拠点機能を担う ②災害時における精神医療分野の基幹災害拠点病院として、中心的な役割を担う	-	-	①災害医療訓練を実施する。 ①災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い発災時に迅速な対応ができるようにする。 ①[心]・災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の精神分野の災害時医療に対応する。 ①[子]・災害時における小児医療の拠点としての院内体制の整備に努める。 ②[心]・一時避難所機能等災害時における精神医療分野の拠点病院としての役割を担うための訓練を実施する。	元年度 令元.6.20 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加 令元.7.3 院内セッションに対し、大規模地震等の取扱講習を実施(静岡県職員を中心に約100人参加) 令元.7.11 静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加 令元.11.2~3 静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施 令元.12.1 県立総合病院防災訓練 令2.1.26 静岡県DMATロジスティックス研修を県立総合病院にて実施 令2.7.10 静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加 令2.7.16 静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施 令3.7.7 大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(宮城県) (DMAT隊員1名) 令3.10.30 静岡DMAT看護師研修を県立総合病院で実施 令3.11.27 院内防災訓練実施(参加者46名) 令4.3.18 静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施 令4.7.7・13 新規採用者及び転入者を対象に消火訓練及び避難訓練を実施(約100人参加) 令4.7.13 静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加 令4.7.30 第1回静岡DMAT看護師研修をオンライン開催(受講者17名) 令4.9.30・10.1 大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(DMAT隊員26名、他職員15名) 令4.12.4 院内防災訓練実施(参加者61名) 令4.12.10・11 静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催(受講者45名) 令4.12.15 第2回静岡DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催(受講者15名) 令5.2.4 静岡県原子力災害医療訓練に参加(10名) 令5.2.19 静岡DMATロジスティック研修を県立総合病院にて開催(受講者21名) 令5.2.23 第3回静岡DMAT看護師研修を磐田市立総合病院にて開催(受講者17名)	A	情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、基幹災害拠点病院の役割を果たすべく各種訓練(政府訓練・総合防災訓練・静岡空港航空機事故対応訓練・中部ブロック実働訓練)に参加及び研修を企画、実施している。 静岡DMAT-L隊員養成研修や静岡DMAT看護師研修を実施し、県下のDMAT隊員を増加させ、災害に備えている。静岡DMAT看護師研修を年3回実施し、東部、中部、西部で各1回ずつ実施することにより、県下のDMAT隊員が参加しやすくなっている。静岡DMAT看護師部会を通じて各課題の検討や意見交換をする等、基幹災害拠点病院として、県全体の連携向上に努めている。 また、能登半島地震の課題を踏まえて、静岡医療圏活動拠点本部として機能できるように、訓練、物品の準備等を行った。 原子力災害拠点病院としての役割を果たすため、放射線部を中心に設備・備品の整備・更新を進めている。 引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。	・総合病院は基幹災害拠点病院として、こころの医療センターは災害拠点精神科病院として、こども病院は災害時における小児の拠点病院として、災害医療訓練の継続的な実施、国・県等が実施する訓練への参加、災害対応マニュアルの整備等、県民の安全・安心を守る医療救護活動の拠点としての体制整備と取組の充実が図られている。	✓				
			99 ~ 101		令和3年2月に県内初となる災害拠点精神科病院の指定を受けている。大規模災害等における本県の精神分野における中核的拠点として災害時医療に対応できるよう、各種訓練を実施したほか、災害発生時には要請に応じてDPAT隊を派遣できる体制を維持している。	元年度 令元.7.11 県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練に参加 令元.8.23 院内防災訓練(初期消火・避難誘導訓練)を実施 令元.8.26 県総合防災訓練(新年度訓練)におけるEMIS情報伝達訓練に参加 令元.9.1 静岡県、三島市、島田町との合同総合防災訓練におけるDPAT派遣訓練に参加 令元.9.7 政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加 令元.11.25 院内防災訓練(初期消火・避難誘導訓練、災害対策本部設置)を実施 令元.12.18 静岡県国民保護共同実働訓練(小山町)に参加 令2.1.17 県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練に参加 令2.7.16 県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加 令2.8.31 院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施 令2.10.26 院内防災訓練(第1回) 令3.1.25 院内防災訓練(第2回) 令3.7.7 県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加 令3.8.30 院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施 令3.11.29 院内防災訓練 令4.1.17 県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加 令4.1.31 院内防災訓練(第2回)	A	総合防災訓練や内閣府による大規模地震時医療活動訓練等に参加し、発災時においてスムーズなDPAT活動が実施できるよう、県や市町等との連携を確認した。 能登半島地震の経験を踏まえ、ロジスティック要因を充実させるため事務職員2名をDPAT隊員養成研修に参加させ、先遣隊だけでなく病院全体で災害医療に対応できる体制の強化を図った。 全国各地で大雨による被害が増加しているため、院内で防災訓練・洪水避難訓練を実施した。	○				99 ~ 101	
					新採職員向け消火避難訓練を実施した。 また、総合防災訓練及び夜間想定防火避難誘導訓練に向けた準備を実施した。	令4.7.13 県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加 令4.9.4 静岡県、島田町、牧之原市、京町町、川島市合同総合防災訓練におけるDPAT派遣訓練に参加 令4.9.5 院内防災訓練 令4.10.1 政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加 令4.11.28 院内防災訓練(第2回) 令5.1.17 県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加 令5.7.7 県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加 令5.8.22 県総合防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加 令5.9.3 静岡市・浜松市・湖西市総合防災訓練(DPAT訓練)参加 令5.9.4 院内防災訓練(第1回)、安否情報確認メール送受信訓練の実施 令5.9.30 政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加 令5.12.7 院内防災訓練(第2回)、安否情報確認メール送受信訓練の実施 令6.6.26~7.5 健康福祉部EMIS入力訓練参加 令6.8.1~8 県総合防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加 令6.8.22 県総合防災訓練(図上訓練)参加 令6.9.2 第1回院内防災訓練・洪水避難訓練実施 令6.9.28 政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加 令6.11.25 第2回院内防災訓練・安否情報確認メール送受信訓練実施 令7.1.10~16 県大規模図上訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加	A	8月に実施した新採職員向け消火避難訓練では、消化器や消火栓を用いての初期消火訓練、病棟患者を想定した模擬患者の避難誘導及び避難訓練は、令和5年度に購入したエアーストレッチャーを用いて行った。 また、10月に実施予定の総合防災訓練では、平日昼間の発災直後を想定した初動チェック訓練、ベッドコントロール訓練、災害医療ゾーン立ち上げ訓練、災害トイレ設置訓練を行った。令和7年2月に実施の夜間想定防火避難誘導訓練は、院長代行や管理師長をはじめとした限られた人的資源で安全な避難経路を設定する訓練を行った。	✓					



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																																										
						本評価	説明																																																																																															
2) 他県等の医療救護への協力  他県等の大規模災害等においても、災害医療チームを派遣するなど、積極的に医療救護に協力すること。	(2) 他県等の医療救護への協力  災害時医療救護派遣マニュアルに基づき、速やかに医療チームを派遣できるように定期的な要員訓練や、マニュアルの点検を行う。	(2) 他県等の医療救護への協力  ①災害発生初期におけるDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施 ②日本小児総合医療施設協議会の広域災害時相互支援協定に基づく災害時情報共有サイトの活用	-	-	-	<table><tr><td rowspan="10">元年度</td><td>令元.6.20</td><td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加</td></tr><tr><td>令元.7.3</td><td>院内各セッションに対し、消防機関等の施設講習を実施(新規採用職員を中心約100人参加)</td></tr><tr><td>令元.7.11</td><td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td></tr><tr><td>令元.11.2~3</td><td>静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施</td></tr><tr><td>令元.12.1</td><td>県立総合病院防災訓練</td></tr><tr><td>令2.1.26</td><td>静岡DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施</td></tr><tr><td>令2.7.10</td><td>院内各セッションに対し、消防機関等の施設講習を実施(新規採用職員を中心約100人参加)</td></tr><tr><td>令2.7.16</td><td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td></tr><tr><td>令2.9.17</td><td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施</td></tr><tr><td>令3.7.7</td><td>院内各セッションに対し、消防機関等の施設講習を実施(新規採用職員を中心約100人参加)</td></tr><tr><td rowspan="4">2年度</td><td>令3.10.30</td><td>大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(宮城県)(DMAT隊員1名)</td></tr><tr><td>令3.11.27</td><td>静岡DMAT看護師研修を県立総合病院で実施</td></tr><tr><td>令3.12.5</td><td>院内防災訓練実施(参加者46名)</td></tr><tr><td>令4.3.18</td><td>静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施</td></tr><tr><td rowspan="10">3年度</td><td>令4.7.7・13</td><td>新規採用者及び転入者を対象に消火訓練及び避難訓練を実施(約100人参加)</td></tr><tr><td>令4.7.13</td><td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td></tr><tr><td>令4.7.30</td><td>第1回静岡DMAT看護師研修をオンライン開催(受講者17名)</td></tr><tr><td>令4.9.30・10.1</td><td>大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(DMAT隊員:26名、他職員15名)</td></tr><tr><td>令4.12.4</td><td>院内防災訓練実施(参加者61名)</td></tr><tr><td>令4.12.10・11</td><td>静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催(受講者45名)</td></tr><tr><td>令4.12.15</td><td>第2回静岡DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催(受講者15名)</td></tr><tr><td>令5.2.4</td><td>静岡県県原子力災害医療訓練に参加(10名)</td></tr><tr><td>令5.2.19</td><td>静岡DMATロジスティック研修を県立総合病院にて開催(受講者21名)</td></tr><tr><td>令5.2.23</td><td>第3回静岡DMAT看護師研修を磐田市立総合病院にて開催(受講者17名)</td></tr><tr><td rowspan="5">4年度</td><td>令5.6.18</td><td>第1回静岡DMAT看護師研修(西部)を開催(受講者17名)</td></tr><tr><td>令5.7.7・13</td><td>新規採用者及び転入者を対象に消火訓練及び避難訓練を実施(約100人参加)</td></tr><tr><td>令5.9.30</td><td>大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(香川県)(DMAT隊員2名)</td></tr><tr><td>令5.10.28~29</td><td>静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施</td></tr><tr><td>令5.12.17</td><td>第2回静岡DMAT看護師研修(東部)を開催(受講者16名)</td></tr><tr><td rowspan="10">5年度</td><td>令6.3.2</td><td>第3回静岡DMAT看護師研修(中部)を開催(受講者25名)</td></tr><tr><td>令6.7.2・10</td><td>新規採用者及び転入者を対象に消火訓練及び避難訓練を実施(約86人参加)</td></tr><tr><td>令6.7.13</td><td>第1回静岡DMAT看護師研修(東部)を開催(受講者27名)</td></tr><tr><td>令6.9.28</td><td>大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(DMAT隊員6名)</td></tr><tr><td>令6.10.17</td><td>静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施</td></tr><tr><td>令6.10.26</td><td>静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催(受講者56名)</td></tr><tr><td>令6.11.10</td><td>第2回静岡DMAT看護師研修(中部)を開催(受講者16名)</td></tr><tr><td>令6.12.1</td><td>県立総合病院院内防災訓練(約130名参加)</td></tr><tr><td>令7.1.16</td><td>静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施</td></tr><tr><td>令7.2.3</td><td>静岡県県原子力災害医療訓練に参加(13名)</td></tr><tr><td rowspan="4">6年度</td><td>令7.2.16</td><td>静岡DMATロジスティック研修を県立総合病院にて開催(受講者19名)</td></tr><tr><td>令7.3.11</td><td>夜間想定避難訓練(約60名参加)</td></tr><tr><td>令7.3.2</td><td>第3回静岡DMAT看護師研修(西部)を聖隷浜松病院にて開催(受講者12名)</td></tr></table>	元年度	令元.6.20	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加	令元.7.3	院内各セッションに対し、消防機関等の施設講習を実施(新規採用職員を中心約100人参加)	令元.7.11	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令元.11.2~3	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施	令元.12.1	県立総合病院防災訓練	令2.1.26	静岡DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施	令2.7.10	院内各セッションに対し、消防機関等の施設講習を実施(新規採用職員を中心約100人参加)	令2.7.16	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令2.9.17	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施	令3.7.7	院内各セッションに対し、消防機関等の施設講習を実施(新規採用職員を中心約100人参加)	2年度	令3.10.30	大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(宮城県)(DMAT隊員1名)	令3.11.27	静岡DMAT看護師研修を県立総合病院で実施	令3.12.5	院内防災訓練実施(参加者46名)	令4.3.18	静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施	3年度	令4.7.7・13	新規採用者及び転入者を対象に消火訓練及び避難訓練を実施(約100人参加)	令4.7.13	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令4.7.30	第1回静岡DMAT看護師研修をオンライン開催(受講者17名)	令4.9.30・10.1	大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(DMAT隊員:26名、他職員15名)	令4.12.4	院内防災訓練実施(参加者61名)	令4.12.10・11	静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催(受講者45名)	令4.12.15	第2回静岡DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催(受講者15名)	令5.2.4	静岡県県原子力災害医療訓練に参加(10名)	令5.2.19	静岡DMATロジスティック研修を県立総合病院にて開催(受講者21名)	令5.2.23	第3回静岡DMAT看護師研修を磐田市立総合病院にて開催(受講者17名)	4年度	令5.6.18	第1回静岡DMAT看護師研修(西部)を開催(受講者17名)	令5.7.7・13	新規採用者及び転入者を対象に消火訓練及び避難訓練を実施(約100人参加)	令5.9.30	大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(香川県)(DMAT隊員2名)	令5.10.28~29	静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施	令5.12.17	第2回静岡DMAT看護師研修(東部)を開催(受講者16名)	5年度	令6.3.2	第3回静岡DMAT看護師研修(中部)を開催(受講者25名)	令6.7.2・10	新規採用者及び転入者を対象に消火訓練及び避難訓練を実施(約86人参加)	令6.7.13	第1回静岡DMAT看護師研修(東部)を開催(受講者27名)	令6.9.28	大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(DMAT隊員6名)	令6.10.17	静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施	令6.10.26	静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催(受講者56名)	令6.11.10	第2回静岡DMAT看護師研修(中部)を開催(受講者16名)	令6.12.1	県立総合病院院内防災訓練(約130名参加)	令7.1.16	静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施	令7.2.3	静岡県県原子力災害医療訓練に参加(13名)	6年度	令7.2.16	静岡DMATロジスティック研修を県立総合病院にて開催(受講者19名)	令7.3.11	夜間想定避難訓練(約60名参加)	令7.3.2	第3回静岡DMAT看護師研修(西部)を聖隷浜松病院にて開催(受講者12名)	A	(総合) 令和6年度は、総合防災訓練や各ブロック訓練に通常開催され、DMAT隊員が参加している。富士山静岡空港の訓練や緊急消防援助隊の合同訓練にも参加した。 また、県総合防災訓練では、能登半島地震の課題を踏まえて、静岡医療圏活動拠点本部を静岡県立総合病院に設置して訓練を行った。 首都圏で実施された大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)では、6名のDMAT隊員が参加した。 厚生労働省と米国保健省との申合せに基づく「日米DMAT大規模地震時医療活動連携訓練」が全国で初めて静岡県で実施され、令和7年2月26日、27日の2日間、富士山静岡空港において米国DMATとの連携訓練に参加した。  (こころ) 令和6年度の派遣実績は無いが、政府訓練や県総合防災訓練にDPAT隊員が参加した。  (こども) 小児医療総合施設協議会における情報共有サイトは令和5年度末に開設され、現在、全国の39小児医療施設が参加している。令和6年度から登録が始まり、現在各施設が詳細情報を入力中である。今後、各会員施設が災害発生時に、速やかに当サイトにより情報共有のための災害情報を入力し、会員施設間で患児のバックトランスファーを実施する等、可能な範囲で相互に支援し合う予定である。	・令和6年度は、県外での災害発生に伴うDMAT・DPAT等の派遣要請はなかった。 ・災害発生に備え、DMAT・DPATによる県防災訓練や政府訓練等への参加や、災害時の情報共有システムへの参加などを通じ、災害対応の基幹的役割を果たしている。	✓	○	102
元年度	令元.6.20	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加																																																																																																				
	令元.7.3	院内各セッションに対し、消防機関等の施設講習を実施(新規採用職員を中心約100人参加)																																																																																																				
	令元.7.11	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加																																																																																																				
	令元.11.2~3	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施																																																																																																				
	令元.12.1	県立総合病院防災訓練																																																																																																				
	令2.1.26	静岡DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施																																																																																																				
	令2.7.10	院内各セッションに対し、消防機関等の施設講習を実施(新規採用職員を中心約100人参加)																																																																																																				
	令2.7.16	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加																																																																																																				
	令2.9.17	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施																																																																																																				
	令3.7.7	院内各セッションに対し、消防機関等の施設講習を実施(新規採用職員を中心約100人参加)																																																																																																				
2年度	令3.10.30	大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(宮城県)(DMAT隊員1名)																																																																																																				
	令3.11.27	静岡DMAT看護師研修を県立総合病院で実施																																																																																																				
	令3.12.5	院内防災訓練実施(参加者46名)																																																																																																				
	令4.3.18	静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施																																																																																																				
3年度	令4.7.7・13	新規採用者及び転入者を対象に消火訓練及び避難訓練を実施(約100人参加)																																																																																																				
	令4.7.13	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加																																																																																																				
	令4.7.30	第1回静岡DMAT看護師研修をオンライン開催(受講者17名)																																																																																																				
	令4.9.30・10.1	大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(DMAT隊員:26名、他職員15名)																																																																																																				
	令4.12.4	院内防災訓練実施(参加者61名)																																																																																																				
	令4.12.10・11	静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催(受講者45名)																																																																																																				
	令4.12.15	第2回静岡DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催(受講者15名)																																																																																																				
	令5.2.4	静岡県県原子力災害医療訓練に参加(10名)																																																																																																				
	令5.2.19	静岡DMATロジスティック研修を県立総合病院にて開催(受講者21名)																																																																																																				
	令5.2.23	第3回静岡DMAT看護師研修を磐田市立総合病院にて開催(受講者17名)																																																																																																				
4年度	令5.6.18	第1回静岡DMAT看護師研修(西部)を開催(受講者17名)																																																																																																				
	令5.7.7・13	新規採用者及び転入者を対象に消火訓練及び避難訓練を実施(約100人参加)																																																																																																				
	令5.9.30	大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(香川県)(DMAT隊員2名)																																																																																																				
	令5.10.28~29	静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施																																																																																																				
	令5.12.17	第2回静岡DMAT看護師研修(東部)を開催(受講者16名)																																																																																																				
5年度	令6.3.2	第3回静岡DMAT看護師研修(中部)を開催(受講者25名)																																																																																																				
	令6.7.2・10	新規採用者及び転入者を対象に消火訓練及び避難訓練を実施(約86人参加)																																																																																																				
	令6.7.13	第1回静岡DMAT看護師研修(東部)を開催(受講者27名)																																																																																																				
	令6.9.28	大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(DMAT隊員6名)																																																																																																				
	令6.10.17	静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施																																																																																																				
	令6.10.26	静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催(受講者56名)																																																																																																				
	令6.11.10	第2回静岡DMAT看護師研修(中部)を開催(受講者16名)																																																																																																				
	令6.12.1	県立総合病院院内防災訓練(約130名参加)																																																																																																				
	令7.1.16	静岡DMAT衛星通信訓練を企画・実施																																																																																																				
	令7.2.3	静岡県県原子力災害医療訓練に参加(13名)																																																																																																				
6年度	令7.2.16	静岡DMATロジスティック研修を県立総合病院にて開催(受講者19名)																																																																																																				
	令7.3.11	夜間想定避難訓練(約60名参加)																																																																																																				
	令7.3.2	第3回静岡DMAT看護師研修(西部)を聖隷浜松病院にて開催(受講者12名)																																																																																																				
	・小児医療総合施設協議会における情報共有サイトの活用状況 情報共有サイトは令和5年度末に開設、令和6年度から各施設の情報入力が始まった DMAT訓練回数(単位:回)																																																																																																					
<table><tr><td>区分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>訓練</td><td>8</td><td>1</td><td>4</td><td>9</td><td>8</td><td>10</td></tr></table>													区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	訓練	8	1	4	9	8	10																																																																												
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																
訓練	8	1	4	9	8	10																																																																																																
DPAT派遣実績																																																																																																						
<table><tr><td rowspan="3">元年度</td><td>令元.9.10~12</td><td>台風15号で被災した千歳駅に派遣、主に千歳駅内、周辺まで活動。</td><td rowspan="3">4年度</td><td rowspan="3">活動実績なし</td></tr><tr><td>令和元.10.13</td><td>台風19号への対応に係る県警香根福祉課対策本部支援</td></tr><tr><td>令2.2.3~5</td><td>新型コロナウイルス感染症に係る派遣(県立病院本部、松原市役所、松原市役所)</td></tr><tr><td rowspan="2">2年度</td><td>令2.2.10~15</td><td>新型コロナウイルス感染症に係る派遣(伊豆市消防本部、アムールズ)</td><td rowspan="2">5年度</td><td rowspan="2">令6.1.4~8 能登半島地震に伴う派遣(能登医療圏DPAT活動拠点本部) 令6.1.18~22 能登半島地震に伴う派遣(DPAT輪島指振所)</td></tr><tr><td>令2.12.9</td><td>台風22号(フェリス台風)に伴う派遣(伊豆市消防本部)</td></tr><tr><td rowspan="2">3年度</td><td>令3.7.3</td><td>熱海市土石流災害に伴う静岡消防派遣(熱海消防所)</td><td rowspan="2">6年度</td><td rowspan="2">派遣実績なし</td></tr><tr><td>令4.1.27</td><td>新型コロナウイルス感染症に係る派遣(県立松崎病院)</td></tr></table>													元年度	令元.9.10~12	台風15号で被災した千歳駅に派遣、主に千歳駅内、周辺まで活動。	4年度	活動実績なし	令和元.10.13	台風19号への対応に係る県警香根福祉課対策本部支援	令2.2.3~5	新型コロナウイルス感染症に係る派遣(県立病院本部、松原市役所、松原市役所)	2年度	令2.2.10~15	新型コロナウイルス感染症に係る派遣(伊豆市消防本部、アムールズ)	5年度	令6.1.4~8 能登半島地震に伴う派遣(能登医療圏DPAT活動拠点本部) 令6.1.18~22 能登半島地震に伴う派遣(DPAT輪島指振所)	令2.12.9	台風22号(フェリス台風)に伴う派遣(伊豆市消防本部)	3年度	令3.7.3	熱海市土石流災害に伴う静岡消防派遣(熱海消防所)	6年度	派遣実績なし	令4.1.27	新型コロナウイルス感染症に係る派遣(県立松崎病院)																																																																			
元年度	令元.9.10~12	台風15号で被災した千歳駅に派遣、主に千歳駅内、周辺まで活動。	4年度	活動実績なし																																																																																																		
	令和元.10.13	台風19号への対応に係る県警香根福祉課対策本部支援																																																																																																				
	令2.2.3~5	新型コロナウイルス感染症に係る派遣(県立病院本部、松原市役所、松原市役所)																																																																																																				
2年度	令2.2.10~15	新型コロナウイルス感染症に係る派遣(伊豆市消防本部、アムールズ)	5年度	令6.1.4~8 能登半島地震に伴う派遣(能登医療圏DPAT活動拠点本部) 令6.1.18~22 能登半島地震に伴う派遣(DPAT輪島指振所)																																																																																																		
	令2.12.9	台風22号(フェリス台風)に伴う派遣(伊豆市消防本部)																																																																																																				
3年度	令3.7.3	熱海市土石流災害に伴う静岡消防派遣(熱海消防所)	6年度	派遣実績なし																																																																																																		
	令4.1.27	新型コロナウイルス感染症に係る派遣(県立松崎病院)																																																																																																				

・小児医療総合施設協議会における情報共有サイトの活用状況  
情報共有サイトは令和5年度末に開設、令和6年度から各施設の情報入力が始まった  
DMAT訓練回数 (単位:回)

区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
訓練	8	1	4	9	8	10

DPAT派遣実績					
元年度	令和9.10~12	活動が予定されていたが、活動が中止となった。	4年度	活動実績なし	
	令和元.10.13	活動が予定されていたが、活動が中止となった。			
2年度	令和2.3~5	活動が予定されていたが、活動が中止となった。	5年度	活動実績なし	
	令和2.10~15	活動が予定されていたが、活動が中止となった。			
3年度	令和2.12.9	活動が予定されていたが、活動が中止となった。	6年度	活動実績なし	
	令和3.7.3	活動が予定されていたが、活動が中止となった。			
3年度	令和4.1.27	活動が予定されていたが、活動が中止となった。	6年度	活動実績なし	
	令和4.1.27	活動が予定されていたが、活動が中止となった。			

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.
						本評価	説明					
第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項	第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
医療の質の向上を目指して、地方独立行政法人制度の特徴を最大限に活かし、一層効果的・効率的な業務運営に努め、生産性の向上を図ること。	業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるほか、業務改善への職員の意欲を高め、効果的で効率的な業務運営の実現を図る。	業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 効率的な業務運営体制の強化	1 効率的な業務運営体制の強化	1 効率的な業務運営体制の強化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
医療を取り巻く環境の変化とそのスピードに迅速かつ的確に対応するため、医療資源の有効活用や業務の見直し、職員参加型の業務改善等を推進し、業務運営体制の強化を図ること。特に、非稼働病床については、将来の医療需要等を見据え、その活用方法について検討すること。	物価高騰をはじめとする経済状況や医療環境の変化、また、県民の医療需要に的確に対応し最適な医療を提供するため、弾力的な人的資源の配置や医療資源の活用など効果的、効率的な病院運営に努める。 経営状況の把握や経営情報の共有及び的確な予算措置を行うなど、職員の経営意識の醸成を図る。 県立病院の病床については、非稼働病床を含め、将来の社会経済情勢や地域医療の状況を見据えた最適な方法での配置や活用を図る。 業務の改善改革への取組を奨励し、その活動を積極的に評価し、職員の意見が反映されやすい風通しの良い組織運営を進めるなど、職員の意欲が高い活気に溢れた病院づくりに取り組む。	①物価高騰をはじめとする経済状況や医療環境の変化などに対応するため、意思決定の迅速化・情報の共有化等を行い、機動的に法人を運営 ②医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制への反映 ③病院の運営方針・状況に応じた効率的な施設運用を行うための施設設置・修繕計画の策定・実施 ④小児医療を取り巻く環境の変化等を踏まえ、県立こども病院の今後の在り方について検討 ⑤公平・公正な人事評価制度の実施 ⑥柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた効率的な人材の適時採用 ⑦看護師確保のため、看護師修学資金の活用推進や広報活動など多様かつ多角的な確保対策の実施 ⑧経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 ⑨経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上 ⑩業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化	103	①②組織の効率化、各種権限の病院長への委任により事務のスピード化を図る。 ①②理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を毎月開催(8月を除く)し、法人の運営情報の共有化を図るとともに、予算の補正等の緊急な課題に対する即時的な対応を行う。 ③劣化改修工事により、病院機能の強化を図るとともに、基幹災害拠点病院としてふさわしい耐震性能を確保する。 ④【子】県を含め、周産期医療をはじめとする今後のこども病院のあり方を検討するほか、病棟再編検討会(WG)を実施し、具体的な計画を立てる。	理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を8月を除く原則毎月開催し、意思決定の迅速化に努めた。 人事評価制度については、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に令和2年度から給与(勤勉手当)への活用を開始しており、令和3年度の評価から昇給へ活用が開始されている。	元年度 年度末における第Ⅰ期リニューアル工事進捗率 91.8% 令和2年2月 第Ⅱ期リニューアル工事の入札実施、業者決定 2年度 令和3年7月 第Ⅰ期リニューアル工事完了、8月より第Ⅱ期リニューアル工事着工 年度末における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 38.7% 3年度 令和3年11月 内視鏡室改修完了 令和4年2月 渡り廊下増築工事完了 令和4年2月 第Ⅱ期リニューアル工事完了 4年度 令和5年2月 精神科病棟改修工事完了 令和5年3月 本館非常用発電機更新工事着工 5年度 令和6年3月 劣化改修工事設計完了 令和6年3月 R5劣化改修工事(緊急分)完了 6年度 令和6年6月 結核モデル病棟等改修工事設計業務委託着手 令和6年8月 R6劣化改修工事(建築、機械設備)着工 令和7年3月 本館非常用発電機更新工事完了 病棟再編検討会(WG)開催数 (こども病院) (単位:回) 区分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 開催件数 - - 11 5 4 1 ※令和4年度、病棟運営WGに改称	A	令和5年度については、理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を原則毎月開催し、機構内での情報の共有化、緊急案件についての対応が問題なく行われた。 医師確保を図るため、令和3年4月に職務に応じた適切な給与制度を構築(級別標準職務表の見直し)した。これにより、医師の確保だけでなく、「職務の級」が役職による職責に応じて適用されることで、能力や意欲の高い職員が上位の職位に登用されることとなり、職員の能力や意欲の向上につながっている。また、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に令和2年度から給与(勤勉手当)に活用、令和3年度の評価から昇給に活用を開始した。(令和4年度前期、後期の評価を令和6年1月1日昇給に活用) 総合病院では、令和5年度から劣化度が高いものから順に劣化改修工事を実施している。令和6年度は、外壁防水改修、医療ガス施設更新、空調改修、排水メイン配管改修及び病棟ナースコール設置工事に着手しており、令和7年度に完成予定。 また、円滑な病院運営を目指し、医師の確保や定着に貢献する目的で設置されている安東医師公舎について、屋根及び外壁の改修工事を令和7年3月に着手しており、6月末に完成予定。	・医療を取り巻く環境の変化とそのスピードに迅速かつ的確に対応できるよう、毎月定例的に開催する理事会や運営会議、総務・経営担当課長会議等を通じて、各病院の月次の経営状況、各種規程の新設・改廃、予算・決算状況等について、意思決定と情報共有が図られ、効率的な組織運営が行われている。 ・小児医療においては、地域における小児科集約による医師負担増や、経営上の観点から、今後の小児医療のあり方は大きく変化していくことが懸念される。県で開催予定の「小児医療のあり方に関する専門委員会」の検討結果を踏まえにより分析を進める計画であるが、分析にあたっては、持続可能な運営を行っていくためにも、県立病院としての役割を果たすことができる医療の提供と財政の健全化の両立に向けて、様々な角度から検討を重ねることが期待される。 ・病棟再編等の大規模改修・整備については、令和6年度においては経営状況を鑑み、緊急度の高い劣化改修工事を実施するに留まった。	✓	○	103
		⑤全職員を対象とした人事評価制度を円滑に実施する。 ⑥優秀な職員を確保する仕組みを設け、効果的な採用を実施する。 ・職員の採用に対し、広報等様々な取組を行うことで、必要な職員数の確保に努める。 ⑥柔軟な採用試験の実施により、必要な人材の確保に努める。 ⑦パンフレット作成、ホームページへの情報掲載、就職セミナー等での周知を行う。 ・看護師修学資金制度の活用推進により、更なる看護師確保を目指す。	104	アソシエイト採用実績 (単位:人) 区分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 看護師 3 - 1 1 1 3 事務 10 3 8 1 2 - コメディカル 3 1 5 1 1 - 計 16 4 14 3 4 3 正規職員数の状況(各年度4月1日現在) (単位:人) 区分 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 7年度 本部 34 36 38 36 34 34 総合 1,317 1,331 1,359 1,380 1,400 1,431 こころ 175 174 176 182 187 184 こども 648 660 650 652 657 632 合計 2,174 2,201 2,223 2,250 2,278 2,281 看護師修学資金の状況 (単位:人) 区分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 決定 50 36 40 53 48 43 継続 147 128 104 89 89 103 取消 ▲7 ▲4 ▲5 ▲4 ▲4 ▲7 貸与計 190 160 139 138 133 145 採用 51 46 44 44 29 39 看護師募集における広域等の実施状況 ・人材広告業者の求人情報ウェブサイト、雑誌への求人情報掲載 ・県民により求人情報掲載 ・養成校への看護師募集ポスター掲示 看護学生向け就職説明会(令和7年度時点) (単位:人) 業者 区分 来場者数 訪問者数 ナース専科(静岡) - 88 ナースナビ(浜松) 236 55 マイナビ(静岡) 85 19 (沼津) 97 67 (静岡)夏開催 204 209 静岡県立大学 - 87 常葉大学 - 116 聖隷クリストファー大学 - 48 順天堂大学 - - 静岡市立看護専門学校 - 53 静岡県立看護専門学校 - 53 ※訪問者数は病院間の重複あり ホームページアクセス数 区分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度※ 6年度 アクセス数 年間 104,100 107,956 96,782 91,367 54,104 85,829 ※サイト側で集計方法変更があったため、令和4年度以前と比較ができない(集計は、7月～3月分) 柔軟な採用試験の実施状況 (単位:件) 区分 元年度 2年度 3年度 4年度 5年度 6年度 件数 7 9 6 9 12 8	A	令和6年度については、効果的な職員採用に繋げるため、看護師のアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。 また、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、修学資金貸与制度、養成校訪問に加えて、病院説明会、3病院見学ツアーなど様々な確保対策を進めた。 今後も職員確保に向けた取組を継続していく。	・Web説明会も含め各就職説明会や養成校訪問を行うほか、看護師修学資金制度の運用など、看護師確保に努めている。 ・ホームページ、広報誌、ラジオ、ポスター掲示等、各種広報媒体を通じた採用試験情報の周知にも積極的に取り組んでいる。 (参考) ・看護師修学資金は、機構への就職を希望する看護学生の資質の向上に資することを目的に月5万円を貸与する制度であり、就職期間に相当する額の返還が免除される。 ・安定した制度運用を継続しており、将来、地域医療を支える高い意欲を持つ看護師の継続的な確保に寄与している。			104		

33



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																																								
						本評価	説明																																																																																													
			105	⑧月次決算の集計等により、病院の経営状況の早期把握を図る。	本部（経営） 理事会等における月次決算の報告回数（単位：回） <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>回数</td><td>6</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>8</td><td>6</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	回数	6	10	10	10	8	6	A	理事会開催の度に月次決算の報告を実施し、病院の経営状況の早期把握及び機構内の情報共有を円滑に行うことができた。				105																																																																											
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																														
回数	6	10	10	10	8	6																																																																																														
			106	⑧⑨毎月の理事会や病院幹部会議において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。 ⑧機構の直近の経営状況を職員（特に病院の幹部職員、県からの新しい派遣職員や新規採用職員）に認識させるため、会議や研修、広報誌等を通じて周知徹底する。	各病院（企画・経営） 理事会や運営会議において、毎月の月次決算により経営状況を分析し、報告を行っている。 また、3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に定期的に報告し、周知を図っている。 職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図っている。 院内コミュニケーションシステムや職員報（トライアングル等）を通じて、理事会資料等の経営情報を全職員に向け提供し、意識醸成を図っている。 上記取り組みを継続して行い、経営情報の把握や適時適切な措置を講じられる体制整備を図っている。	A	月次決算等により、経営状況の報告・分析を着実に進めている。 また、会議や職員報を通じた経営分析結果の職員への周知、理事長、副理事長自らによる研修等により、職員の経営に対する意識啓発を図っている。				106																																																																																									
	【目標値】 ・業務改善運動推進制度実績件数（総合、こころ、こども、本部）	【目標値】 ・業務改善運動推進制度実績件数（総合、こころ、こども、本部）	107	⑩院内コミュニケーションシステムを活用するなどして、職員が経営・業務改善を常時提案できる体制を整備する。	各病院（企画） 業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備に努めた。また、他職員の改善提案を確認できるよう仕組みを整備している。 業務改善運動推進制度実績件数（単位：件） <table><tr><td>区分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td><td>毎年度目標</td></tr><tr><td>総 合</td><td>113</td><td>27</td><td>164</td><td>95</td><td>98</td><td>115</td><td>95件以上</td></tr><tr><td>こころ</td><td>32</td><td>4</td><td>53</td><td>36</td><td>37</td><td>35</td><td>35件以上</td></tr><tr><td>こども</td><td>50</td><td>29</td><td>38</td><td>75</td><td>72</td><td>79</td><td>65件以上</td></tr><tr><td>本 部</td><td>8</td><td>8</td><td>21</td><td>20</td><td>20</td><td>17</td><td>15件以上</td></tr><tr><td>計</td><td>203</td><td>68</td><td>276</td><td>226</td><td>227</td><td>246</td><td>－</td></tr></table>	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標	総 合	113	27	164	95	98	115	95件以上	こころ	32	4	53	36	37	35	35件以上	こども	50	29	38	75	72	79	65件以上	本 部	8	8	21	20	20	17	15件以上	計	203	68	276	226	227	246	－	A	令和6年度については、各病院・所属で取組を実施しており、優れた取組については、ホームページやマスコミを活用し、他の医療機関に広く周知を図っている。	✓	✓	○	107																																									
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	毎年度目標																																																																																													
総 合	113	27	164	95	98	115	95件以上																																																																																													
こころ	32	4	53	36	37	35	35件以上																																																																																													
こども	50	29	38	75	72	79	65件以上																																																																																													
本 部	8	8	21	20	20	17	15件以上																																																																																													
計	203	68	276	226	227	246	－																																																																																													
2 事務部門の専門性の向上	2 事務部門の専門性の向上	2 事務部門の専門性の向上	108	経営管理機能を強化するため、引き続き法人固有の事務職員を採用して業務量に応じた柔軟な職員配置に努め、専門性を十分に発揮できるよう体制を整備する。また、急速な経営環境の変化にも迅速に対応できるように病院運営や医療事務等に精通した人材の確保にも努める。 ①階層や職務に応じた効果的な研修の実施、学会発表等への事務職員の参加など ②異動方針の弾力的運用及び各部署におけるOJT(on-the-job training)をはじめとする人材の育成・研修の推進 ③診療情報管理機能の強化	本部（総務） 事務職員に対する研修状況 <table><tr><td>受講時期</td><td>研修名</td><td>開催状況</td></tr><tr><td>新採年度</td><td>新規採用職員研修</td><td>5月・6月 2日間</td></tr><tr><td rowspan="2">係長級昇任時</td><td>新規役付職員研修</td><td>5月 3時間</td></tr><tr><td>新任監督者研修</td><td>5月 1日間</td></tr><tr><td rowspan="2">管理者</td><td>労務管理者研修</td><td>5月 1.5時間</td></tr><tr><td>コーチング講座</td><td>12月 1日間</td></tr><tr><td rowspan="8">希望により任意参加</td><td>コミュニケーション・ティーチング講座</td><td>9月 1日間</td></tr><tr><td>ファシリテーション講座</td><td>9月 1日間</td></tr><tr><td>メンタルサポート講座</td><td>11月 4時間</td></tr><tr><td>接遇・クレーム応対講座</td><td>8月 4時間</td></tr><tr><td>事務職員基礎研修</td><td>4月 0.5時間</td></tr><tr><td>内部統制講座（会計実務編）</td><td>4月 2時間</td></tr><tr><td>内部統制講座（簿記・財務諸表編）</td><td>10月 3時間</td></tr><tr><td>医療保険制度・診療報酬基礎講座</td><td>8月 3時間</td></tr></table>	受講時期	研修名	開催状況	新採年度	新規採用職員研修	5月・6月 2日間	係長級昇任時	新規役付職員研修	5月 3時間	新任監督者研修	5月 1日間	管理者	労務管理者研修	5月 1.5時間	コーチング講座	12月 1日間	希望により任意参加	コミュニケーション・ティーチング講座	9月 1日間	ファシリテーション講座	9月 1日間	メンタルサポート講座	11月 4時間	接遇・クレーム応対講座	8月 4時間	事務職員基礎研修	4月 0.5時間	内部統制講座（会計実務編）	4月 2時間	内部統制講座（簿記・財務諸表編）	10月 3時間	医療保険制度・診療報酬基礎講座	8月 3時間	A	階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施している。				108																																																								
受講時期	研修名	開催状況																																																																																																		
新採年度	新規採用職員研修	5月・6月 2日間																																																																																																		
係長級昇任時	新規役付職員研修	5月 3時間																																																																																																		
	新任監督者研修	5月 1日間																																																																																																		
管理者	労務管理者研修	5月 1.5時間																																																																																																		
	コーチング講座	12月 1日間																																																																																																		
希望により任意参加	コミュニケーション・ティーチング講座	9月 1日間																																																																																																		
	ファシリテーション講座	9月 1日間																																																																																																		
	メンタルサポート講座	11月 4時間																																																																																																		
	接遇・クレーム応対講座	8月 4時間																																																																																																		
	事務職員基礎研修	4月 0.5時間																																																																																																		
	内部統制講座（会計実務編）	4月 2時間																																																																																																		
	内部統制講座（簿記・財務諸表編）	10月 3時間																																																																																																		
	医療保険制度・診療報酬基礎講座	8月 3時間																																																																																																		
		109	③診療情報管理業務に専門的に携わることができる知識・技能を有する職員を育成する。	本部・各病院（総務） 診療情報管理士資格取得状況（単位：人） <table><tr><td rowspan="2">区 分</td><td colspan="2">元年度</td><td colspan="2">2年度</td><td colspan="2">3年度</td><td colspan="2">4年度</td><td colspan="2">5年度</td><td colspan="2">6年度</td></tr><tr><td>資格取得者</td><td>専門課程修了者</td><td>資格取得者</td><td>専門課程修了者</td><td>資格取得者</td><td>専門課程修了者</td><td>資格取得者</td><td>専門課程修了者</td><td>資格取得者</td><td>専門課程修了者</td><td>資格取得者</td><td>専門課程修了者</td></tr><tr><td>総 合</td><td>7</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>7</td><td>7</td><td>7</td><td>7</td></tr><tr><td>こころ</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>こども</td><td>3</td><td>3</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td><td>7</td><td>7</td><td>6</td><td>6</td></tr><tr><td>本 部</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>計</td><td>13</td><td>14</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>16</td><td>16</td></tr></table> ※ 専門課程修了者：資格試験受験資格を有する者	区 分	元年度		2年度		3年度		4年度		5年度		6年度		資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	総 合	7	9	9	9	9	9	9	9	7	7	7	7	こころ	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	こども	3	3	5	5	5	5	5	5	7	7	6	6	本 部	1	0	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	計	13	14	17	17	17	17	17	17	17	17	16	16	A	令和6年度については、診療情報管理機能の強化をするため、引き続き診療情報管理士資格の取得支援制度を活用するなど、必要な資格者を育成するとともに、適切な人員配置を行った。				109
区 分	元年度		2年度			3年度		4年度		5年度		6年度																																																																																								
	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者																																																																																								
総 合	7	9	9	9	9	9	9	9	7	7	7	7																																																																																								
こころ	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1																																																																																								
こども	3	3	5	5	5	5	5	5	7	7	6	6																																																																																								
本 部	1	0	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2																																																																																								
計	13	14	17	17	17	17	17	17	17	17	16	16																																																																																								
3 収益の確保と費用の節減	3 収益の確保と費用の節減	3 収益の確保と費用の節減	110	新たな診療報酬の取得可能性やDPCの係数向上等について積極的に検討を行うほか、診療報酬制度の改定に迅速に対応し、収益の確保を図ること。また、診療報酬請求漏れの防止や未収金の発生防止及び早期回収に努めること。 費用面においては、診療材料・医薬品等の適切な管理によるコスト削減に努めるほか、経営状況の分析を随時行い、費用対効果の改善に向けた進捗管理に取り組むこと。 診療報酬制度の改定に迅速に対応し、収益の確保を図る。また、様々な診療報酬の取得可能性やDPCの係数向上等について積極的な検討を行うほか、診療報酬請求漏れの防止、未収金の発生防止や早期回収に努める。 費用面においては、診療材料・医薬品等の適切な管理によるコスト削減に努めるほか、経営状況の分析を随時行い、費用対効果の改善に向けた進捗管理に取り組む。	各病院（医事） DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合（単位：％） <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>総 合</td><td>68.8</td><td>68.9</td><td>71.8</td><td>68.8</td><td>68.2</td><td>67.6</td></tr><tr><td>こども</td><td>67.8</td><td>67.6</td><td>68.1</td><td>74.2</td><td>70.5</td><td>71.9</td></tr></table> 長期入院患者率（単位：％） <table><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>こころ</td><td>37.5</td><td>43.1</td><td>44.0</td><td>42.0</td><td>41.7</td><td>36.1</td></tr></table>	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	総 合	68.8	68.9	71.8	68.8	68.2	67.6	こども	67.8	67.6	68.1	74.2	70.5	71.9	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	こころ	37.5	43.1	44.0	42.0	41.7	36.1	A	（総合） DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合を高めるため、定例医局会で月次報告を行い、入院期間Ⅱ以内の退院について協力を求めるとともに、クリニカルパス見直し等の取組を行っている。  （こころ） 患者の早期入院・早期退院に努めており、長期入院患者率が前年度を下回った。  （こども） DPC部会を開催し、状況確認や課題の解決について取り組んでいる。				110																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																														
総 合	68.8	68.9	71.8	68.8	68.2	67.6																																																																																														
こども	67.8	67.6	68.1	74.2	70.5	71.9																																																																																														
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																														
こころ	37.5	43.1	44.0	42.0	41.7	36.1																																																																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																										
						本評価	説明																																															
			111	②診療材料、薬品の廃棄状況を要因別・部門別に明らかにし、破棄・破損について、削減のための対策を講じる。	各病院  破棄・破損額 (単位：千円) <table><tr><th></th><th colspan="3">令和5年度</th><th colspan="3">令和6年度</th></tr><tr><th>区 分</th><th>診療材料費</th><th>薬品費</th><th>合計</th><th>診療材料費</th><th>薬品費</th><th>合計</th></tr><tr><td>総合</td><td>5,446</td><td>1,945</td><td>7,391</td><td>5,621</td><td>2,925</td><td>8,546</td></tr><tr><td>こころ</td><td>321</td><td>119</td><td>440</td><td>115</td><td>130</td><td>245</td></tr><tr><td>こども</td><td>2,930</td><td>3,290</td><td>6,220</td><td>2,467</td><td>3,818</td><td>6,285</td></tr><tr><td>合 計</td><td>8,697</td><td>5,354</td><td>14,051</td><td>8,203</td><td>6,873</td><td>15,076</td></tr></table>		令和5年度			令和6年度			区 分	診療材料費	薬品費	合計	診療材料費	薬品費	合計	総合	5,446	1,945	7,391	5,621	2,925	8,546	こころ	321	119	440	115	130	245	こども	2,930	3,290	6,220	2,467	3,818	6,285	合 計	8,697	5,354	14,051	8,203	6,873	15,076	A	(総合) 破棄・破損については、部署、原因、金額等の記録を徹底し、特に高額なものはインシデントレポートの提出を義務化している。また、委員会や診療科代表者会議において事象報告を行い、対応策を議論することにより、破棄・破損の削減に努めている。しかしながら、高額な診療材料や薬剤の破棄・破損があり前年同期に比べ1,155千円増加している。  (こころ) 薬品類については、前年度までの取組に引き続き、破棄・破損額の抑制のため、3病院間での薬品の譲受譲渡を推進し、不動在庫の軽減に繋げた。診療材料については、病棟内における在庫の適正化をすすめ、病棟内の在庫を減らし必要時に度発注することとして、前年度までの取組を継続して、期限切れによる廃棄の削減に努めた。  (こども) 各部署と金額等の情報共有を徹底するとともに、委員会等で破棄・破損額の情報共有、適切な在庫管理の周知を行い、破棄・破損の削減に努めている。	・経費節減の観点のみならず、使用期限切れ材料・薬品による医療事故の予防等、医療安全上の要請からも在庫管理の徹底が求められるが、診療材料、薬品の破棄・破損を抑制し経費節減を図るため、記録の徹底、院内の薬剤部における委員会での情報共有等を徹底し、有効な在庫管理に努めている。 ・病院機構における支出増の要因の一つとして、診療材料費・薬剤費の高騰があるため、引き続き破棄・破損額の削減に努めることが重要である。				111
	令和5年度			令和6年度																																																		
区 分	診療材料費	薬品費	合計	診療材料費	薬品費	合計																																																
総合	5,446	1,945	7,391	5,621	2,925	8,546																																																
こころ	321	119	440	115	130	245																																																
こども	2,930	3,290	6,220	2,467	3,818	6,285																																																
合 計	8,697	5,354	14,051	8,203	6,873	15,076																																																
			112	③積極的に施設基準を取得する。 ・診療報酬の適正請求にかかる研修会等を実施する。	各病院  (総合) 6月の診療報酬改定により施設基準の要件が変更となり、超急性期脳卒中加算、感染対策向上加算1、入院支援加算、外来腫瘍化学療法診療料1、経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)の再度の届出を行った。また、新設された項目について、人員要件、実績要件、施設要件、他施設との連携など調整を行い、診療録管理体制加算1、歯科外来診療医療安全対策加算2、歯科外来診療感染対策加算4、慢性腎臓病透析予防指導管理料、外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算、ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)、経頸静脈的肝生検、ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)、ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)、ストーマ合併症加算、緊急穿頭血腫除去術、乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法、肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法、骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法、腹腔鏡下脾中央切除術、腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法、尿道狭窄グラフト再建術、精巣温存手術、女子外性器悪性腫瘍手術センチネルリンパ節生検加算、再製造単回使用医療機器使用加算、手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)、外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)、歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)、入院ベースアップ評価料87の届出を行った。7月から患者の特定健診情報等を診療に活用できる体制等の基準を満たしたため医療DX推進体制整備加算を届出、人員及び機器等の要件を満たしたため画像誘導密封小線源治療加算(密封小線源治療)の届出を行った。9月からメディカルコントロール協議会と協議を行い救急患者連携搬送料の基準を満たしたため届出を行った。診療報酬改定の経過措置項目について、10月以降診療報酬の請求が出来るよう急性期一般入院料1等必要な項目の届出も随時行った。また、結核病棟入院基本料の基準を満たせる月においては10対1から7対1にランクアップ、看護補助者の増員等により基準を満たせる月においては、急性期看護補助体制加算を50対1から25対1にランクアップするなど状況に応じて変更の届出を行い、麻酔管理料1,2の登録医師の入退職に伴う届出、MRI機器の入れ替えに伴いCT撮影及びMRI撮影の変更、がん治療連携計画策定料の連携病院の変更の届出も随時行った。診療報酬改定にて急性期一般入院基本料の点数が改定されたことに伴い180日を超える入院の選定療養費の変更の届出を行った。令和7年1月から急性期充実体制加算(小児・周産期・精神科充実体制加算含む)の届出を行い、さらに人員体制を整備し特定集中治療室管理料(注6重症患者対応体制強化加算)の届出を行った。また、術者として経験を有する医師の配置、手術件数の基準を満たすことから腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)も届出を行った。令和7年2月から個室使用料について価格改定を行い特別の療養環境の提供について変更の届出を行った。研修の実施については、外部のコンサルタント等に研修会の講師を依頼することで、適切かつ最新の情報で研修会を開催出来ている。またこの研修会を行うことで、臨床研修病院の施設基準の要件も維持することが出来ている。  (こころ) 令和6年度診療報酬改定に伴い、以下の施設基準を新規取得、変更申請を行った。 ●施設基準の新機取得 ・診療録管理体制加算3 ・データ提出加算1・3 ・ベースアップ評価料関連  ●施設基準の変更申請 ・感染対策向上加算3→2  (こども) ●施設基準の新規取得 人員要件、診療実績、他施設との連携構築、院内施設整備、運用構築等含めたマニュアルの整備を実施。 ・ベースアップ評価料の申請 ・診療録管理体制加算1 ・保育士2名加算の届出(西3、西6病棟) ・急性期看護補助体制加算 看護補助体制充実加算の届出(西2病棟) ・療養環境加算(西2病棟) ・小児緩和ケア診療加算 ・看護職員夜間配置加算(西2病棟) ・小児補助人工心臓の申請 ・抗菌薬適正使用体制加算 ・児童思春期支援指導加算 ・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)  ●施設基準の変更申請 診療実績、人員要件を都度確認し、診療実態に合わせて、随時施設基準の変更申請を実施 ・病棟統合の届出(西2、西3病棟) ・MFICU基準取り下げ ・救急搬送看護体制加算1→2へ ・麻酔管理料1、2 ・入院ベースアップ評価料  ●研修会等の実施 ・東海北陸厚生局主催のWEB開催での集団指導に参加 ・令和6年6月の診療報酬改定に向けてWGを開催し、改定内容の説明及び新規取得項目の検討を実施。 ・令和7年1月の共同指導に向けて院内研修会を実施	S	各病院において、施設基準の新規及び変更の届出を積極的に行い、診療単価の向上に寄与している。また、研修会等を通じて、病院全体として適正請求に関する意識を高めるよう努めている。 総合病院では、年度後半には、「急性期充実体制加算」の算定が可能となるほか、人員を確保し、休床していた6A病棟を31床開床させることで増収につなげるなど施設の機能を高め、経営改善に努めている。	・新たに導入した医療技術にかかる施設基準の届出など、医療の提供体制や内容に応じた診療報酬を適正に請求するため、研修を通じた職員養成など体制づくりに取り組んでいる。 ・令和6年度は診療報酬改定があり、各病院においては新たな施設基準の取得に積極的に取り組み、収益の確保に努めた。 ・今後も、診療報酬制度の改定に際して、早期の情報収集に基づく迅速な院内体制の確保と、診療報酬事務職員の養成、医療現場への周知徹底が期待される。	✓		☆	112																																										



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																																																																																									
						本評価	説明																																																																																																																																														
			113	④SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫額減少に努める。	総合 <table><tr><td colspan="7">薬品・診療材料期限切れ廃棄額 (単位：千円)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>薬品</td><td>2,279</td><td>2,553</td><td>2,638</td><td>2,031</td><td>3,526</td><td>2,968</td></tr><tr><td>診療材料</td><td>973</td><td>627</td><td>1,631</td><td>979</td><td>668</td><td>1,790</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">薬品・診療材料在庫額 (単位：千円)</td></tr><tr><td>区分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>薬品</td><td>136,694</td><td>153,688</td><td>160,916</td><td>168,436</td><td>188,840</td><td>253,519</td></tr><tr><td>診療材料</td><td>221,511</td><td>227,708</td><td>239,545</td><td>251,101</td><td>263,420</td><td>275,672</td></tr></table>	薬品・診療材料期限切れ廃棄額 (単位：千円)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	薬品	2,279	2,553	2,638	2,031	3,526	2,968	診療材料	973	627	1,631	979	668	1,790	薬品・診療材料在庫額 (単位：千円)							区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	薬品	136,694	153,688	160,916	168,436	188,840	253,519	診療材料	221,511	227,708	239,545	251,101	263,420	275,672	A	薬品及び診療材料については、使用期限を確認し、期限切迫品の表示や使用頻度の高い部署へ移管を行うことにより、ロスを防ぐなどSPD業務の改善を図っている。しかしながら、稀な症例に使用する物品(ただし緊急時になければ困るもの)が期限切れになっており、今後も管理方法について検討を行っていく。 薬品は、SPDによる在庫管理に加え、3病院間における移管や担当職員の関与により、期限切れ廃棄額の削減と在庫額減少に努めている。 診療材料は、手術室において期限切迫品カートを設置し、使用を促している。医療の高度化により高額材料が増加したが、ピッキングリストの見直し提案等、在庫の削減に努めている。 また、原材料価格の上昇による値上げ物品の増加に伴い在庫額が増えている。	・SPDによる在庫管理により、在庫の適正種類・量の確保、期限切れ廃棄の削減等に努めている。 ・薬品在庫額については、高度な手術や高額薬剤を使用する化学療法の件数増加等の要因により増加しているが、期限切迫品の可視化による周知、使用状況に応じた他部署への移管、不動在庫のリスト化など、期限切れの抑止に努めている。 (参考) ・SPD(Supply Processing Distribution)は、薬品・診療材料等の発注、調達、物流、棚卸等を一元管理する仕組みであり、在庫の適正種類・量の確保、期限切れ廃棄の削減等に寄与している。				113																																																																																	
薬品・診療材料期限切れ廃棄額 (単位：千円)																																																																																																																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																															
薬品	2,279	2,553	2,638	2,031	3,526	2,968																																																																																																																																															
診療材料	973	627	1,631	979	668	1,790																																																																																																																																															
薬品・診療材料在庫額 (単位：千円)																																																																																																																																																					
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																															
薬品	136,694	153,688	160,916	168,436	188,840	253,519																																																																																																																																															
診療材料	221,511	227,708	239,545	251,101	263,420	275,672																																																																																																																																															
			114	④材料費等の節減のための対策を実施する。	各病院（企画） <table><tr><td colspan="7">薬品 後発品採用率（6年度3月末） (単位：%)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>総合</td><td>27.3</td><td>27.1</td><td>28.0</td><td>29.5</td><td>29.7</td><td>30.9</td></tr><tr><td>こころ</td><td>36.9</td><td>38.7</td><td>40.0</td><td>41.2</td><td>37.8</td><td>39.8</td></tr><tr><td>こども</td><td>22.4</td><td>22.1</td><td>25.5</td><td>22.8</td><td>20.0</td><td>19.9</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">診療材料コスト縮減実績 (単位：千円)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>4年度</td><td>5年度</td><td>6年度</td></tr><tr><td>総 合</td><td>82,971</td><td>71,680</td><td>132,620</td><td>81,872</td><td>116,931</td><td>120,978</td></tr><tr><td>こころ</td><td>13</td><td>3</td><td>105</td><td>99</td><td>38</td><td>32</td></tr><tr><td>こども</td><td>16,734</td><td>12,229</td><td>22,956</td><td>24,366</td><td>21,529</td><td>29,226</td></tr><tr><td>合 計</td><td>99,718</td><td>83,912</td><td>155,681</td><td>106,337</td><td>138,498</td><td>150,236</td></tr></table> <table><tr><td colspan="7">令和6年度 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td colspan="4">診療材料品目数</td><td colspan="4">薬品品目数</td></tr><tr><td></td><td>6年度当初契約数(a)</td><td>新規採用数(b)</td><td>廃止数(c)</td><td>契約数(a+b-c)</td><td>6年度当初契約数(a)</td><td>新規採用数(b)</td><td>廃止数(c)</td><td>契約数(a+b-c)</td></tr><tr><td>総合</td><td>17,665</td><td>843</td><td>449</td><td>18,059</td><td>2,982</td><td>62</td><td>32</td><td>3,012</td></tr><tr><td>こころ</td><td>397</td><td>7</td><td>24</td><td>380</td><td>64</td><td>76</td><td>628</td><td></td></tr><tr><td>こども</td><td>3,530</td><td>46</td><td>6</td><td>3,570</td><td>1,359</td><td>90</td><td>54</td><td>1,395</td></tr><tr><td>合 計</td><td>21,592</td><td>896</td><td>479</td><td>22,009</td><td>4,981</td><td>216</td><td>162</td><td>5,035</td></tr></table>	薬品 後発品採用率（6年度3月末） (単位：%)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	総合	27.3	27.1	28.0	29.5	29.7	30.9	こころ	36.9	38.7	40.0	41.2	37.8	39.8	こども	22.4	22.1	25.5	22.8	20.0	19.9	診療材料コスト縮減実績 (単位：千円)							区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	総 合	82,971	71,680	132,620	81,872	116,931	120,978	こころ	13	3	105	99	38	32	こども	16,734	12,229	22,956	24,366	21,529	29,226	合 計	99,718	83,912	155,681	106,337	138,498	150,236	令和6年度 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位：件)							区 分	診療材料品目数				薬品品目数					6年度当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	契約数(a+b-c)	6年度当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	契約数(a+b-c)	総合	17,665	843	449	18,059	2,982	62	32	3,012	こころ	397	7	24	380	64	76	628		こども	3,530	46	6	3,570	1,359	90	54	1,395	合 計	21,592	896	479	22,009	4,981	216	162	5,035	A	診療材料は共同購入の取組を継続しており、一層の価格削減を進めているほか、令和4年度以降、燃料費の高騰を受け、電気料金が上昇していることから、3病院に空調・照明をはじめとした節電対策への呼びかけを行い、電気使用量について継続的に情報共有を図るなど、経費の削減に努めている。 (総合) 診療材料の値上げ物品の増加に伴いなかなか価格交渉ができない中、共同購入では、切替活動を積極的に行った。その結果、過去最高の還元額となった。 また、後発医薬品への切り替えについては、昨年同期と比較すると、1.2%微増している。 (こころ) 診療材料、薬品とも適正な在庫管理とコスト縮減に努めている。 (こども) 後発医薬品への切り替えに当たっては、小児病院の特性から、先発品との同等性を十分に確認することが必要であるため、安全性・使用性・生物学的同等性の観点から、他小児専門病院の採用状況3病院一括での契約については、保守の必要性が低下した機器につき、随時必要性の見直しを行い変更契約している。引き続き各病院と連携し、コスト低減を図っていく。	・材料費の節減については、「トップダウン」としての診療材料採用の「一増、一減」方針の徹底、「ミドルマネジメント」としての診療材料委員会と中央材料室の機能向上、「ボトムアップ」としての全国的なベンチマークデータを活用した価格交渉など、一貫した節減努力の方向性のもとに取り組んでいる。 ・総合病院及びこども病院では、共同購入組織（一般社団法人日本ホスピタルアライアンス）に加盟して節減に努めている。 ・こころの医療センターにおいても、入院患者の持参薬への対応を見直し、臨時購入から3病院間の採用薬に切り替えるなど、在庫の削減に取り組んでいる。 ・診療報酬改定等の外的要因が病院経営に及ぼす影響を迅速・的確に把握し、分析結果を業務運営に反映することが重要である。 ・薬品費、材料費が高騰する中、品目の切替えや採用品の増加、参加分野の拡大を行うなど、積極的に経費節減に取り組んでいる。	✓	○	114
薬品 後発品採用率（6年度3月末） (単位：%)																																																																																																																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																															
総合	27.3	27.1	28.0	29.5	29.7	30.9																																																																																																																																															
こころ	36.9	38.7	40.0	41.2	37.8	39.8																																																																																																																																															
こども	22.4	22.1	25.5	22.8	20.0	19.9																																																																																																																																															
診療材料コスト縮減実績 (単位：千円)																																																																																																																																																					
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																															
総 合	82,971	71,680	132,620	81,872	116,931	120,978																																																																																																																																															
こころ	13	3	105	99	38	32																																																																																																																																															
こども	16,734	12,229	22,956	24,366	21,529	29,226																																																																																																																																															
合 計	99,718	83,912	155,681	106,337	138,498	150,236																																																																																																																																															
令和6年度 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位：件)																																																																																																																																																					
区 分	診療材料品目数				薬品品目数																																																																																																																																																
	6年度当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	契約数(a+b-c)	6年度当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	契約数(a+b-c)																																																																																																																																													
総合	17,665	843	449	18,059	2,982	62	32	3,012																																																																																																																																													
こころ	397	7	24	380	64	76	628																																																																																																																																														
こども	3,530	46	6	3,570	1,359	90	54	1,395																																																																																																																																													
合 計	21,592	896	479	22,009	4,981	216	162	5,035																																																																																																																																													
			115	④効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。	各病院（企画） 各病院において、徹底した価格交渉や価格調査を行い、入札・見積合わせ等により競争性を確保することなどにより、効率的な購入及び管理に努めている。 価格交渉では事務と連携して医師等自らも業者と交渉するほか、スケールメリットを生かした複数台購入も行っている。 価格調査では、他病院実績の調査や関係団体への照会、ベンチマーク調査により目安となる金額の把握を徹底し、適正な金額設計に生かしている。 医療機器保守委託では、3病院一括の契約を結ぶなど、機器に応じた契約や不要になった保守機器の随時の見直しを行いコスト低減を図っている。	A	3病院一括での契約については、保守の必要性が低下した機器につき、随時必要性の見直しを行い変更契約している。引き続き各病院と連携し、コスト低減を図っていく。	・医療機器導入にあたっては、業者間・機種間の競争性を確保するとともに、ベンチマークの活用、保守契約の見直し等により、効率的な調達を図っている。				115																																																																																																																																									
			116	④複数年契約や集約化等による契約方法の見直しを継続的に実施する。	各病院（企画） 委託費の節減を図るため、契約更新時に引き続き一括化・複数年化を行うか適するか検討している。 コスト削減による業務水準の低下を防ぐため、一部の委託については、定期的にモニタリング(委託業者の業務を評価)を行い、質の維持・向上を図っている。 <table><tr><td colspan="5">6年度 委託契約等の見直し状況 (単年度ベース・令和6年度) (単位：千円)</td></tr><tr><td>業務名(連携)</td><td>連携</td><td>年数</td><td>期間</td><td>種類 令6決算額</td></tr><tr><td>感染性産業廃棄物処理業務委託</td><td>3病院</td><td>3年</td><td>令5.4～令8.3</td><td>単価 64,241</td></tr><tr><td>寝具類貸貸借</td><td>3病院</td><td>3年</td><td>令5.4～令8.3</td><td>単価 109,128</td></tr><tr><td>消防設備点検業務委託</td><td>3病院</td><td>3年</td><td>令5.4～令8.3</td><td>定額 10,647</td></tr><tr><td>庭園管理業務委託</td><td>心・子</td><td>3年</td><td>令5.4～令8.3</td><td>定額 9,863</td></tr><tr><td>医療機器等保守点検業務委託</td><td>3病院</td><td>1年</td><td>令6.4～令7.3</td><td>定額 307,565</td></tr><tr><td>放射線機器保守管理等業務委託</td><td>3病院</td><td>1年</td><td>令6.4～令7.3</td><td>定額 339,580</td></tr><tr><td>シーメンス社製医療機器保守業務委託</td><td>総・子</td><td>1年</td><td>令6.4～令7.3</td><td>定額 95,710</td></tr><tr><td>建築基準法の定期報告業務委託</td><td>3病院</td><td>1年</td><td>令6.6～令7.3</td><td>定額 47,916</td></tr><tr><td colspan="4">合 計</td><td>984,650</td></tr></table> <table><tr><td colspan="4">6年度 委託モニタリング評価結果 (令和6年度)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>第1期</td><td>第2期</td><td>第3期</td></tr><tr><td>給食</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr><tr><td>区 分</td><td>第1四半期</td><td>第2四半期</td><td>第3四半期</td><td>第4四半期</td></tr><tr><td>清掃</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr><tr><td>警備 (心・子)</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr><tr><td>医事 (総・心)</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td><td>可</td></tr></table> ※業務に関するアンケートや業務提案の有無などにより業務内容の評価。 ※○％：業務実績が不良だったため、契約に基づき委託料を一部減額したもの	6年度 委託契約等の見直し状況 (単年度ベース・令和6年度) (単位：千円)					業務名(連携)	連携	年数	期間	種類 令6決算額	感染性産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価 64,241	寝具類貸貸借	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価 109,128	消防設備点検業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	定額 10,647	庭園管理業務委託	心・子	3年	令5.4～令8.3	定額 9,863	医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	令6.4～令7.3	定額 307,565	放射線機器保守管理等業務委託	3病院	1年	令6.4～令7.3	定額 339,580	シーメンス社製医療機器保守業務委託	総・子	1年	令6.4～令7.3	定額 95,710	建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	令6.6～令7.3	定額 47,916	合 計				984,650	6年度 委託モニタリング評価結果 (令和6年度)				区 分	第1期	第2期	第3期	給食	可	可	可	区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	清掃	可	可	可	可	警備 (心・子)	可	可	可	可	医事 (総・心)	可	可	可	可	A	複数病院で集約化した委託費等の契約は20件、うち複数年化を行ったものは、16件に上っており、一括化・複数年化による費用削減及び事務の簡素化につながっている。 医事や警備を始めとした一部の委託については、定期的にモニタリング(委託業者の業務を評価)を行い、質の維持・向上が図られている。	・委託業務については、複数年契約、複数病院一括契約等の工夫により、経費節減を図っている。 ・委託モニタリング制度は、成績不良の場合、契約解除や委託料の減額等の対応が取られる一方、企業側も努力すれば契約延長等のメリットがあることから、緊張感を持った業務執行により、業務の質の向上が期待できる工夫である。				116																																																		
6年度 委託契約等の見直し状況 (単年度ベース・令和6年度) (単位：千円)																																																																																																																																																					
業務名(連携)	連携	年数	期間	種類 令6決算額																																																																																																																																																	
感染性産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価 64,241																																																																																																																																																	
寝具類貸貸借	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価 109,128																																																																																																																																																	
消防設備点検業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	定額 10,647																																																																																																																																																	
庭園管理業務委託	心・子	3年	令5.4～令8.3	定額 9,863																																																																																																																																																	
医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	令6.4～令7.3	定額 307,565																																																																																																																																																	
放射線機器保守管理等業務委託	3病院	1年	令6.4～令7.3	定額 339,580																																																																																																																																																	
シーメンス社製医療機器保守業務委託	総・子	1年	令6.4～令7.3	定額 95,710																																																																																																																																																	
建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	令6.6～令7.3	定額 47,916																																																																																																																																																	
合 計				984,650																																																																																																																																																	
6年度 委託モニタリング評価結果 (令和6年度)																																																																																																																																																					
区 分	第1期	第2期	第3期																																																																																																																																																		
給食	可	可	可																																																																																																																																																		
区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期																																																																																																																																																	
清掃	可	可	可	可																																																																																																																																																	
警備 (心・子)	可	可	可	可																																																																																																																																																	
医事 (総・心)	可	可	可	可																																																																																																																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令6)	令和6年度実績 自己評価		県評価 (令和6年度本評価)	重点	数値	評価	No.																																																																															
						本評価	説明																																																																																				
			117	⑤弁護士事務所への未収金回収業務委託を活用し、未収金の縮減、効率的な回収を実施する。 ⑤未収金に関する研修や、弁護士事務所への相談等により、事務担当者のレベルアップを図る。	本部・各病院（経営）  平成24年度から弁護士法人へ委託先を変更。  未収金回収実績（弁護士事務所委託分） <div>単位：百万円</div> <table><tr><th>年度</th><th>新規 委任金額</th><th>回収額</th><th>累計回収率</th></tr><tr><td>元年度</td><td>26</td><td>20</td><td>76.9%</td></tr><tr><td>2年度</td><td>30</td><td>16</td><td>64.3%</td></tr><tr><td>3年度</td><td>24</td><td>12</td><td>60.0%</td></tr><tr><td>4年度</td><td>32</td><td>17</td><td>58.0%</td></tr><tr><td>5年度</td><td>24</td><td>13</td><td>57.4%</td></tr><tr><td>6年度</td><td>65</td><td>15</td><td>46.3%</td></tr></table>	年度	新規 委任金額	回収額	累計回収率	元年度	26	20	76.9%	2年度	30	16	64.3%	3年度	24	12	60.0%	4年度	32	17	58.0%	5年度	24	13	57.4%	6年度	65	15	46.3%	A	累計回収率については、令和元年度以降45%を超えており、令和6年末時点で46.3%となった。 平成23年度以前に委託していたサービスの回収率が20.4%であったのに対して、高い回収率を維持している。	・平成24年度に未収金回収業務の委託先を債権回収会社から弁護士法人に変更して以降、回収率は高水準を維持している。 ・未収金が発生した場合の処理マニュアルから最終的な貸倒損失処理対応に至るまで、一貫して適切な手順が取れるよう体制が整備されている。				117																																																			
年度	新規 委任金額	回収額	累計回収率																																																																																								
元年度	26	20	76.9%																																																																																								
2年度	30	16	64.3%																																																																																								
3年度	24	12	60.0%																																																																																								
4年度	32	17	58.0%																																																																																								
5年度	24	13	57.4%																																																																																								
6年度	65	15	46.3%																																																																																								
第4 財務内容の改善に関する事項	第4 予算、収支計画及び資金計画	第3 予算、収支計画、資金計画及び収支予算等	－	－	－		－																																																																																				
地域の医療提供体制を確保し、良質な医療を提供していくため、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、第4期中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とし、持続可能な経営に努めること。 業務運営に当たっては、日頃から経営状況を的確に把握するとともに、社会保障制度の見直しや診療報酬制度の改定など、病院経営に大きく関わる環境変化に対しても適切な対応を図ること。これらの取組を通じて、中長期的な病院運営の健全化や経営基盤の強化を図ること。	「第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、第4期中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすることを旨とする。 業務運営に当たっては、日頃から経営状況を的確に把握し、社会保障制度の見直しや診療報酬制度の改定など、病院経営に大きく関わる環境変化に対しても適切な対応を図り、経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上に努める。これら取組を通じて、中長期的な病院運営の健全化や経営基盤の強化を図る。		118	新規施設基準取得などによる増収への取組みと業務見直しによる支出節減への取組みを効率的に進めることにより、各病院が各年度における黒字化を目指す。	各病院（経営）  経常収支の状況 <div>（単位：％）</div> <table><tr><th>区分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>6目標※</th></tr><tr><td>総合</td><td>100.6</td><td>100.6</td><td>102.4</td><td>100.9</td><td>98.4</td><td>97.5</td><td>－</td></tr><tr><td>こころ</td><td>103.1</td><td>108.6</td><td>106.8</td><td>103.9</td><td>98.2</td><td>95.9</td><td>－</td></tr><tr><td>こども</td><td>101.4</td><td>102.3</td><td>102.9</td><td>100.6</td><td>93.3</td><td>93.7</td><td>－</td></tr><tr><td>機構全体</td><td>100.9</td><td>101.5</td><td>102.7</td><td>101.0</td><td>97.1</td><td>96.5</td><td>100.0</td></tr></table> 目標：第4期目標期間を累計した損益計算において経常収支100%以上  修正医業収支の状況 <div>（単位：％）</div> <table><tr><th>区分</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th><th>5年度</th><th>6年度</th><th>6目標※</th></tr><tr><td>総合</td><td>91.5</td><td>87.9</td><td>91.1</td><td>88.0</td><td>88.8</td><td>88.3</td><td>－</td></tr><tr><td>こころ</td><td>64.0</td><td>63.3</td><td>63.3</td><td>62.0</td><td>60.2</td><td>60.1</td><td>－</td></tr><tr><td>こども</td><td>75.6</td><td>70.7</td><td>71.0</td><td>71.4</td><td>68.4</td><td>69.3</td><td>－</td></tr><tr><td>機構全体</td><td>85.9</td><td>82.2</td><td>84.6</td><td>82.5</td><td>82.2</td><td>82.0</td><td>85.0</td></tr></table> 目標：第4期目標期間を累計した損益計算において修正医業収支85%以上	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6目標※	総合	100.6	100.6	102.4	100.9	98.4	97.5	－	こころ	103.1	108.6	106.8	103.9	98.2	95.9	－	こども	101.4	102.3	102.9	100.6	93.3	93.7	－	機構全体	100.9	101.5	102.7	101.0	97.1	96.5	100.0	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6目標※	総合	91.5	87.9	91.1	88.0	88.8	88.3	－	こころ	64.0	63.3	63.3	62.0	60.2	60.1	－	こども	75.6	70.7	71.0	71.4	68.4	69.3	－	機構全体	85.9	82.2	84.6	82.5	82.2	82.0	85.0	C	第4期中期計画(令和6年度～令和10年度)の初年度となる令和6年度は、令和5年度に引き続き、物価高騰に伴う材料費や経費の増加などの影響により、修正医業収支比率は82.0%、経常収支比率は96.5%、経常損失は19億7,100万円となった。 全国の自治体病院が総じて厳しい状況に置かれている中、病院機構では各病院の医業活動における経営状況を判断する指標として修正医業収支比率を新たに目標に設定した。各病院では様々な経営改善の取組を行い患者数も回復傾向にあるものの、目標とする修正医業収支比率には至っていないことから、一層の経営改善に努めることとする。	・令和6年度は、3病院で入院・外来患者数が対前年度比増となったことに伴い収益が増加した一方で、物価高騰や働き方改革に伴う人件費増加の影響により、収益以上に費用が増加した。 ・結果として、修正医業収支比率81.9%、経常収支比96.5%となり、約19.7億円の経常収支赤字となった。 ・支出増においては、特に診療材料費・薬品費の増が大きく、必要な提供量を確保しつつ経費節減に取り組まれない。 ・少子高齢化の進行や患者の受療行動の変化など、地域における将来の医療需要を見据え、今後の運営方針を検討していくことを期待するとともに、県立病院として持続可能な運営を行っていくためにも、高度・専門医療の提供と財政健全化の両立が求められる。 ・令和7年4月から立ち上げた経営改善ワーキング・グループにおいて、各病院における課題を検討のうえ、収益確保及び費用の節減、業務運営の改善・効率化の取組を進める必要がある。	✓	▼	118
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6目標※																																																																																				
総合	100.6	100.6	102.4	100.9	98.4	97.5	－																																																																																				
こころ	103.1	108.6	106.8	103.9	98.2	95.9	－																																																																																				
こども	101.4	102.3	102.9	100.6	93.3	93.7	－																																																																																				
機構全体	100.9	101.5	102.7	101.0	97.1	96.5	100.0																																																																																				
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6目標※																																																																																				
総合	91.5	87.9	91.1	88.0	88.8	88.3	－																																																																																				
こころ	64.0	63.3	63.3	62.0	60.2	60.1	－																																																																																				
こども	75.6	70.7	71.0	71.4	68.4	69.3	－																																																																																				
機構全体	85.9	82.2	84.6	82.5	82.2	82.0	85.0																																																																																				